

但シ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第七號乃至第九號、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 商業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條 商業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項竝ニ第十五條第七號ニ掲ゲタル事項、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項竝ニ第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 第十九條ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得第十七條ノ二 第三條第一項第一號及第二項竝ニ第三條ノ二ノ事業ヲ行ハザル商業組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第十七條ノ三 行政官廳當該商業ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル商業組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得但シ其ノ組合ノ組合員數ガ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ數ノ三分ノ二以上ナル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル商業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第二十七條ノ三第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條ノ二 第三條第一項第二號ノ事業ヲ行フ商業組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノハ第九條若ハ第十七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル商業組合又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ノ理事ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス  
第一項ニ掲ゲタル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十二條ノ二 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看

做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第二十三條第一項中「ノ一部」ヲ削ル

第二十六條中「又ハ定款」ヲ「定款又ハ第七條ノ規程」ニ改ム

第二十七條第四號ヲ第五號トシ同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 第三條ノ二又ハ第三條ノ六第一項ノ許可ノ取消

第二十七條ノ二 行政官廳當該商業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ商業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ商業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス  
第二十七條ノ四 行政官廳第二十七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ商業組  
合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ五 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ第三條第一項第一號及第二項竝ニ第  
三條ノ二ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第二十七條ノ六 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ  
於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十七條ノ七 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムル  
コトヲ得ズ

第二十七條ノ八 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十九條中「設立セントスルトキ」ノ下ニ「又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十七  
條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキ」ヲ加フ

第三十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ規定ハ第三十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合聯  
合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十一條第二項中「受クベシ」ヲ「受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ」ニ改ム

第三十二條中「商業組合ニ關スル規定ハ」ノ下ニ「第三條ノ二乃至第三條ノ五、第九條ノ三及」ヲ  
加ヘ同條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第三條、第三條ノ六及第三條ノ八中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トシ第  
二十一條ノ二中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三十三條第二項中、「總會又ハ創立委員會ノ決議録」ヲ「又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設  
立アリタルコトヲ證スル書面」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因リテ成立シタルモノニ  
在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂  
込アリタルコトヲ證スル書面、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニシテ行政官廳ノ處分  
ニ因ラズシテ成立シタルモノ又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ出資ノ總口  
數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セ

第三十七條中「第三十五條乃至第三十七條」ヲ「第三十五條、第三十六條」ニ改メ「第四百條ノ規定」ノ下ニ「(第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニシテ第十七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルモノニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テハ産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十三條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第一號第三號、第六十三號ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク)」ヲ加フ

第三十七條ノ二 左ノ場合ニ於テハ商業組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 第三條ノ二ノ規定ニ違反シ行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第二十七條第四號ノ規定ニ依ル處分ニ違反シテ商品券ヲ發行シタルトキ
- 二 第三條ノ六ノ規定ニ違反シ行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第二十七條第四號ノ規定ニ依ル處分ニ違反シテ商業組合倉庫證券ヲ發行シタルトキ
- 三 本法ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

第三十八條第三號ヲ第四號トシ以下順次繰下ゲ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

第三十九條中「第四條第二項」ノ下ニ「(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

第四十條中「前二條」ヲ「前三條」ニ改ム

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 第九條ノ三ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ商業ヲ營ミタル者、商業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ營業ニ關シ前項ノ罪

ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ二 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ二ノ規定(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第四十七條 商業組合中央會ハ商業組合及商業組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

商業組合中央會ハ法人トス

第四十八條 商業組合中央會ハ其ノ名稱中ニ商業組合中央會ナル文字ヲ用フベシ

第四十九條 商業組合中央會ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ其ノ設立ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ  
商業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 商業組合及商業組合聯合會ハ商業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ商業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第五十一條 商業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定

五 會員ノ權利義務ニ關スル規定

六 資産ニ關スル規定

七 事業及其ノ執行ニ關スル規定

八 役員ニ關スル規定

九 會議ニ關スル規定

十 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第五十二條 商業組合中央會設立ノ認可アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一 前條第一號、第二號及第十號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 資産ノ總額

第二章 議事

第四節 議案

第一款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

四 設立認可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 商業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ  
第五十四條 商業組合中央會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ會員タル商業組合若ハ商業組合聯合會ノ理事若ハ監事又ハ第五十條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ノ選任方法ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條 第四條第二項、第二十條、第二十二條、第二十四條、第二十六條、第二十七條、及第三十三條乃至第四十條ノ規定ハ商業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第三十七條ノ規定ニ依リ準用シタル非訟事件手續法第四百一條並ニ産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定ヲ除ク

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條ノ二第一項(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル商業組合又ハ商業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

登録税法第十九條第七號中「商業組合聯合會」ノ下ニ「商業組合中央會」ヲ加フ

右ハ昭和十三年二月九日貴族院ニ提出ス同院ハ三月二日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月四日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ吉野商工大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只令議題トナリマシタ商業組合法中改正法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、我國ノ中小商業者ノ疲弊困憊ノ由テ來ル原因ハ色々アラウト思ヒマスガ、業者自身ノ經營ノ不合理、業界ノ無統制ニ因ルコトモ少クナイノデアリマシテ、是等ニ基ク諸般ノ弊害ハ、商業組合制度ノ發達ニ依リマシテ、漸次改善セラレツ、アルノデアリマス、併ナガラ現行制度ハ尙ホ其事業活動ノ範圍並ニ統制確保ノ方法ニ付キマシテ、遺憾ノ點ガ少クナイノデアリマシテ、是ガ整備ヲ圖ル必要ガアリマス、殊ニ第七十一議會ニ於キマシテ、ソレノ御協賛ヲ經マシテ、貿易組合法ヲ制定シ、工業組合法ヲ改正シ、以テ貿易統制ノ確立ト、之ニ對應スル關係工業者方面ノ統制確保ヲ圖ツタノデアリマス、ソコデ右ニ關聯致シマシテ、配給業者タル商業者ノ方面ニ於キマシテモ、綜合的ノ統制ヲ圖ルニ適當ナル組織ヲ必要ト致スノデアリマス、仍テ此際商業組合法中一部ノ改正ヲ行ヒマシテ、右ノ色々ナ事情ニ鑑ミマシテ、商業組合ノ事業範圍並ニ其ノ統制機能ヲ擴充致シマスト共ニ、統制確保ノ方法ヲ講ジ、之ニ伴ツテ商業組合ニ對スル監督規定ヲ

補充致シマス外、商業組合ノ中樞的指導機關デアリマスル商業組合中央會ノ制度ヲ法制上認メ  
ル等、商業組合制度ヲ整備致シタイト存ズルノデアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛ヲ與ヘ  
ラレンコトヲ希望致シマス

原玉重君及北勝太郎君質疑ヲ爲シ吉野商工大臣應答ス

原玉重君ノ質疑

只今上程サレマシタ商業組合法中改正法律案ニ付キマシテ、一三ノ項目ニ互ツテ商業大臣ニ御  
尋致シタイト存ジマス、最近特ニ電力國家管理案等ノ上程セラレマスルニ從ツテ、事業ヲ爲シ、  
或ハ資本家トモ謂ハル、方ノ向キニ於テ、斯ノ如キ事情デハ一體將來ドウナルデアラウカ、此  
電力國家管理案ヲ目シテ自由經濟ノ最後ノ防波堤ナリトシ、其一角ノ崩ル、場合ニ於テハ、一  
體何處マデ此國家管理ノ手、又ハ統制ナドノ手が伸ビルノデアラウカ、中ニハ斯ノ如キ状態デ  
ハ、我國ハ當ニ社會主義ノ國家ト相成ルモノデハナイカナドト、頗ル憂慮ヲシテ居ル向キモア  
ルノデアリマス、又最近或ハ輸入統制ヲセラレ、其他事業ノ統制ヲ加ヘラレルニ付キマシテ  
ハ、諸物價ハ騰貴スル、中ニハ日常必需品マデモ購入スルコトガ、頗ル困難ナ状態ニ相成リマ  
シタノデ、一般大衆ト致シマシテモ、將來日本ノ經濟政策ガドンナ行ハレルノデアラウカ、  
吾々ノ生活ノ安定ガ果シテ得ラレルデアラウカト憂慮スル向キモアルノデアリマス、私ハ是ニ  
於テカ商工大臣ニ於キマシテ、此現在ノ状態ニ於テ、經濟政策ヲ一體ドウ行ツテ行カウトセラ  
レルノデアアルカ、行ハレル所ノ經濟政策ノ根本方針ヲ、此處ニ於テ丁寧親切ニ國民ニ向ツテ發  
表セラレテ、以テ總テノ疑心暗鬼ヲ除イテ戴キタイト思フ次第デアリマス、先般ノ當議場ニ於  
キマシテモ、自由主義ヲ飽迄モ守ルノダト云フコトヲ、言明シタ宜イダラウト云フヤウナ説  
ヲ言ハレル人モアリマシタガ、果シテ此自由主義ヲ飽迄モ守ルベキデアラドウカ、共產主義  
ヤ社會主義ノ宜シクナイコトハ別ト致シマシテモ、此自由主義、自由經濟ヲ何處マデドウ云フ

程度ニ守ツテ行クノカ、ソレトモドウ云フ點ニ於テ宜シクナイ點ガアルカラ、之ヲ如何ナル方  
法デ如何ナル程度ニ是正シヨウトスルノデアアルカ、所謂全體主義ナドト言ハレテ居ル向キモア  
リマスルガ、此全體主義ニ依ツテ將來經濟政策ヲ行ツテ行カント欲スルノデアアルカ、此點ニ付テ  
ノ經濟政策ノ根本方針ニ付テ、至極丁寧親切ニ、速記録ヲ一讀致シマシタナラバ、國民ノ何人  
ニモ了解出來マスルヤウナ、商工大臣ノ御説明ヲ御願致シタイト思フ次第デアリマス、第二ニ  
ハ、之ニ關聯シテ組合ニ關スル政策デアリマス、私ハ此前ノ議會ニ於テモ申述ベタコトガアル  
ト思ヒマスルガ、大體日本ノ現在ノ組合ニ對スル法規ト云フモノハ、殆ド目茶苦茶デアアル、或  
人曰ク、現在ノ農林省、商工省ナドニ於ケル此組合ニ對スル觀念ハ、所謂膏藥貼リデアアル、其  
日暮シデアアル、ドウ云フ方針ヲ以テ、此組合ニ關スル制度ヲ運用シテ行カウトスルノデアアルカ  
ト云フヤウナ風ニ言フ向キモアリマスルガ、政府ハ此際或ハ産業組合、或ハ輸入組合、商業組合、工  
業組合、重要物産同業組合、是等總テノ組合ニ通ズル根本ノ精神ヲ立直シテ、オ互ニ摩擦相剋  
ノナイヤウナ工合ニ、根本的ニ法規ノ改正ヲ行フ御用意ナキヤ、是等組合ニ對スル政策ノ指導精  
神ヲ御持チデアリマシタナラバ、此處ニ於テ發表シテ戴キタイトシ、若シ左様ナ指導精神ガナイ  
ト致シマシタナラバ、是カラ直チニ此方面ニ向ツテ指導精神ヲ御作リニナツテ、一貫セル所ノ組  
合政策ヲオヤリニナル御考ガナイカドウカ、之ヲ御尋致シタイト思フ次第デアリマス、第三ハ  
重要物産同業組合法ニ付テデアリマスルガ、先程御答辯ヲ御願致シマシタ現在ノ經濟政策ヲ、  
如何ヤウナ指導精神ヲ以テヤルカト云フコトニ付キマシテ、自由經濟ヲ相當是正スルトカ、全  
體主義的ニヤツテ行カウト云フヤウナ御方針デアリマシタナラバ此重要物産同業組合法ヲ御利  
用ナサルコトガ、一番適當デハナイカト思フノデアリマス、重要物産同業組合法ハ三十有餘年  
ノ歴史ヲ持ツテ居ル、何百万人ノ組合員ヲ持ツテ居ル、殆ド之ニ關聯スル職業ヲ營ム總テノ國民ガ  
組合ニ加入シテ居ルノデアリマシテ、十分今迄ニ經驗モ積ンデ居リマス、是ニ於テカ此組合法  
ニハ勿論相當イケナイ所モアリマセウカラ、法規ヲ改正致シマシテ、之ヲ十分活動致サセマシタ  
ナラバ、只今ノ經濟政策ノ是正ト云フヤウナ點ニ付キマシテ、相當ナ働キヲ爲スコトガ出來ル

ノデアリマセウシ、又他ノ組合ハソレノニ特徴ガアルト致シマシテモ、斯様ナ意味ニ於キマシテ、將來ノ日本ノ經濟政策ヲ行フ上ニ於テハ、將ニ此重要物產同業組合法ノ根本精神ニ立歸ツテ、幾分ノ改正ヲ致シマス。此組合ヲ利用スル所ニ於テ、始メテ全體主義的ナ、或ハ自由主義的ナ經濟ヲ相當正スルコトノ出來ル、理想的ノ經濟機構ガ出來上ルノデアリカト思フノデアリマス、即チ重要物產同業組合法ヲ改正爲サル御意思ハナイカ、之ニ土臺ヲ置イテ我國ノ經濟機構ノ改革ヲ御計畫ニナル御意思ハナイカドウカヲ御伺致シタイト思ヒマス、第四ニ、只今上程ニナリマシタ商業組合法ノ改正ハ、組合員ニ全然出資ヲセナクテモ宜イトカ、又ハ統制ヲ爲サシムルトカ、或ハ強制加入權モ與ヘルト云フヤウナ點デ、殆ド重要物產同業組合ト何等變ハルコトノナイモノヲ、茲ニ御作りニナルヤウナ風ニ見エルノデアリマス、即チ商業組合トカ輸出組合トカ云フ方ハ營利ヲ目的トシテ、自分ノ共同施設ニ付テ各種ノ事業ヲ爲スト云フ方面ニ於テハ、成程必要デアラウト思ヒマス。其方面ニ向ッテ益、組合ノ威力ヲ發揮スルヤウナ風ニ改正爲サルコトハ適當デアラウト思ヒマス、自分ノ組合内ノ統制ヲ圖ルトカ、製品ノ検査ヲ爲ストカ云フヤウナ方面ニ付キマシテハ、重要物產同業組合法ト云フモノガアリマス。此方面ニ一切ヲ任セテ、之ニ依ッテ行クノガ一番適當デハナイカト思フノデアリマス、商業組合、工業組合ハ主トシテ營利方面ニ向ッテドシ、發展セシメル、同業組合ノ方ニハ検査トカ統制トカ云フヤウナコトヲヤラセルト云フ工合ニシタ方ガ宜イト考ヘマス。現在ノ改正ノ案ト致シマシテハ、ドチラガドウカ分ラナイヤウナ工合ニ、同ジヤウナモノヲ蘇ニ作ッテシマハウト爲サルヤウナ風ニ見エルノデアリマス、重要物產同業組合ノ方ハ、モウ三十何年ノ歴史ヲ持ッテ居ル、俗ニ一般ノ人ガ言ッテ居ルノニハ、重要物產同業組合ノ方對シテハ、先妻ノ子供ミタヤウニ、一向何等ノ考慮ヲ拂ハレナイ、最近出來タ後妻ノ若イ方ヲ期セラレルヤウナ風ニセラレル、ト云フヤウナ非難ヲ爲ス人モアリマス。法律ヲ改正シ、其發達ナイ改正ヲシテ、サウシテ同業組合法ト同ジヤウナモノヲ作ラウト爲サル場合ニ於テハ、斯様

ナ風ニ一ツノ感情ニ依ッテ、或ハ自分ノ方ノ手デ作ッテ組合デアリマスカラ、成ベク發達サセテヤラウト云フヤウナ風ノ感情的ノ御考ダケデ、ドシノ、オヤリニナルト云フヨリ外ニ、何等理由ガナイヤウニ見ケザルヲ得ナイノデアリマス、詰リ左様ナ意味ニ於テ、折角同業組合ガアルノニ、此商業組合ヤ工業組合ヲ改正シナクテハナラナイ根本ノ理由ヲ、御説明願ヒタイト思フノデアリマス、第五ト致シマシテハ、只今上程ニナリマシタ商業組合法ノ第十七條ノ二トカ、二十七條ノ二トカ云フヤウナ改正ガ行ハレマシテ、強制加入ヲ許サレルトカ、或ハ新シイ組合ノ設立ヲ命ゼラレルトカ云フヤウナ工合ニ相成ルノデアリマス。此條文ノ適用如何ニ依リマシテ、今迄現ニアル同業組合ノ其地域内ニ、ドシノ、ト強制加入ヲ必要トスル商業組合ガ設立セラレ、或ハ左様ナ政府ノ命令ガ出サレルト云フコトニ相成リマス。必ズヤソコニ種々ノ摩擦相剋ガ起ルニ違ヒナイト思フノデアリマス、現ニ昨年改正サレマシタ工業組合法ナドニ付キマシテモ、相當摩擦相剋ヲ生ジテ居ル、或ハ二重三重ノ負擔ヲ命ゼラレテ、組合員ノ迷惑ヲ蒙ッテ居ル方モ現實ニアルノデアリマス、商業組合ガ斯様ナ點ニ於テ改正セラレマシテ、同業組合ガアル地域ニドシノ、ト、此十七條ノ三ヤ二十七條ノ二ガ適用セラレルヤウナ場合ニ於キマシテハ、必ズ相剋摩擦ヲ生ズルコトデアラウト思ヒマス。是等ノ適用ニ付テ何等カ政府ニ於テハ御考ガアリマス。如何ナル範圍、如何ナル制限ノ下ニオヤリニナラウトセラレルデアルカ、ソレヲ併セテ御説明願ヒタイト考ヘル次第デアリマス、以上五項ニ對シテ簡單ナ質問ヲ致シマシタガ、御答辯ハドウカ十分丁寧親切ニ、私ノ方ノ大體ノ意ノアル所ヲ酌取ツテ、詳細ニ一ツ御願致シタイト思ヒマス

吉野商工大臣ノ應答

只今ノ御質問ニ御答致シマス、第一ノ點ハ經濟政策ノ根本ニ關スル御尋デゴザイマス。私ハヤハリ民間當業者ノ自由活潑ナル發意ニ基クト云フコトガ、産業經濟ヲ發達セシムル上ニ於キマシテ、最モ效果ガアルト云フコトヲ平素固ク信ジテ居ル者デアリマス、隨ヒマシテ所謂



經濟上ノ自由主義ト云フモノニ對シマシテハ、多分ノ眞理ヲ含ンデ居ル、又現在ノ産業經濟ハ之ニ依ッテ今日ノ發達ヲ來シタノデアリ、又將來モ之ニ依ッテ大イニ發達ヲ來サナケレバナラナイモノダト、斯ウ云フ信念ヲ持ッテ居ルノデアリマス、唯所謂自由主義ニハ又自由主義ニ伴フ弊害アルコトハ、是ハ御承知ノ通りデアリマス、過當ナル競争ヲスル、過當ナル競争ノ結果業界ノ秩序ヲ紊ル、サウ云フヤウナコトニ付キマシテハ、此弊害匡正ノ爲ニ、ヤハリ國家ノ權力ガ之ニ介入スルト云フコトモ已ムヲ得ナイト云フコトハ、詳シク述ブル必要モナイダラウト存ズルノデアリマス、ソレカラ又最近ノ——何ト申シマスカ、事變下、或ハ最近ノ國際情勢ト申シマスカ、國防ノ見地カラ國家ノ産業經濟ノ體系ヲ整ヘナケレバナラナイ、斯ウ云フヤウナ見地カラ考ヘマスルト、從來ノ自由主義ト云フモノノ基礎ノ下ニ發達致シマシタ現在ノ産業經濟ノ體制デハ、國防ノ目的ヲ貫徹スルニ遺憾デアアル、斯ウ云フ點ガ中々少クナイノデアリマスカラ、サウ云フ見地ニ於キマシテ、サウ云フ角地カラ此經濟上ノ自由主義ニ對シマシテ、國防ニ非常ニ縁ノ深イ重要ナル産業ニ付キマシテハ、ヤハリ又國家ガ之ニ介入シ、或ハ干涉シ、或ハ管理スル、サウ云フヤウナ方面ノ必要モ段々生ジテ參ルダラウト思フノデアリマス、要スルニ國家ノ統制ト云フコトト經濟上ノ自由主義ト云フコトハ、私ハ其間ニ調節ハ付ク、又調節ヲ付カシテ我國ノ産業經濟ノ發達ヲ圖ラナケレバナラナイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、第二ノ御尋ハ組合ノコトデゴザイマシタガ、御話ノ通り組合ハ産業組合ガアリ、商業組合ガアリ、工業組合ガアリ、同業組合ガアル、色々複雑デゴザイマス、併ナガラ一貫シタル其指導精神ト申シマスカ方針ハ、要スルニ此社會ノ中産階級ト云フモノノ維持發展、是ガ一貫シタル方針デゴザイマス、唯部分的ニ、仰セニモナリマシタ通りニ、組合ノ間ノ相剋ト申シマスカ、色々ナヲ取ルコトニ努メタイト思ヒマスルシ、又組合法制ガ少シク複雑ニ過ギルト云フ點モ、當局ニ於テモ考ヘテ居リマスルカラ、是ハ成ベク組合法制ト云フモノモ簡單ニ整理致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、第三ニ同業組合ニ關スル御所見ガゴザイマシタガ、私共ト致シマシテモ同

業組合ト云フモノノ本質、又機能、又今日マデノ日本ノ經濟ノ發達ニ盡シマシタ功績ニ付キマシテハ、十分認識ヲシテ居ル積リデゴザイマス、唯時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、現在ノ同業組合ノ制度ハ、御承知ノ通りニ非常ニ舊イノデアリマシテ、今日ノ時勢ノ進運ニ副ハナイ憾ヲ持ッテ居ル點モゴザイマスルカラ、此點ハ十分ニ將來ノ立法改正ノ問題トシテ考慮ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、其節ニ御示ニナリマシタヤウナ點モ十分考慮ニ入レタイト考ヘテ居リマス、決シテ當局ト致シマシテハ同業組合ト云フモノヲ輕視スル、新シク作ッタ組合ダケニ對シテ、故ラニ保護助成ノ方法ヲ用ヒルト云フヤウナ考ハナイノデアリマス、而シテ今度ノ改正案ノ商業組合ト同業組合トノ統制ノ御尋ニ付キマシテハ、御話ノ通りニ統制本位ノ商業組合ニナリマス、同業組合ト餘程近イモノニナッテ參リマス、唯從來ノ同業組合ト云フモノハ、立法ノ精神、規定、或ハ沿革上、弊害矯正ト云フ消極的ノコトニ限ラレテ居ルノデアリマシテ、今度ノ統制ハ全國的ニ互ッテ物ノ配給ヲスルト云フヤウナ積極的ノコトヲ爲サナケレバナラヌノデアリマスルカラ、サウ云フ仕事ヲヤリマスル爲ニハ、現在ノ制度ノ下ニ於キマシテハ、同業組合制度ヨリモ、統制本位ノ商業組合ヲ認メル方ガ適切デアアル、斯様ニ考ヘマシタ次第デゴザイマス、而シテサウ云フ譯デアリマスルカラ、統制的ノ商業組合ヲ作リマス場合ハ、全國ヲ區域トスルト云フヤウナコトガ多イノデアリマス、隨ヒマシテ御心配ニナッタヤウナ數條ノ規定ニ依ッテ、同業組合トノ間ニ摩擦ヲ生ズルト云フヤウナコトハアリマセヌヤウニ極力注意致シテ之ヲ避ケマシテ、此法律ヲ運用致シタイト考ヘマス

北勝太郎君ノ質疑

商業組合法ノ改正ニ當リマシテ政府ハ産業組合ヲ其統制下ニ置カレルト云フヤウナ御考ハ、從來ノ經緯カラ見マシテ萬々ナカラウト信ズルノデアリマスガ、法案第十七條ノ三ノ一項ニ「商業組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得」又其第二項ニハ「前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其

ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス。トアルノデア  
 リマス、此條項ニ依リマスルト、産業組合モ加入シナケレバナラヌノデナイカト云フヤウナ疑ガ  
 生ズルノデアリマスカラ、特ニ念ノ爲ニ質疑ヲ致シマシテ、之ヲ明ニシテ置キタイト存ズル  
 デアリマス、産業組合ト商業組合トハ互ニ相提携シテ行クコトハ好マシイコトデアリマス  
 ガ、併シ是ハ何レノ場合ニ置キマシテモ、飽迄モ對等ノ位置ニ立チ、自由ノ立場ニ於テ爲サレ  
 ケレバナラヌノデアリマス、御承知ノ如ク同一地區内ニ於ケル商業組合ト産業組合トハ、常ニ  
 利害相反ノ關係ニ立ツ性質ノモノデアリマスルガ故ニ、萬一ニモ本法ニ依リマシテ産業組合ヲ  
 商業組合ノ統制下ニ服セシムルヤウナコトガアツテハ、産業組合ハ爲ニ其事業ノ遂行ガ不可能  
 ノ結果ニ陥ルコトハ、火ヲ賭ルヨリ明カナデアリマス、一寸考ヘルトソナコトハ無ササウ  
 ニ考ヘラレルデアリマセウガ、産業組合ハ其構成スル組合員ハ頗ル數ガ多イノデアリマスル  
 ニ拘ラズ、タツタ一ツノ機關ニ統一サレテ居ルノデアリマスルガ爲ニ、唯一人ノ業者ト同一ニ取  
 扱ハレルノデアリマス、之ニ反シマシテ商業組合ノ側ノ業者ト云フモノハ、常ニ比較ニナラヌ  
 程數ガ多イノデアリマス、隨テ此形態ニ於テ前ニ申述ベマシタヤウナ利害相反ノ事項ヲ取扱  
 セマスルナラバ、産業組合ノ立場ト云フモノハ、恰モ彼ノ國際聯盟ニ於ケル日本ノ立場ト同ジ  
 運命ニ立至ルノデアリマス、デアリマスルカラコトナ所デ公正ナコトガ出來ヤウ管ガナイト云  
 フコトハ、何人モ肯定セラル、コトデアラウト思フノデアリマス、即チ其處デハ産業組合ノ主  
 張ガ假令如何ニ公正ナ事柄デアツテモ常ニ取上テラレナイ、又是ガ通ラナイノデアリマス、隨テ  
 其處デ議決サレル所ノ割當數量ニハ當然服從ガ出來ナイデアリマセウ、又價格ノ點ニ付キマシ  
 テモ、商人側ノ營利的探算主義ノ價格ト、産業組合ノ非營利的ノ配給價格トニハ、根本的ニ相  
 違點ガアルノデアリマス、本質的ニ之ニ服從スルコトガ出來ナイト云フコトモ、是亦必然ノ結  
 果トシテ起ルノデアリマス、産業組合ガ斯ウ云フ所デ其事業上ノ生命トモ言フベキ割當數量ノ  
 決定ヤ、價格ノ統制ヲ受クルナラバ、其結果ヤ知ルベキモノガアルト思ヒマス、産業組合ハ之  
 ニ依テ事業ノ制限ヲ受ケ、運営ノ機能ヲ妨ゲラレ、遂ニ破滅ノ一途ヲ辿ルヨリ外ナキコトニ

ナルノデアリマス、即チ斯ノ如ク本質的ニ利害ノ相反スル所ノ此氷炭相容レザルモノヲ一緒  
 タニ取扱フト云フコトハ、ソレ自體ガ既ニ大キナ誤リデアリ、非常ニ無理ガアルノデアリマス、  
 故ニ産業組合ハ斷ジテ商業組合ノ統制下ニ入レルベキ筋合ノモノデナイト思フノデアリマス  
 ガ、ソコデ私ハ御尋致シタイコトハ、從來ヨリ産業組合ハ商業組合ノ範圍ヨリ全ク別ナモノト  
 シテ承知シテ居タノデアリマスガ、本改正法案ニ於キマシテモ同様ニ考ヘテ宜シイカドウカ、  
 此點ヲ當局カラ明瞭ナル御説明ヲ承ツテ置キタイノデアリマス、而シテ産業組合ヲ商業組合ノ  
 統制下ニ置カヌト云フノデアリマスナラバ、曾テ本問題ニ對シマシテ商工省ガ農林省トノ間ニ  
 約束セラレマシタヤウニ勅令ヲ出サレルカ、サモナクバ何等カ別ノ方途ヲ講ジマシテ之ヲ明  
 シテ戴キタイノデアリマス、然ラザレバ中央ニ於テ縱シンバス様ナコトガ諒解ガ出來テ居  
 シテモ、動モスルト地方ニ於テハ往々ニシテ此考ト副ハナイ、徹底ヲ缺ク場合ガ多イノデ、既  
 ニ地方デハ此問題ガ現實ニ起ツテ居ルノデアリマス、即チ産業組合ハ商業組合ニ加入セヨ、然  
 ラザレバ割當ヲ爲サズ、斯ウ云フコトハ屢、起ツテ居ルノデアリマス、速ニ何等カノ方途ヲ講  
 テ戴カナケレバナラヌノデアリマスガ、之ニ付テ當局ノ御考ヲ承ツテ置キタイノデアリマス、  
 夫ニ現在巷ニ行ハレテ居リマス所ノ物資ノ買占、或ハ思惑、斯ウ云フヤウナコトニ依リマシ  
 テ、物價ヲ不自然ニ騰貴サセテ、國民ノ生活ヲ惱シテ居ル此現況ニ於キマシテ、時局ガ進メバ  
 進ム程益々此現象ガ深刻ニナリマスルコトニ對シマシテ、言換ヘマスト、此物價騰貴抑制ニ關  
 シマシテ、本改正法案ハ如何ナル考ヲ織込ンデ居ラレルカ、之ヲ承リタイ、若シ織込ンデ居  
 レストスルナラバ、政府ハ此點ニ對シ如何ナル御考ヲ持ツテ居ラレルカ、此點ヲ承ツテ置キタイ  
 ノデアリマス、又政府ハ營利目的ノ商業組合ヲ主體トシテ物資ノ配給統制ヲシヨウトシテ居  
 レルヤウニモ受取レルノデアリマスガ、本改正法案ニ依テ物資ノ偏在ヲ矯メテ、公平ナル分  
 配ヲ爲シ得ルト考ヘラレルノデアリマスガ、政府ハ今一步進ンデ消費統制ヲ併セ行ハレル所  
 ノ御考ハナイカ、ソユマデ行キマセスト、金ノ有ル者ハ買溜ヲシテ、餘分ノ物マデモ持ツノデ  
 アリマスガ、金ノ無イ者ハ是非必要ナ物デモ買フコトガ出來ズニ、跣足デ働カナケレバナラヌ

ト云フヤウナ事態が生ジテ來ルノデアリマス、此國民生活上最モ大切ナ、公平ナル物ノ分配ヲ、  
全般的ニ又全國的ニ實際ニドウシテ行ハレル積リデアルカ、以上ノ諸點ニ付キマシテ詳細ナル  
御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス

吉野商工大臣ノ應答

御尋ハ此改正案ノ第十七條ノ三デアリマス、之ヲ御引キニナツテ産業組合トノ關係デゴザイマ  
スガ、先程モ原サンノ御尋ニ對シマシテ御答ヲ致シマシタ如ク、産業組合ト商業組合トノ關係  
ニ付キマシテハ、將來トモ相剋摩擦ガナイヤウニ、十分關係省トモ連絡ヲ取ツテ參リタイト存  
ジマスガ、此商業組合ノ適用ニ關シマシテハ、十七條ノ三ハ一應ハ商業組合ノ地區内ニ於テ其  
組合ノ組合員ニ非ラズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニハ組合ニ加入スルコトヲ命ズルコトガ  
出來ル、其命令ガアツタ時ニハ當然組合員ニナル、斯ウ云フ規定ニハナツテ居リマスケレドモ、  
産業組合ニ關シマシテハ、此商業組合法改正法律ト云フモノハ適用シナイ積リデゴザイマス、  
是ハ從來ノ通りト御承知ヲ願フテ宜シウゴザイマス、ソレカラ物價ノ問題ニ付キマシテハ、  
此法律自體ハ必シモ物價抑制ト云フモノヲ直接ニ目的トハ致シテ居リマセヌケレドモ、全國的  
ノ配給統制ノ見地カラ配給統制ノ商業組合ヲ作ルト云フコトハ、是ハ物價問題ト云フモノニ資  
スルコトガ甚ダ多イト存ジマス、併シ物價ノ問題ニ付キマシテハ、無論是ノミデハ足りナイノ  
デアリマシテ、色々ナコトヲ考ヘテ居リマスカラ、何レ委員會等ニ於キマシテ、其詳細ナコト  
ヲ申上ゲル機會ガアラウト存ジマス、ソレカラ消費統制ニ付テノ御話モゴザイマシタガ、是モ  
物ニ依ッテハ、現在既ニ實施ヲ致シテ居リマスシ、又將來ニ於キマシテモ物ニ依リマシテ更ニ  
消費統制ト云フモノヲ考ヘナケレバナラナイト考ヘテ居リマス

北君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ御説明デハマダ釋然タラザルモノガアルノデアリマスガ、何レ委員會ニ讓ルコトニ致シ

マシテ私ノ質問ハ是デ打切りマス

次テ本案ハ政府提出昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ  
審査ノ末原案ヲ可決(附帶決議)スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會附帶決議

一 現今ノ組合制度ノ全般ニ互リ再檢討ヲ爲シ之ヲ統合調整スル爲關係法律ノ改正ヲ行ヒ組合  
制度ノ完璧ヲ期シ其ノ組織機能ヲ十分活躍セシムヘシ

一 政府ハ本法案第二十七條ノ二ニ依リ新ニ商業組合ノ設立ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ地區内  
ニ在ル他組合ノ實狀及關係ヲ考慮シ特ニ慎重ヲ期スヘシ

同月二十二日本案、**四七及七三ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ**(本項第四七參看)院議異議ナク三  
案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ハ委員會報告ノ通可決  
シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス三月二十九日法律第三十七號ヲ以テ公布セラル

六一 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案（支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

「二十億二千二百七十萬圓」ヲ「六十四億七千六百二十萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年法律第八十五號臨時軍事費特別會計法ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條 政府ハ臨時軍事費出納上必要アル場合ニ於テハ一時借入金ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金及融通證券ハ臨時軍事費特別會計ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スベシ

第一項ノ規定ニ依ル融通證券ハ國債整理基金特別會計法第二條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ國債ト看做サズ

六二 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ

一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅又ハ臨時利得稅ノ今回ノ増徴ニ因ル昭和十三年度以降ノ增收額ト利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ノ創設ニ因ル昭和十三年度以降ノ收入額トノ合計額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限り毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第二條 朝鮮總督府及臺灣總督府ノ各特別會計ニ於ケル今回ノ煙草定價改正ニ因ル昭和十三年度以降ノ專賣收入増加額ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限り毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第三條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル北支事件特別稅收入額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨ

リ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十二年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

六三 昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

政府ハ昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外七千三百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右六一乃至六三ノ三案ハ昭和十三年三月二日執レモ本院ニ提出ス同月三日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ賀屋大藏大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ昭和十二年法律第八十四號中改正法律案外二件ノ法律案ニ付キ提出ノ理由ヲ説明致シマス、先ヅ昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ニ付キ説明申上ゲマス、支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、第七十一回及第七十二回ノ各帝國議會ノ協賛ヲ經マシテ、其財源ニ充ツル爲ノ公債發行ヲ爲シ得ル法律ノ制定ヲ見タノデアリマスガ、事態ノ推移ニ伴ヒマシテ、更ニ臨時軍事費ヲ追加スルヲ必要トスルニ至ッタノデアリマス、然ル所其財源中四億三千三百十萬餘圓ニ付キマシテハ、一般會計及ビ各特別會計ヨリノ繰入金、北支事件特別稅收入等ヲ以テ充當シ、四十四億五千三百四十餘萬圓ニ付キマシテハ、今日ノ場合之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマス爲メ、昭和十二年法律第八十四號中ノ公債發行限度ヲ増額スル必要ガアルノデアリマス、尙ホ本法法律案ノ附則ニ於テ、支那事變ニ關スル臨時軍事費特別會計法ニ一箇條ヲ加ヘルコトト致シマシタノハ、臨時軍事費出納上ノ必要ニ應ジマシテ、機宜ノ措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ開キ置クヲ適當ト認メタルニ依ルモノデアリマス、次ニ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案ニ付キ説明ヲ申上ゲマス、今回一般會計ニ於キマシテ、支那事變費ノ一部ニ充ツル爲メ、所得稅、法人資本稅、砂糖消費稅、取引所稅及ビ臨時利得稅ヲ増徴シ、利益配當稅、公債及ビ社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及ビ物品稅ヲ創設スルコトト致シマスル共ニ、煙草ノ値上ヲ致シマシタノデ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及ビ樺太廳ノ各特別會計ニ於キマシテモ、一般會計ニ於ケルト同趣旨ノ下ニ、概ネ右ニ準ジ同種ノ租稅ヲ増徴シ、並ニ新稅ヲ創設スル共ニ、煙草ノ値上ヲ致シマシテ、其收入額ノ一部ニ相當スル金額等ヲ、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ、臨時軍事費特別會計ニ繰入ル、コトト致シマシタ所、是ガ會計上ノ處理ニ關シマシテハ、法律ノ制定ヲ必要ト致スノデアリマス、最後ニ昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ニ付キ説明申上ゲマス、昭和十三年度歳入歳出總豫算ニ伴フ一般會計歳入不足ノ補填ニ付キマシテハ、之ニ關スル法律案ヲ今期議會ニ提出シテアリマスガ、今回別途提出致シマシタ同年度歳入歳出總豫算追加第一

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

號ニ計上セル經費ノ所要財源總額三億八千六百四十餘萬圓ヨリ、増稅其他ノ普通歳入ヲ以テ充當スベキ分三億一千三百四十餘萬圓ヲ差引キマシタル殘額七千三百餘萬圓ニ付キマシテハ、今日ノ場合之ヲ公債ニ依ルノ外アリマセヌノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、尙ホ本法律案ハ前述ノ如ク總豫算ニ伴フ歳入補填公債法案ガ目下御審議中ナルニ願ミ、別ノ法律案ト致シタ次第デアリマス、以上三件ノ法律案ニ付キ何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンヌトヲ希望致シマス

次テ三案ハ一括シテ政府提出臨時租稅增徴法中改正法律案外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同議事日程ヲ變更シ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長高橋熊次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

臨時租稅增徴法中改正法律案外七件ノ委員會ニ併セ付託セラレマシタ、只今議題トナシテ居リマスル三議案ノ委員會ニ於ケル審査ノ經過並ニ結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス、第一ニ支那事變ニ關スル軍事情債發行限度ヲ増加シヨウト云フ法律案デアリマス、支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、事態ノ推移ニ伴ヒマシテ、更ニ四十八億五千萬圓ノ臨時軍事情債ヲ増加スルコトニナシタリデアリマス、而シテ其所要財源ノ中四億三千三百三十萬圓餘、是ハ一般會計及ビ特別會計ヨリノ繰入金カドニ依リ、爾餘ノ四十四億五千三百四十餘萬圓ヲ公債財源ニ求ムル爲ニ、起債法律ノ發行限度法定額二十億二千二百七十萬圓ヲ、六十四億七千六百二十萬圓ニ改正シヨウト云フカデアリマス、尙ホ本法律案ノ附則ニ於キマシテ、支那事變ニ關スル臨時軍事情債特別會計法ニ一箇條ヲ加ヘ、經費出納上ノ必要ニ應ジマシテ、一時借入金ヲシタリ、又ハ融通證券ヲ發行シタリ致シマシテ、機宜ノ措置ヲ講ジ得ルヤウニシテ置カウト云フ改正ヲ含ンデ居ルノ

デアリマス、第二ノ法案ハ、外地ノ特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額ヲ、臨時軍事情債特別會計ニ繰入レヨウトスル法律案デアリマス、是ハ一般會計ニ於ケル増稅等ト略、同趣旨ノ下ニ、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及ビ樺太廳ノ特別會計ニ於キマシテモ、同種ノ租稅ヲ增徴致シ、新稅ヲ創設スルト共ニ、煙草ノ値上ヲ致シマシテ、其收入額ノ約八割、即チ千四百四十餘萬圓ヲ臨時軍事情債特別會計ニ繰入レヨウトスルデアリマス、最後ニ赤字公債ノ追加發行ニ關スル法律案ガアリマス、是ハ先ノ一般會計ノ赤字公債ニ對シ、更ニ先般本院ヲ通過致シマシタル十三年度追加第一號豫算ニ計上サレマシタ經費ニ對シ、其財源ノ一部ト致シテ七千三百十萬圓ヲ追加發行シヨウト云フデアリマス、以上三ツノ法律案ニ關シマシテ、委員會ニ於キマシテハ政府當局トノ間ニ種々質問應答ヲ重ネマシテ、慎重審議ヲ致シマシタ、特ニ融通證券ノ發行方法ノコト、又證書ヲ保管致シマシタリ、又利札ヲ預ツテ置キマシテ、餘リ慣レナイ地方民ノ利便ヲ圖ルト云フコト、或ハ小額債券ノ郵便局賣出等ニ對シ、餘リ地方資金、詰リ軍需工業ナドニ關係ノナイ地方ノ資金ヲ、過度ニ吸收スルヤウナ方策ヲ避ケテ費ヒタイ等ヲ含ミマスル、郵便局賣出ノ改善ノ方法ニ關スルコト、又内地ト外地ノ稅法ニ依ル負擔ガ餘リニ不權衡デアリ、懸離レテ不鈞合ナル點ハ、改ムベキコトデアルト云フヤウナ點ハ、最モ注意ヲ要スベキ點デアリマシテ、詳細ノコトハ何卒速記録ニ就テ十分御覽ヲ願フテ置キマス、討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表シテ西村金三郎君ヨリ、政友會ヲ代表シマシテ東條貞君ヨリ、社會大衆黨ヲ代表シテ片山哲君ヨリ、第一議員俱樂部ヲ代表シテ玉野知義君ヨリ、第二控室ヲ代表シテ三木武夫君ヨリ、東方會ヲ代表シテ馬場元治君ヨリ、何レモ贊成ノ趣旨ヲ述ベラレ、特ニ政府ハ本公債ノ發行ニ付キマシテハ十分注意ヲ拂ツテ、物價ノ騰貴ヲ招來セザルヤウ、萬全ノ方策ヲ講ゼラレタキ旨ヲ強調サレタデアリマス、其他有益ナル希望等モ、政府ニ對シテ熱心ニ述ベラレタデアリマスルガ、是等ノ諸點ハ諸君ノ御許ヲ得マシテ、全部議事録ニ讓ルコトト致シタイト思ヒマス、採決ニ入りマシテ、全會一致ヲ以テ可決ニ相成ッタ次第デアリマス、右御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月十七日可決奏上シ同月二十三日六一ハ法律第二十四號、六二ハ法律第二十三號、六三八ハ法律第二十一號ヲ以テ公布セラル

六四 陸上交通事業調整法案

陸上交通事業調整法

第一條 本法ニ於テ陸上交通事業トハ地方鐵道事業、軌道事業、自動車運輸事業其ノ他勅令ヲ以テ指定スル事業ヲ謂フ

第二條 主務大臣公益ノ増進ヲ圖リ陸上交通事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲陸上交通事業ノ調整ヲ爲サントスルトキハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ調整ノ區域、調整スベキ事業ノ種類及範圍竝ニ左ノ各號ニ依ル調整ノ方法ヲ決定スベシ

- 一 會社ノ合併又ハ設立
- 二 事業ノ讓受又ハ讓渡
- 三 事業ノ共同經營

四 事業ノ管理ノ委託又ハ受託

五 連絡上必要ナル線路其ノ他ノ設備ノ新設、變更又ハ共用

六 運賃又ハ料金ノ制定、變更又ハ協定

七 連絡運輸、直通運輸其ノ他運輸上ノ協定

八 用品其ノ他ノ共同購入、共同修繕其ノ他調整上必要ト認ムル方法

主務大臣ハ前項ノ決定ニ依リ陸上交通事業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ實施ヲ勸告シ又ハ同項第二號乃至第八號ノ事項ノ實施ヲ命ズベシ

第三條 陸上交通事業經營者前條第二項ノ勸告ニ依リ主務大臣ノ指定スル期間内ニ協定ヲ爲シタルトキハ之ガ認可ヲ申請スベシ

陸上交通事業經營者前條第二項ノ命令ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ協定ヲ爲シ之ガ認可ヲ申請スベシ協定成立セザルトキハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ協議調ハザル事項ヲ裁定ス

主務大臣前項ノ裁定ヲ爲サントスルトキハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵スベシ但シ重要ナラザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

主務大臣第二項ノ裁定ヲ爲シタルトキハ關係陸上交通事業經營者ニ之ヲ通知スベシ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

第四條 交通事業調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル調整ノ區域内ニ於ケル陸上交通事業經營ノ免許又ハ特許ニシテ重要ナルモノハ主務大臣交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ爲スベシ

第六條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ調整ノ區域内ニ於ケル主要ナル陸上交通事業ヲ包括シ經營スルニ至リタル會社ニシテ勅令ニ依リ指定スルモノノ定款ノ變更、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ陸上交通事業ヲ經營スル會社ノ株主若ハ債權者ト爲リ又ハ其ノ會社ニ事業ノ管理ヲ委託シタル場合ニ於テハ北海道廳長官、府縣知事又ハ市町村長其ノ他之ニ準ズベキ者ハ其ノ指名スル吏員ヲシテ商法ノ定ムル選任方法ニ依リ其ノ會社ノ取締役又ハ監査役タラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第七十七條及第七十八條又ハ町村制第六十五條及第六十六條若ハ之ヲ準用スル北海道一級町村制第一條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ依リ會社ノ取締役又ハ監査役ト爲リタル者吏員タル身分ヲ失ヒタルトキハ取締役又ハ監査役ノ職ヲ失フ

第八條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登

録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 會社ノ設立又ハ資本増加

金錢出資ニ依ル拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社ノ設立若ハ資本増加又ハ陸上交通事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

第九條 地方鐵道法、軌道法、自動車交通事業法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ免許、特許、許可又ハ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノニ付テハ第三條又ハ第六條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該法令ノ規定ニ依ル免許、特許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十條 第三條第二項ノ裁定アリタル場合ニ於テ第二條第一項第二號ノ讓受ノ價額、同項第三



號ノ共同經營ニ於ケル收得若ハ負擔ノ金額ノ割合又ハ同項第四號ノ管理ノ報酬金額ニ付不服アル者ハ協定ノ相手方ヲ被告トシ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴訟ハ第二條第二項ノ命令及第三條第二項ノ裁定ノ效力ヲ停止セズ

第十一條 第二條第二項ノ規定ニ依リ事業ヲ讓受ケタル者前條ノ規定ニ依リ出訴シタル場合ニ於テハ裁定ニ基ク讓受價額ト自己ノ見積價額トノ差額ニ相當スル金錢ヲ供託スルコトヲ得

第十二條 陸上交通事業經營者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 他人ヲシテ事業經營者ノ計算ニ於テ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト
- 三 事業ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲サシムルコト
- 四 免許又ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十三年三月二日本院ニ提出ス同月四日本案ノ第一讀會ヲ開キ中島鐵道大臣ハ左ノ趣旨辯

明ヲ爲ス

只今上程サレマシタ陸上交通事業調整法案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、陸上交通事業ハ我が國力ノ發展ニ伴ヒマシテ、近年著シク發達シテ參ッタノデアリマスガ、其半面ニ於キマシテハ、動モスレバ事業相互間ノ連絡統一ヲ缺キ、併立競争ノ弊ヲ生ズルニ至ッタノデアリマス、其結果ハ國家的ニ見マシテ、洵ニ不經濟、不合理ト申スベキデアリマシテ、實ニ事業者ニ取リ資本ノ浪費トナリ、延イテハ經營ヲ困難ナラシメルバカリデナク、一般公衆ニ對シマシテモ、交通機關ノ利用上遺憾トスル點ガ少クナイト云フ状態ニ立至ッタノデアリマス、隨テ是等交通事業ヲ調整致シマシテ、國家的ノ不經濟ヲ除キ、公衆ノ便益ヲ増進スルト共ニ、事業ノ健全ナル發達ニ資スルノ要極メテ緊切ナルヲ認メ、茲ニ本法案ヲ提出シタ次第デアリマス、今其内容ノ主ナルモノヲ申上ゲマスレバ、主務大臣ガ公益ノ増進ヲ圖リ、事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲メ、陸上交通事業ノ調整ヲ爲サントスル場合ニハ、之ヲ交通事業調整委員會ニ諮リ、其意見ヲ徵シマシテ、調整ノ區域、調整スベキ事業ノ種類及ビ範圍、竝ニ調整ノ方法ヲ決定致スノデアリマス、此決定ニ依リ主務大臣ハ陸上交通事業經營者ニ對シ、一定ノ事項ヲ勸告又ハ命令シ、其勸告又ハ命令ニ基キ、事業者ガ協定ヲシテ調整ガ行ハレルノデアリマス、若シ命令ヲ受ケタ事業者間ニ協議ノ纏マラナイ場合ニハ、主務大臣ガ裁定スルコトニ相成ッテ居リマス、此裁定ニ關シマシテモ、交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シテ爲スノミナラズ、裁定ノ價額ニ不服ナ者ニハ、通常裁判所ニ出訴スル途モ開カレテ居ル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラシコトヲ切望致シマス

坂下仙一郎君及紅露昭君質疑ヲ爲シ中島鐵道大臣及末次内務大臣應答ス

坂下仙一郎君ノ質疑

只今上程ニナリマシタ陸上交通事業調整法案ニ付キマシテ、簡單ニ二三質問ヲシテ見タイト存  
 ジマス、只今中島鐵道大臣ノ御説明ニナリマシタヤウニ、近距離ノ陸上交通ハ現在地方鐵道、  
 軌道、乗合自動車、此三ツノ事業ニ依ッテ大體ヲ支配サレテ居ルノデアリマス、而シテ乗合自  
 動車ハ最近飛躍的ノ進歩發達ヲ遂ゲタモノデアリマシテ、殊ニ數年前マデ此許可權ガ地方長官  
 ニ委ネテアレマシタ結果、ソレヲ許可スル場合ニ於キマシテ、一貫シタ方針ガナク、又様  
 様ナ情弊ガ伴ヒマシテ、無統制ニ許可サレテ居リマス結果トシテ、種々ナル弊害ガ生ジ、中  
 ハ一路線ニ數會社ノ乗合自動車ガ走り、惡辣ナ競争ヲスルモノモ隨所ニ出來タノデアリマス、  
 又大都市ニ於キマシテ、殊ニ東京ナドニ於キマシテハ、電車、乗合自動車、是等ガ無統制ニ走  
 テ居リマスノデ、利用者ハ何ヲ利用スルコトガ最も都合ガ好イカト云フコトヲ、判別スルノニ  
 迷フト云フヤウナ状態デアリマス、又二十町カ二十五町ノ近距離ニ行ク場合ニ於テモ、自動車  
 ニ乘リ、電車ニ乗換ヘ、又自動車ニ乗換ヘナケレバナラナイト云フヤウナ不便モアリマスノデ、  
 本法案ニ依リマシテ是等ノ弊害ヲ除去シ、利用者ニ便益ヲ與ヘ、而シテ二重投資ヤ經費ノ無駄  
 ヲ排除シ一面「ガソリン」、自動車附屬品、部分品ノヤウナモノノ輸入ヲ減少致シマシテ、國際  
 收支ノ調節ヲシタイ、所謂一石三鳥ノ計畫デアリマシテ、其趣旨目的ハ洵ニ結構ナモノデアリ  
 マス、斯ル法案ニ依リマシテ、此目的ガ圓滿ニ遂行シ得ラレルナラバ、斯ノ如キ法案ハ寧ろ數  
 年前ニ提出スベカリシモノデアツテ、今日提出致シマシタコトハ、非常ニ遅レテ居ルカノ感  
 ガアルノデアリマス、併ナガラ近頃ハ調整トカ統制トカ云フヤウナコトガ、所謂流行時代デア  
 テ、一ニモ統制、二ニモ調整、統制、調整ナラデハ夜モ日モ明ケヌト云フ時代デアリマス、所  
 デ此種類ノ法律ハ數多ク實施セラレテ居リマスルケレドモ、極メテ成功シテ居ルモノガ少イ、  
 寧ろ統制セラレナイ前ノ方ガ非常ニ宜カッタト云フモノノ數ガ多イノデアリマス、多クハ統制  
 調整ニ依ッテ、資本案、大企業家ヲ擁護シ、中小企業家ヲ壓迫シ、利用者、消費者ニ迷惑ヲ掛  
 ケルト云フコトガ、結局多イト思フノデアリマス、最近ノ例カラ見マシテ、最も顯著ナ事例  
 ハ、重要肥料ノ統制ニ依ッテ硫安ノ價格ヲ倍加セシメテ、國民否農民ノ生活ヲ脅シテ居リマス、

又綿絲ノ配給統制ニ依リマシテ製品ノ値ヲ倍加セシメ、而モ中小機業家ヲ死地ニ陥レ、利用、  
 消費大衆ヲ犠牲ニシテ居ルト云フコトハ、皆サン御承知ノ通りデアリマス、此陸上交通事業調  
 整法案モ、サウ云フ轍ヲ履ムノデハナイカト云フコトヲ私共ハ案ズルノデアリマス、結論ト致  
 シマシテ中小業者ヲ壓迫シ、大資本家ヲ擁護スルコトニナルデハナイカ、斯ウ云フコトガ案  
 ラレルノデアリマス、即チ本法案ニ依ッテ合同或ハ會社ノ新設等ヲ勸告シ、或ハ讓受、讓渡、  
 共同經營等ヲ命令スル、其命令シタ事項ガ圓滿ニ協議ガ調ハナイ時ニハ、主務大臣ガ裁定スル、  
 斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス、其結果ハ最前申上ゲマシタヤウニ、此種類ノ法案  
 ト同様ニ中小業者ヲ壓迫シ、獨占事業タラシメ、遂ニハ賃金ノ値上ラシ、市民大衆ヲ犠牲ニス  
 ルト云フヤウナコトニナリハシナイカ、斯ウ云フ虞ガ多分ニアルノデアリマス、趣旨目的ハ至  
 極結構デアリマシテモ、統制、調整ト云フモノノ實績ガ擧ラナイ原因ハ何處ニアルカ、斯ウ云  
 フコトヲ考ヘテ見マスルト、其原因ハ多種多樣デアリマセウ、併ナガラ私共ノ考ヘマスル所ニ  
 依リマスレバ、何レモ是ニハ委員會ト云フモノヲ設ケテ、其委員會ニ諮問シ、委員會ノ意見ヲ  
 聽イテ色々スルコトニナツテ居リマスガ、是迄ノ例ヲ見マスト、委員會ハ殆ド形式デアリマス、  
 形式的ノ委員會デアリマス、露骨ニ言ヘバ、官僚獨善ヲ「カムフラージュ」スル爲ニ作ッタ委員  
 會ノヤウニ、私共ハ見ルノデアリマス、モット極端ニ言ヒマスレバ、官僚獨善デヤッタ仕事ガ失  
 敗シタ時ニ、其責任ヲ轉嫁スル爲ニ設ケタノデハナイカトマデ疑ハレルノデアリマス、若シモ  
 政府ノ言ハル、ヤウニ、眞ニ委員會ノ意見ヲ聽キ、サウシテ本法ノ效果ヲ期待スルナラバ、委  
 員會ノ構成ニ十分ナ注意ヲ拂フベキモノデアリマス、是マデノ委員會ノ委員ヲ選任スルニ當リ  
 マシテ、官僚ガ官僚獨善デヤルト云フ非難ヲ防グ爲ニ、申譯ニ作ル意味ニ於テ、先ヅ學識經驗  
 アリト云フ方面カラノ委員ヲ選任スルニ當リマシテハ、學識ハアリ、經驗モアルベキ地位ニ在  
 テ、實際ナイ人ヲ選任シテ居ル、ソレカラ貴衆兩院議員、此中カラ選任スル時ニナリマス、  
 成ベク國務、黨務ニ忙シクテ、小サイ事ニハ餘リ頓著ノ出來ナイ地位ニ在ル幹部級ノ人ヲ選任  
 スル、業務ニ精通シ、或ハ地方事情ニ精通シタ方面カラ選ブニ當リマシテハ、成ベク濃厚デ、口

ヲ利カナイ人ヲ極度ニ少數選任スル、サウシテアトハ關係各省ノ官吏ヲ多數選任スル、斯ウ云フコトデ行キマスカラ、結局效果ガ擧ラナクテ失敗ヲスルノデアリマス、中島鐵道大臣ハ企業家デアアル、商賣ノ經驗ヲ多分ニ持ッテ居ラレル方デアアルカラ、マサカコンナコトデ委員ノ選任ヲナサリモシマイシ、又鐵道省ハ殆ド營利會社ノヤウナ仕事ヲ現在シテ居リマスカラ、官僚獨善ト云フヤウナコトハナカラウト存ジマス、故ニ委員會ノ構成、委員ノ選任ニ付キマシテハ、十分ナル注意ヲ拂ッテ、サウシテ委員會ノ公正ナル意見ヲ徵シ、其意見ヲ如實ニ此法律ノ實行ニ當ッテ行フ、斯ウ云フ誠意ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、殊ニ此委員會ニハ業務ニ精通シタ者、地方事情ニ精通シタ者ト云フ部門カラ、半數位ノ委員ヲ任命シナケレバ、斯ウ云フ複雑ナ事業ヲ調整スルコトハ困難ダト思フノデアリマスガ、當局ハドンナ御意思ヲ持ッテ居ラレルカ、此點ヲ御聽シタイノデアリマス、第二點デ御伺申シタイノハ、會社ノ合併、會社ノ新設、之ニ對シテハ勸告スルコトニナッテ居リマス、政府ガ甲ノ會社ト乙ノ會社トノ合併ヲ勸告スル、所ガ相當複雑ナ事情ガアリマスノデ、政府ノ一片ノ勸告デハ中々纏マラナイト思フノデアリマス、其場合ニ政府ハドウスルカ、本案ノ規定ニ依リマス、命令スルコトニハナッテハ居ナイ、唯勸告スルト云フコトダケニナッテ居ルガ、此勸告ダケデハ私ハ目的ハ達成出來ナイト思フ、其場合ニ政府ハドウスル積リカ、是ガ伺ヒタイ、第三點、讓受、讓渡ヲ命令シタ場合、營業者同士デ話合ヒガ出來ナカッタトキ、協調ガ出來ナカッタトキニハ、調整委員會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ裁定スル、斯ウ云フコトニナッテ居リマスガ、唯主務大臣ガ裁定スルト云フダケデハ、業者トシテハ甚ダ危險デアアル、ドンナ裁定ヲセラレルノカ殆ド見當ガ付カナイ、私ハ業者ガ心配スルバカリデナク、大臣モ裁定スル場合ニ、何トカ茲ニ基準ガナケレバ御困リデアラウト思フ、又委員會トシテモ恐ラク困ル問題ダト思ヒマス、デアルカラ此裁定ノ基準ト致シマシテ、會社ガ現在營業シテ居ル資本金、ソレカラ現在ノ利益、過去ニ於ケル犠牲、損失、將來ニ於ケル利益ノ増大率、斯ウシタヤウナモノヲ拾ヒ上ゲテ、サウシテソレニハドウ云フ風ナモノヲ計算スルカ、ドウ云フ風ニ計算スルカト云フヤウナ、大體基準ヲ設ケル必要ガアルト

思ヒマス、之ヲ當局ハドウ云フ風ニシテ計算ヲシ、ドウ云フ風ニシテ評價スルト云フ考デ居ルカ、其點ヲ詳細ニ聽キタイノデアリマス、其次ハ省營「バス」ト乗合自動車トノ關係デアリマス、本法ハ不當ノ競争ヲ避ケシメ、運轉系統ヲ正シクスルト云フコトガ目的デアリマスガ、鐵道省自身ニ經營シテ居ラレル省營「バス」ト民間業者ノ乗合「バス」ト一路線ヲ競争シテ居ル所ガ隨所ニアリマス、是ハ一體ドウスルカ、此法案ヲ提出致シマシタ限リニハ、恐ラク鐵道省ハ省營「バス」ノ方ヲ遠慮シテ止メテシマフダラウ、斯ウ私ハ考ヘマスケレドモ、ドウシテモソレヲ鐵道省ガ遠慮シテ止メナイト云フトキニハ、一體是ハドウ云フ風ニ處理スルノカ、鐵道大臣ガ命令ヲ出シテヤッテ居ル省營「バス」ニ對シテ、民營會社ヲ買收セヨト云フ命令モサカ出スマイト思フ、御自身ガ御自身ニ命令ヲ出スト云フコトハ出來マイト思フ、又民營會社ノ方ヘ省營「バス」ヲ買收セヨト云フ命令モ出セスト思フノデアリマス、斯ウ云フ場合ハ一體ドウ云フ風ニスル積リデアアルカ、ハッキリシタ方針ヲ承リタイノデアリマス、甚ダ簡單デアリマスガ、私ノ質問ハ是デ打切りマス、ドウカ懇切丁寧ニ、而モハッキリシタ御答辯ガ願ヒタイト存ジマス

中島鐵道大臣ノ應答

坂下君ノ御質問ニ御答致シマス、第一問ハ、此調整法ノ實施ニ依ッテ、中小企業者ヲ壓迫スルコトニナラヌカト云フコトト、賃銀値上ヲ誘發シヤセヌカト云フコトト、委員會ノ構成運用ニ付テデアリマシタガ、此調整法ハ成ルベク自治的ニ調整ヲ行ハシムルコトヲ、本旨ト致シテ居ルノデアリマシテ、已ムヲ得ザル場合ニ限り調整委員會ノ議ヲ經テ、主務大臣ガ裁定スルコトトナルノデアリマシテ、調整法ノ中ニハ、合併ノ場合モアルシ、又買收ノ場合モアリマセウガ、共同經營ト云フヤウナコトモ含マレテ居ルノデアリマシテ、成ベク中小業者ヲ壓迫シナイヤウニ氣ヲ付ケテ行ク方法モアリ、氣ヲ付ケテ行ク考デアリマス、尙ホ是ガ爲ニ賃銀値上ヲ誘發シヤセヌカト云フコトニ付キマシテハ、只今坂下君ガ述べラレタ通り、現在ノ業者間ニ於キマシテハ、可ナリ資本ノ浪費、又激シキ競争等ノ爲ニ苦シンデ居ルノデアリマスカラシテ、是等ノ

弊害ヲ除去スルコトニ依リ、各業者ハ今ヨリモ寧ロ樂ニナツテ行クノデアリマシテ、其結果貨銀ハ値上リヨリモ、下ゲ得ル餘地ノ生ズルモノト考ヘルノデアリマス、此貨銀ニ關シマシテハ、ヤハリ調整法ニ於テ主務大臣ガ監督スルコトニナツテ居リマスカラ、此爲ニ貨銀ノ値上ヲ誘發スルト云フコトハナイヤウニ致シタイト考ヘマス、委員會ノ構成、運用ニ關シテハ、色々御尤ナル御説ヲ拜聽致シマシタガ、此委員會ノ權能ハ中々重大ナルモノデアリマスカラシテ、只今坂下君ノ御述ニナツタヤウナ弊害ノナイヤウニ十分注意ヲシテ、構成、運用ヲシテ行キタイト考ヘテ居リマス、第二點ハ、合併、設立ヲ勸告デハイケナイデハナイカト云フコトデアリマシタガ、合併、設立ハ法制上之ヲ命令ヲ以テスルト云フ例ハ、今日マデ無イノデアリマス、又現行法律ノ上カラハ、之ヲ命令ヲ以テスルト云フコトハ、種々ノ困難ガアルノデアリマシテ、勸告ト云フコトニスルコトヲ至當ナリト考ヘテ、斯ウ致シタノデアリマス、勸告デハ少シ目的ヲ達スルノニ足ラナイデハナイカト云フ御意見デアリマシタガ、成ベク業者ト協調シ、又委員會ノ意見モ徵シ、勸告ヲ以テシテモ十分ニ其目的ヲ達シ得ルヤウニ努力スル考デアリマス、第三點ハ、買収、讓渡ノ價格ノ基準ヲ定メテハドウカト云フ御問デアリマシタガ、此調整法ハ只今申上ゲマシタ通り、成ベク自治的ニ業者ガヤツテ行クト云フコトヲ、本旨トスルノデアリマスカラ、其地方々々ノ業者々々ノ色々ノ都合モアラウト思フノデ、價格ノ基準ヲ豫メ法律ヲ以テ決定シテハ、相當ノ無理ガ出來ルノデハナイカ、隨テ是ハ能ク協調シ、又民間利用者、業者等ノ入ル委員會ニ於テ、公正妥當ナル標準ヲ決定スルコトガ穩當デアルト考ヘマシテ、價格ノ基準ハ茲ニ揭ゲナイノデアリマス、第四ハ、省營「バス」ト民營「バス」ノ調整ハ如何ニスルカト云フ御問デアリマシタガ、省營「バス」ト雖モ、此調整法ヲ出シタル以上ハ、鐵道省トシテハ熱意ヲ以テ此調整ニ參加シテ行ク考ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、ヤハリ此調整委員會等ノ意見ニ依ツテ進ミタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

坂下君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

マダ私納得ノ出來得ル迄ノ答辯ヲ得マセヌノデアリマスケレドモ、又他ノ機會ニ於キマシテ質問スルコトト致シマシテ、只今ハ是デ打切ルコトニ致シマス

紅露昭君ノ質疑

只今上程セラレマシタル陸上交通事業調整法案ニ付キマシテ、鐵道、内務、海軍、陸軍及ビ遞信大臣ニ、簡單ニ政府トシテノ所見ヲ質シテ置キタイト思フノデアリマス、私ガ諄々シク申上ゲル迄モナク、交通機關ハ社會生活ノ支柱デアリ、文化ノ要素デアリマス、此重大使命ヲ持ツ交通事業ガ、現今ノ如ク不健全ナル所ノ状態ニ在ルコトハ、社會正義ノ見地カラモ、是ハ許サルベキコトデアリマセヌ、私共モ政府ト同ジク我國交通事業ノ現狀ニ鑑ミマシテ、統制ノ必要アルコトハ之ヲ認メマス、殊ニ大都市ノ朝夕「ラッシュ・アワー」ニ於ケル電車、「バス」、「タクシー」等ノ混雜ハ、到底名狀スベカラザルモノガアリマシテ、利用者ハ痛切ニ是ガ調査ノ必要ヲ感ジテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ法案其モノノ内容ニハ、私共トシテ今俄ニ贊同シ難キモノガアルノデアリマス、又幾多ノ矛盾撞著ヲ吾々ハ發見シテ居ルノデゴザイマス、同僚坂下君ヨリ質問ガゴザイマシタカラ、私ハ重複ヲ避ケテ、極メテ簡單ニ各相ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、先ヅ第一ニ、本法ノ眼目トモ稱スベキ第二條ノ合併又ハ設立ノ點デアリマスガ、私ハ同僚坂下君ノ質問ト觀點ヲ異ニ致シマシテ、内務、鐵道兩主管大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマスガ、本案ハ先程坂下君ヨリモ申シマシタル如ク、又鐵道大臣ノ御答辯ニアリマシタル如ク、合併、新設ヲ命令事項ト致シマセヌデ、之ヲ勸告ト致シマシタル爲ニ、本法ハ殆ド骨抜ト相成ツタノデアリマス、無力化シタノデアリマス、兩大臣ハ之ニ對シテ如何ナル成算ト對策ヲ有シテ居ラレルノデアリマセウカ、私ハ茲ニ本案ガ空文化シタリト斷定致シマスナラバ、先ヅ其前提トシテ、政府ハ本法ニ依ツテ如何ナル統制ヲ爲スノデアルカト云フコトヲ、見ナケレバナラヌト思フノデアリマス、即チ法文第二條ニ依リマス、斯様ナ重大ナコトガ規定サレテ居ルノデアリマス「主務大臣公益ノ増進ヲ圖リ陸上交通事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲陸上交

通事業ノ調整ヲ爲サントスルトキハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ調整ノ區域、調整スベキ事業ノ種類及範圍竝ニ左ノ各號ニ依ル調整ノ方法ヲ決定スベシト云フコトガ第一項ニ書カレテ居リマス、而シテ其調整スベキ内容ハ實ニ斯ノ如キモノデアリマス、「會社ノ合併又ハ設立」、「事業ノ讓受又ハ讓渡」、「事業ノ共同經營」、「事業ノ管理ノ委託又ハ受託」、「連絡上必要ナル線路其ノ他ノ設備ノ新設、變更又ハ共用」、「運賃又ハ料金ノ制定、變更又ハ協定」、「連絡運輸、直通運輸其ノ他運輸上ノ協定」、「用品其ノ他ノ共同購入、共同修繕其ノ他調整上必要ナル線方法」等一切ガ、此法律一本ニ依ッテ、主務大臣ノ行政命令一本ニ依ッテ行ハレルト云フ、重大ナル所ノ法案ナラバデアリマス、彼ノ電力國家管理案ニ數倍スル所ノ重大法案デアルト私ハ思フデアリマス、併ナガラ此重大ナル所ノ法案モ、先程鐵道大臣ノ御説明ノ如ク、第二項ニ斯様ナコトガ書カレテ居ルデアリマス、即チ主務大臣ハ前項ノ決定ニ依リ陸上交通事業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ實施ヲ勸告セヨト云フコトニナッテ居ル、勸告トハ何ゾヤ、即チ合併及ビ新設デアリマス、合併及ビ新設ハ命令事項ト相成ッテ居ラナイデアリマス、デアラカラシテ私共考ヘマスルノニ、此法律ニ依リマシテハ到底調整ノ目的ヲ達スルコトハ不可能デアルト、斯様ナ前提ヲ致シタノデアリマス、而モ此勸告ニ付テ私共ノ最モ不可思議ト致シマスルコトハ、最初鐵道省ノ所謂原案ニ依リマスルト、此合併及ビ新設モ大臣ノ行政命令一本デ自由ニ相成ッテ居ッタノデアリマスルガ、司法省ノ横槍ニ依リマシテ、遂ニ斯ノ如キ骨抜キノ法案ニナッタト云フヤウナコトモ、私共ハ何ッテ居ルデアリマス、果シテ眞カ僞カ知リマセヌガ、唯此法案ヲ斯ノ如キ情勢ニ置イタナラバ、到底私ハ本案ニ依ッテハ、政府ノ企圖シテ居ル所ノ目的ハ達シ得ラレナイト思フデアリマスガ此點ニ對シテ鐵道及ビ内務兩大臣ハ、如何ナル政策ト對策ヲ有シテ居ルデアラカト云フコトヲ、御尋申上ゲタイノデアリマス、併ナガラ斯ク申シマスルト、政府ハ斯様ニ言ハレルダラウト思フデアリマス、勸告ニ依ッテモ、或ル程度マデ實績ハ擧ルデアルト、併ナガラ私共ハ實ニ最近ニ於テ斯様ナ例ヲ知ッテ居ルデアリマス、即チ三士忠造氏ガ齋藤内閣ノ鐵道大臣トシテ御就任當時ニ、我國ノ陸上交通運送ノ無統制ヲ憂ヘラレマシテ、

東京ノ京王電車、京成電車及ビ王子電車ノ、三電鐵會社ノ責任者ヲ官邸ニ招致セラレマシテ、之ニ勸告ヲ加ヘマシタケレドモ、不幸途ニ不成功ニ終ッテ居ルデアリマス、ソコデ先程鐵道大臣ハ、委員會ノ意見ヲ徵シ、相當協力シテヤルカラ、效果ガ擧ルデアラウトノ御答辯デアリマスルガ、私ノ憂ヘマスル所ハ、鐵道當局ノ企圖シテ居ラレマスル所ハ、或ハ勸告ニ應ゼザル場合ニ於テ或種ノ強制手段ヲ用ヒ、或ル程度ノ威壓ト壓迫ヲ加ヘテ、尙且ツ之ヲ強要シタナラバ、業者ハ營業上ノ壓迫ニ堪ヘ兼ねテ、茲ニ應諾スルデアラウト云フヤウナ意味カモ知レマセヌガ、若シ然リトスルナラバ、ソレハ決シテ本法ノ效果デアリマセヌ、全ク非合法的デアリ、陋劣極マル手段デアリマシテ、行政當局トシテ執ルベキ態度デハナイト私ハ考ヘルデアリマス、我等ハ若シ内務及ビ鐵道兩當局ガ左様ナ御考デアリト致シマスルナラバ、絕對ニ之ヲ排撃シナケレバナラナイト思フデアリマスルガ、内務、鐵道兩大臣ハ、果シテ如何ナル御決心ヲ以テ、此法案ヲ此議場ニ御出シニナツタカラ何ヒタイノデアリマス、尙ホ私ガ此點ニ關聯シマシテ、鐵道當局ニ極メテ簡單ニ一言申上ゲテ置キタイコトハ、鐵道當局ハ斯様ニ仰セラレルデアリマス、本案ニ付テハ幾多ノ陳情ガ出テ居ル、本案ハ業者ガ贊成致シテ居ル斯様ニ言フデアリマス、併ナガラ業者ノ同意、業者ノ贊成、業者ノ陳情、必シモ信ズベキモノニアラズト云フコトヲ、私ハ簡單ニ申上ゲタイノデアリマスルガ、一體此法律ハ辯護士法、小運送法、百貨店法ト殆ド同一形態ヲ成シテ居ルデアリマス、即チ辯護士ト非辯護士トノ抗爭ヲ防グベク辯護士法ガ制定サレマシテ、指定、非指定ノ運送人、或ハ公認、非公認ノ運送人ノ摩擦抗爭ヲ防クベク小運送法ガ制定サレタノデアリマス、又百貨店業者ト中小ノ小賣業者ガ摩擦抗爭ヲ起スカラ、之ヲ防止スベク百貨店法ガ昨年制定セラレマシタコトハ、各位ノ御承知ノ通りデアリマス、併ナガラ此法案ガ一タビ議會ニ現レマシタ際ニハ、各業者ハ全部之ヲ歡迎致シテ居ルデアリマス、即チ私ハ是等ノ各法案ニ付テ、毎回審議ニ當ッテ參リマシタガ、業者ハ法案ノ熱心ナ支持者デアリマス、併ナガラ一タビ法案ガ通過致シマスルト、是等ノ人々ハ法案ノ不備缺點ヲ痛感シテ、現ニ此七十ニ議會ニ於キマシテモ、辯護士法改正案ノ如キハ、既ニ數件ノ多キニ互ッテ提出致サレテ居ルヤ

ウナ現狀デアリマス、又昨年十月漸ク實施ヲ見マシタ所ノ百貨店法、及ビ小運送法ノ如キモノニ付キマシテモ、改正ノ要アリトノ聲ヲ私共ハ聞クノデアリマス、是果シテ何ノ爲メデアリマセウカ、私熟考ヘマスルニ、業者ノ陳情、業者ノ贊成ト云フモノハ、自己ノ利益ノミニ眩惑致シマシテ、國家百年ノ大計ヲ樹ツルノ考ガ少ク致シテ、他面又主務官廳ノ事務當局ハ功ヲ急グノ餘リ、自己ノ在職中ニ法中ニ法案ヲ成立セシメントノ念ガ急ナルモノガアリマシテ、斯ノ如キ結果ヲ生ムノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、私ノ觀察ニシテ果シテ誤リナシト致シマスルナラバ、我等議員タルベキ者ハ、慎重審議、本案ナカリセバ吾々一般國民大衆ハ如何ニ不便ヲ感ズルカ、此法案ガ通過シタナラバ、吾々國民一般大衆ガ如何ニ利セラレルカト云フコトヲ、常ニ大乗の見地ニ立ッテ慎重ニ考慮致シマシテ、信念ニ基キ、情實ニ因ハレルコトナク、大膽率直ニ贊成、不贊成ノ意ヲ決スベキモノト、私ハ確信致シテ居ルノデアリマス、本法案ニ付テ内務大臣及ビ鐵道大臣ハ、如何ナル信念、如何ナル成算ト對策ヲ御持チニナッテ御提案ニ相成ッタカ、是ガ私ノ御伺スル第一點デアリマス、更ニ第二點ト致シマスシテ鐵道大臣ニ御尋致シタイノハ、調整ノ方法ガ其當ヲ得ザルト云フコトデアリマス、所謂全面的統制ヲ避ケテ、省營、バスニ付キマシテハ、今鐵道大臣ヨリ、將來之ヲ參加セシメル積リデアルト云フ御説明ガアリマシタカラ省略致シマスルガ、少クとも國有鐵道ハ御説明ガナイノデアリマス、我國ノ國有鐵道總延長一萬六千「キロ」、直營自動車路線一千三百「キロ」、關釜或ハ青函其他連絡航路ハ二百八十浬ト云フコトニ相成ッテ居リマス、此投資價格實ニ三十八億ト稱セラレ、或ハ四十二億ト稱セラレテ居リマス、之ニ從事スル所ノ人員亦三十萬ト言ハレテ居ルノデアリマス、全ク我國鐵道ノ代表的存在デアリマス、私ハ此大國有鐵道全部ヲ、今直チニ此交通調整法ニ依ッテ、他ノ地方ノ鐵道、或ハ軌道、乘合自動車事業全部ト合同セヨトハ申シマセス、又合同セント致シマシテモ、政治的ニ、或ハ經濟的ニ、社會的ニ、將タ技術的ニ、實際ノ運用ニ當ッテハ幾多ノ困難ガ伴フコトハ之ヲ認メマス、ケレドモ政府ハ自己ノ經營ニ係ル所ノ一切ノモノヲ提供セズ、民間ノモノノミヲ以テ之ヲ合同セヨ、合併セヨ、而シテ其成績ヲ舉ゲヨト指導勸告セラレマシテモ、私ハ

ソレハ不可能デナイカト慮レルノデアリマス、若シ不可能デナイト致シマシテモ、少クとも統制ノ效果ヲ十分ニ舉ゲ得ナイノデハナイカト云フコトヲ信ズル者デアリマス、デ私ハ此交通統制ニ付キマシテ、學者及ビ實際家ガ幾多ノ方法ヲ研究致シテ居リマス、簡單ニ之ヲ申シマスルナラバ、所謂交通網ノ統制、交通機能ノ統制、企業ノ統制、經營ノ統制、運輸ノ統制、或ハ強制任意ノ統制等ト、種々様々ノ議論ハアリマスケレドモ、少クとも今日ノ情勢ニ於テ、各國ノ例ニ於キマシテ、國有鐵道、國有電車、國有「バス」ヲ絕對ニ參加セシメズシテ、其成績ヲ舉ゲヨウト云フコトノ不可能デアルト云フコトハ、各國ノ學者モ、實際家モ之ヲ認メテ居ルノデアリマス、又之ヲ我國ノ實際ノ例ニ徵シマシテモ、昭和十年十月以來、交通問題研究會ヲ開催致シマシテ、各種ノ協會ガ交通統制案ヲ發表致シテ居リマス、現ニ去ル二月ニ鐵道省カラ業者有鐵道及ビ國有電車、及ビ「バス」ノ參加ヲ要望シテ居リマス、現ニ去ル二月ニ鐵道省カラ業者全般ニ對シマシテ、此法案ノ原稿ヲ發表致シマシタ際ニモ、業者ハ是非共國有鐵道、或ハ省營「バス」モ、省營電車モ、之ニ參加シテ貰ヒタイト云フ決議ヲ致シテ居ルノデアリマス、又茲ニ極メテ簡單ニ世界列國ノ重要ナル都市ニ於ケル實例ニ徵シマシテモ、彼等ハ多年研究努力致シマシタル結果、伯林ニ於キマシテモ、西曆千九百二十九年ニ路面電車、高速度鐵道、乘合自動車ノ全部ヲ統制致シテ、伯林運輸株式會社ニ經營致サセマシテ、國有鐵道モ參加致シテ居リマス、又倫敦ニ於キマシテモ、倫敦旅客運輸法ガ實施サレマシテ、倫敦市内ノ各交通機關ハ、國有鐵道其他一切ヲ舉ゲテ、倫敦旅客運輸局ノ統制經營ノ下ニ委ネラレテ居ルノデアリマス、又米國モ聯邦交通統制官ヲ新設致シマシテ、統制ニ邁進シツ、アルノデアリマス、其他「ボストン」、紐育、「フィラデルフィヤ」ノ交通統制ハ、理想ニ近キ成績ヲ舉ゲテ居ルノデアリマス、而モ最近鐵道大臣ハ七十三議會ニ於テ、電力國家管理案ノ委員會ニ於テ、鐵道省所有ニ係ル發電所ハ、其工事が完成シマスレバ、之ヲ特殊會社ニ提供シテモ宜シイト云フヤウナ意味ノ御答辯ガアッタト、私ハ記憶致シテ居ルノデアリマス、是等ノ諸點カラ考ヘマシテ、又世界ノ大勢ヨリ勘考致シマシテ、ドウシテモ私ハ省營電車ノ一部、或ハ國有鐵道ノ一部、及ビ其他政府ノ所有

ニ係ル所ノ設備、之ヲ本統制法ニ依テ統制サル、場合ニ、參加セシムルノ必要アリト、斯様ニ考ヘルノデアリマスルガ、主管大臣タル内務大臣及ビ鐵道大臣ハ、此點ニ對シテ如何ナル御見解ヲ有シテ居ラレルノデアルカ、御伺致シタイノガ私ノ第二點ノ質問デアリマス、アトハ極メテ簡單デアリマス、暫ク御清聴ヲ願ヒマス、更ニ第三點トシテ海軍大臣、鐵道大臣、遞信大臣、内務大臣ニ御伺致シタイコトハ、政府ハ此際事ヲ如キ效力ノ疑ハル、所ノ法案ノ撤回ヲサレテ、此際交通省ヲ設置スル所ノ意思ナキヤ否ヤノ點デアリマス、私ガ申上ゲル迄モナク、我國現在ノ交通事業ト致シマシテハ、陸上運送、海上運送、航空輸送ノ三者ヲ舉ゲナケレバナリマセヌ、更ニ又運輸事業ノ目的物ノ方面ヨリ之ヲ見マスナラバ、通信、運輸ノ如キモ此範疇ニ入ッテ參リマセウ、併ナガラ御承知ノ如ク我國ノ現在ニ於キマシテハ、其事業ノ性質ヨリ秘密ノ嚴守、運輸ノ迅速ト正確、料金ノ低廉、及ビ手續ノ簡便ヲ期スル意味ニ於テ、通信運輸ハ御承知ノ如ク遞信省ノ專屬管轄トシテ、國家ノ獨占事業ト致シテ居リマスカラ、今姑ク是ハ論ジマセヌ、併ナガラ荷モ政府ハ茲ニ此劃期ノ一大法案ヲ制定致シマシテ、世界ノ大勢ニ順應シテ將來ノ國策ヲ樹立セント致シマスナラバ、少クトモ十年、二十年先キノ將來ニ、是ガ見透シヲ付ケナケレバナラヌト私ハ信ズルノデアリマス、然ルニ本案ノ制定ニ當ッテ、海上運送、航空輸送ト云フモノヲ看過致シマシタルコトハ、鐵道省及ビ内務省トシテ一大失態デアラウト思フノデアリマス、而モ今同ノ支那事變ニ際シマシテ、日本全國ニ斯ノ如ク澎湃トシテ起ッテ來テ居リマスル所ノ此航空熱、此航空輸送ノ問題ニ對シテ、政府ガ一顧ダニ與ヘナカッタト云フコトハ、全年ノ長キ間、此統制問題ニ付テ研究ヲ重ネラレタト仰セラレテ居リマスルガ、一體何ヲシテ居ラレタカ、吾々ニハ全ク解スルコトガ出來ナイ、恐ラク鐵道當局ノ御意向トシテハ、航空輸送トカ或ハ海上運輸ト云フモノハ、現在ノ陸上運送ニ比較シテ、殆ド摩擦相剋ヲ起ス程度ニ相成ッテ居ラナイト、斯様ニ考ヘテ居ラル、カモ知レマセヌガ、ソレハ全ク認識不足デアリマス、今試ミニ我國ノ海運事業ニ付テ之ヲ檢討致シマシテモ、御承知ノ如ク商船ノ總噸數ハ、英米ニ次

イデ我ガ日本ハ今第三位ニ居リマス、所謂量ヨリ質ヘト轉換致シマシテ、益々其威力ヲ發揮シツ、アルノデアリマス、海運界ニ於ケル所ノ競争ノ激烈ナルコトハ、或ル意味ニ於キマシテハ陸運以上ト稱セラレテ居ルノデアリマス、是ニ於テカ海運同盟ハ是ガ競争ノ防止ニ付テ、陸上運送ト同ジク種々ノ對策ヲ講ジテハ居リマス、ケレドモ中々是ガ統制ハ困難ヲ感ジテ居ルノデアリマス、而モ海運界ニモ御承知ノ如ク定期船主アリ、不定期船主ガアリマシテ、其抗争ハ中中ニ激化致シテ居リマス、幾多ノ懸案山積シテ、決シテ此儘ニハ放任出來ナイヤウナ情勢ニ相成ッテ居ルノデアリマス、又一面航空事業ヲ見マシテモ、御承知ノ如ク昭和十一年度ヲ契機ト致シマシテ、約一萬「キロ」ニ達シ、愈々茲ニ實用時代ニ航空輸送ハ入ッテ參ッテ居ルノデアリマス、鐵道省ニ於カレマシテモ、鐵道ト航空ト連絡運輸ヲ計畫セラレマシテ、昭和十一年ノ十月四日、國鐵ト日本空輸、滿洲航空、是等ノ諸會社ノ提携ガ結成セラレマシタルコトハ、洵ニ喜バシイコトデアリマスルガ、以上述べマシタル如クニ、我國交通界ノ全般ノ大勢ヨリ觀察致シマスルニ、陸海空各種交通機關ノ競争ハ、將來益々激化スルノ傾向ニアリト致シマスルナラバ、此際三等三者ヲ合併致シマシテ、所謂交通省ヲ設置スル所ノ必要ガアルト、斯様ニ私ハ痛感スルノデアリマスルガ、現在ノ如ク管轄權ガ或ル部分ニ於テハ鐵道省ニ在リ、或ル部分ニ於テハ遞信省ガ之ヲ有シテ居ル、或モノハ内務省ニ屬スルト云フヤウナコトデハ、到底我國ノ將來ニ於ケル所ノ陸上運送、海上運輸、航空運輸ト云フモノハ、發達ヲ期スルコトハ出來ナイト私ハ信ズルノデアリマス、ソコデ私ハ先程來列舉致マシタ所ノ是等ノ點ニ付テ、各大臣ノ御見解ヲ承リタイノデアリマスルガ、尙ホ最後ニ一點御忠告ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマスルコトハ、若シ經費ノ都合上、交通省設置ノ事業ガ直チニ實現シ得ラレナイトシマスルナラバ、寧ロ此際虛心坦懷ニ、遞信省モ、内務省モ、自己ノ管轄權ヲ拋棄シテ、何ガ故ニ鐵道省一大臣ニ其權限ヲ任セナイカ、所謂監督權ヲ集中スルノ勇氣ト雅量ナキヤヲ伺ッテ置キタイト思フノデアリマス、是ガ私ノ第三點ノ質問デアリマス、更ニ第四點ト致シマシテ、鐵道、内務兩主管大臣ニ御尋ヲ致シタイコトハ、附帶事業デアリマスルガ、地方鐵道又ハ軌道會社ガ、現在交通事業ニ牽聯シテ經營致シテ

居リマスル所ノ百貨店、或ハ土地經營、電力、電燈ト云フヤウナ、諸事業ニ對スル所ノ處置デアリマスルガ、是等ノ事業ガ此統制法ニ依リマシテ統制セラレタル後ニ於テ、獨立シテ營業シ得ル場合ハ差支アリマセヌガ、例ヘバ大阪ニ於ケル所ノ阪急百貨店、阪神ノ甲子園、或ハ東京方面ニ於キマシテモ、東横電軌ノ澁谷ニ於ケル所ノ百貨店、或ハ京王電軌ノ京王閣ノ如キ、或ハ京成電車ノ谷津遊園地ノ如キモノハ、相當ノ打撃ヲ受ケルト云フヨリハ、寧ロ私ハ經營不能ニ陥ルモノト信ジマスルガ、是等ニ對シマシテハ法文ノ第二條ニ、主務大臣ハ調整ノ必要アリト思フ時ニハ、調整スベキ事業ノ種類及ビ範圍ヲ決定スベシトアリマスルカラ、此中ニ包含サレルコトトハ思ヒマスルガ、御承知ノ如ク交通事業調整委員會ハ諮問機關デアリマス、何等ノ權限ヲ持ツテ居リマセヌカラ、主務大臣ノ任意ニ是等ノ事業ノ種類及ビ範圍ヲ決定スルコトガ出來ルノデアリマスルカラ、何卒此點ニ對スル所ノ主務大臣ノ確然タル御答辯ヲ伺フテ置キタイト思フノデアリマス、而モ最後ニ一點是亦御伺致シタイコトハ、倫敦ニ於ケル倫敦旅客運輸局ノ如ク、或ハ米國ノ聯邦交通統制官ノ如ク、或ル程度ノ權限ヲ此委員會ニ持タセル所ノ意思ハナイカ、斯ウ云フ點デアリマス、第五點トシテ、鐵道、内務兩大臣ニ御尋致シタイコトハ、是ハ本法案ノ眼目トモ稱スベキ重大ナル點デアリマスルガ、本法實施地域ノ順序ノ問題デアリマス、換言致シマスレバ、先ヅ何レノ地域ヨリ之ガ統制ヲ開始スルヤノ點デアリマス、申ス迄モナク、今日我等ガ最モ其必要ヲ痛感致シテ居リマスルモノハ、東京市ヲ始メトシテ、所謂六大都市デアリマスルガ、假ニ一例ヲ東京市ノ新宿方面ニ取リマスルナラバ、御承知ノ如ク同所ニハ、實ニ十指ヲ屈スル所ノ交通機關ガ、アノ狭イ地點ニ集中シテ居ルノデアリマス、曰ク西武鐵道、曰ク東京市營自動車、東京乘合自動車、京王電鐵、甲州街道乘合自動車、省線電車、省營鐵道、曰ク東京市營路面電車等、即チ是デアリマス、而モ又近キ將來ニ東京驛ヨリ、此方面ニ高速度地下鐵道ガ建設サレント致シテ居ルノデアリマス、此多數ノ交通機關ガ亂雜無統制ヲ極メテ居リマスル其中ヲバ、更ニ二萬數千臺ノ圓「タク」、或ハ「タクシー」、「トラック」ガ縱横ニ馳驅致シマシテ、其危險、其混雜、全ク我等ノ想像以上デアリマシテ、サナガラノ交通地獄ヲ

現出致シテ居ルノデアリマス、鐵道大臣ヲ始メ政府大官諸公ハ、出ルニ又入ルニ高級自動車ガ待テ居リマス、迎フルニ國有鐵道ガアリマス、吾々一般大衆ノ此苦痛、懊惱ヲ、定メシ御經驗ガナイカモ知レマセヌガ、願クハ一日暇ヲ割カレテ、此交通地獄ヲ體驗サレタイノデアリマス、我等國民一般大衆ハ、此交通混雜ノ外ニ、尙ホ交通事故ト云フ一大悲慘事ニ脅カサレテ居ルノデアリマス、最近ノ警視廳管下ニ於ケル交通事故ノ統計ヲ檢シマシテモ、一箇年間ニ實ニ三萬二千件ノ多キニ達シテ居リマス、死傷シタル者二萬人、一日平均五・六二人ト云フ、夥シキ數ニ上ツテ居ルノデアリマス、更ニ又之ヲ全國的ニ見マシテモ、七萬四千件ノ多キニ上リマシテ、此中負傷シタル者四萬七千人、死者二千九百九十人ノ多キニ達シテ居ルノデアリマス、無論是等ノ中ニハ過失ニ因ルモノモアリマセウガ、今少シク交通機關ニ統制ガアリ、規律ガアリ、而シテ交通量ガ適度ニ保持セラレマシラバ、或ル程度マデ是等ノ事故ヲ防止シ得ルモノト私ハ信ズルノデアリマス、論ズル迄モナク、交通機關ハ唯單ニ正確デアリ、敏速デアリ、快的デアリ、又其料金ガ低廉ナルノミデハ、其目的ガ達成セラレタリトハ申サレヌト私ハ思フノデアリマス、即チ交通機關ハ其公共性ニ鑑ミマシテ、ドウシテモ一般大衆ノ便不便ト云フコトヲ主眼トシナケレバナラナイト、私ハ斯様ニ考ヘルノデアリマス、此見地カラ致シマシテ、本統制法ガ今同假ニ本議會ヲ通過致シマシテ、法律ト相成リマシタル曉ニ於テ、先ヅ第一ニ我等ガ政府ニ對シテ要望シマスル所ハ、實施地域ノ順序ノ問題デアルト信ズルノデアリマス、然ルニ之ニ付テハ何等法文化サレテ居リマセヌ、政府ハ此點ニ對シテ如何ナル御所見ヲ御持チニナツテ居ルカ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、マダモウ一ツアリマスガ、此交通地獄ヲ現出致シテ居リマスル所ノ圓「タク」、及ビ「タクシー」、及ビ「トラック」ヲ、何故政府ハ此交通統制法ニ入レナカッタカト云フ點デアリマス、此點ニ付テハ各學者モ、實際家モ、頭ヲ悩マシテ居リマス、政府ハ此點ニ付テ斯様ニ言フノデアリマス、東京ヲ始メトシテ各都市ノ圓「タク」業者ヲ交通統制スルコトハ必要デハアルケレドモ、併ナガラ失業問題ト云フコトモ考ヘナケレバナラヌト言フノデアリマス、併ナガラ私ハ之ヲ否定シタイト思ヒマス、失業者ガ出來レバ、政府ハ之ヲ轉職サセルガ宜シイ、



又中古ノ自動車ノ如キハ、政府ガ之ヲ買收スルガ宜シイ、サウシテ折角此交通統制法ニ依ッテ交通地獄ヲ救ヒ、又業者ヲ救ヒ、一般大衆ノ便利ニ獻益セントスルナラバ、ドウシテモ、私ハ此圓「タク」業者、及ビ「タクシ」、「トラック」ト云フモノニ付テ、何等カノ對策ガ講ゼラレナケレバナラナイト思フデアリマスガ、内務大臣及ビ鐵道大臣ハ、將來此點ニ對シテ如何ナル御見解ヲ有セラル、カヲ伺ヒマシテ、私ノ質問ヲ一應打切ル次第デゴザイマス

中島鐵道大臣ノ應答

紅露君ニ御答致シマス、質問ノ第一點ハ、合併、設立ヲ勸告ト致シタノデハ、其目的ハ達成セラレナイデハナイカト云フコトデゴザイマシタガ、合併、設立ヲ勸告ト致シタノハ、先程申上ゲタヤウナ理由ニ依ルデアリマス、此交通事業ノ調整ニ關シマシテハ、以前カラ民間側ニ其希望ガ蘊藏シテ參リマシテ、幾多ノ陳情、請願、建議等ニ現レテ參ッタノデアリマシテ、民間業者ハ肚ノ中デハ、現在ノ競争ニ堪ヘラレズシテ、合併ヲシタイト云フ考ガアルノデアリマス、隨テ勸告ヲ以テシテモ、其機運ガ滿チテ來テ居ル際デアリマスルカラ、相當ノ效果ヲ擧ゲ得ルモノデアルト信ジテ居ルデアリマス、ソレカラ勸告ト云フ美名ニシテ置イテ、陋劣ナル手段ヲ以テ強要スルト云フヤウナコトハ、排撃スルト云フ御話デアリマシタガ、勿論吾々ト致シマシテモ、陋劣ナル手段ヲ以テ強要スルヤウナコトハ絕對ニ致サヌ考デアリマス、第二點ハ、國有鐵道ト調整法トノ關係ハドウナルノカト云フ御問デアリマシタガ、國有鐵道モ幹線ヲ成ス部分、又ハ軍事上國有トシテ置カナケレバナラヌヤウナ場所ヲ除イタ地方的ノモノハ、進ンデ調整ニ參加スル考デアリマス、第三點ハ、交通省ヲ設置シテハドウカ、又交通省設置マデ本案ヲ撤回シテハドウカト云フ御問デアリマシタガ、交通省ノ設置ニ關シマシテハ、色々ノ事情、其利害等ヲ慎重ニ考究スベキ大問題デアルト考ヘマスルノデ、現在政府ニ於キマシテハ、交通省設置ニ關スル具體的意思ヲ發表スルノ程度ニ至ッテ居ラヌデアリマス、本案ハ交通省ガ設置セラレテモ、セラレナクテモ、本案ニ依ッテ調整ヲシテ置イテ、何等ソレニ支障ヲ來スモノ

デナイノデアリマスルカラ、先ヅ本案ヲ實行シテ行キタイト云フ考デアリマシテ、撤回スルノ意思ハ持ッテ居リマセヌ、ソレカラ鐵道省ハ航空輸送ニ關シテ冷淡デハナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、今日ノ航空機ノ發達ノ程度ニ於キマシテハ、之ヲ此交通事業調整ノ中ニ織込ムト云フコトハ、少シ早カラウト考ヘテ居ルデアリマス、何レ航空機ガ更ニ一段ト發達致シマシテ、輸送力ガ更ニ増大シ、運行ノ經費等ガモウ少シ割安トナリ、又發着場ニ於ケル發着ガ、更ニ一層容易ニナツテ來ルヤウナ場合ニハ、當然本案ノ中ニ包含サレテ行クベキモノト考ヘテ居ルデアリマスルガ、今日之ヲ爲スト云フコトハ、少シ尙早ナリト考ヘテ居ル次第デアリマス、第四ハ、附帶事業ヲ調整ノ中ニドウ云フ風ニ織込ムカト云フ御問デアリマシタガ、現在ノ交通事業者ガ色々ノ附帶事業ヲ持ッテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマスガ、其附帶事業ノ中ニハ色々アルノデアリマシテ、其附帶事業ガ交通事業者ノ本業ニ依存シテ立ッテ居ルト云フヤウナモノハ、此調整法ノ中ニ入レテ行キタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、第五點ハ、委員會ニ大ナル權限ヲ持タセテハドウカト云フ御問デアリマシタガ、此調整法ノ根本趣旨ハ、民間側ノ現在ノ狀態ニ堪ヘラレナイト云フヤウナ機運ノ醸成ニ順應シテ、此調整法ヲ出シタノデアリマシテ、其根本ハ成ベク自治的ニ調整ヲ行フヤウニ仕向ケル、業者間ニ於テソレガ出來ナイヤウナ場合ニ限ッテ、政府ガ調整委員會ノ意見ヲ徵シテ、世話ヲスルト云フコトデアリマス、第六點ハ、調整ハ何レノ地域カラ始メルカト云フ御問デアリマシタガ、是ハ其必要度ノ大ナル處、又其地方々々ニ於テ、其機運ガ十分ニ滿チテ來テ居ル處等カラ、順次行ッテ行ク考デアリマスルガ、是等ニ付キマシテモ、十分調整委員會ノ意見ヲ徵シテ行ヒタイト考ヘテ居リマス、第七點ハ、圓「タク」、「トラック」等ニ關シテ規定ガナイガ、是ハドウスルカト云フコトデアリマシタガ、是等ハ個人々々ノ經營ニ屬シテ居リマシテ、直チニ茲ニ規定スルト云フコトハドウカト考ヘタノデアリマス、隨テ將來必要ニ應ジテハ勅令ヲ以テ、是等ノ中必要ナモノヲ抽出シテ行ヒ得ルヤウニ、法律ニ規定シテアルノデアリマス

末次内務大臣ノ應答

御答致シマス、此法案ハ内務省、鐵道省、十分協議ノ上提出致シマシタ案デアリマシテ、七項

ニ五ル御質問ニ對シマシテ、内務省ト致シマシテハ、鐵道大臣ノ御答辯ト何等變タ答辯ノ致シヤウハナイノデアリマス、其中デ質問ノ第一點、勸告ニ止メテ宜イノカト云フ點ニ付キマシテハ、勸告ヲ以テ十分ニ調整ノ目的ヲ達シ得ルト、内務省デモ信ジテ居ルノデアリマス、交通省設置ノ件デアリマスガ、是ハ御高見ノ通りニ、十分ニ研究致シタイト存ジテ居リマス

紅露君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

遞信大臣、陸軍大臣及ビ海軍大臣ハ御出席ガアリマセヌカラ、政務次官カラ適當ノ機會ニ御答辯下サルヤウニ御願致シテ置キマス

次テ本案ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌五日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書

陸上交通事業調整法案中左ノ通修正ス

(小字ハ委員會修正)

第二條 主務大臣公益ノ増進ヲ圖リ陸上交通事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲陸上交通事業ノ調

整ヲ爲サントスルトキハ交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ調整ノ區域、調整スベキ事業ノ種類及範圍。並ニ左ノ各號ニ依ル調整ノ方法ヲ決定スベシ

- 一 會社ノ合併又ハ設立
  - 二 事業ノ讓受又ハ讓渡
  - 三 事業ノ共同經營
  - 四 事業ノ管理ノ委託又ハ受託
  - 五 連絡上必要ナル線路其ノ他ノ設備ノ新設、變更又ハ共用
  - 六 運賃又ハ料金ノ制定、變更又ハ協定
  - 七 連絡運輸、直通運輸其ノ他運輸上ノ協定
  - 八 用品其ノ他ノ共同購入、共同修繕其ノ他調整上必要ト認ムル方法
- 主務大臣ハ前項ノ決定ニ依リ陸上交通事業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ實施ヲ勸告シ又ハ同項第二號乃至第八號ノ事項ノ實施ヲ命ズベシ
- 第十二條 陸上交通事業經營者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ。左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 他人ヲシテ事業經營者ノ計算ニ於テ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト  
 三 事業ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲サシムルコト  
 四 免許又ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

同月十五日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長星島二郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレマシタ陸上交通事業調整法案ニ於ケル委員會ノ經過ト結果ヲ御報告申上ゲマス、  
 本案ハ我國ノ交通行政ト致シマシテハ、可ナリ劃期的ナル大法案デアリマシタノデ、委員會ハ  
 過グル五日ヨリ十二日マデ、連日ニ互リ、委員諸君ノ實ニ熱心ナル慎重審議ガ行ハレマシタ、  
 本法ノ目的トスル所ハ、現在大都市其他特殊地域ニ於キマシテ、陸上交通事業ガ併立競争ノ弊  
 ニ陥ッテ居ルノヲ調整シ、サウシテ國家的ノ不經濟ヲ除去シ、一般ノ利用大衆ノ便益ヲ増進ス  
 ルト共ニ、事業ノ健全ナル發達ニ資スルコトヲ目的トスルノデアリマス、サウシテ此事ハ一般  
 社會ハ固ヨリ、事業經營者側ニ於キマシテモ多年要望シテ居リマシタコトデ、又本院ニ於キマ  
 シテモ度々議員提出案ト致シマシテ、既ニ通過シタコトモアル案デアリマスノデ、本法制定ノ  
 趣旨ニ付キマシテハ、何レモ贊意ヲ表セラレタノデアリマスガ、次ノ諸點ニ付キマシテ論議ガ  
 アリマシタ、先ヅ本法ハ地方鐵道、軌道事業、自動車運輸事業、其他勅令ヲ以テ指定スル事業  
 ニ適用サレルノデアリマスガ、國有鐵道、省營「バス」ニ適用アリヤ否ヤ、「タクシー」ハ如何ニ  
 スルカトノ論議ガアリマシタ、之ニ對シテ政府カラハ、國有鐵道及省營「バス」ハ、調整上必  
 要アル場合ハ進ンデ之ニ參加スル決意ヲ有スルガ、國ノ事業デアルカラ、法制ノ立前ニ於テ、  
 直接本法ノ適用ハ受ケナイ、又「タクシー」ハ多數ノ業者ニ分レテ居ル場合ガ多ク、今直チニ之  
 ニ適用スルコトハドウカト思ハレルノデ、將來必要ニ應ジ勅令ニ依ッテ指定スル積リデアルト

ノ答辯ガアリマシタ、本法ハ調査ニ關シ會社ノ合併又ハ設立ニ付テハ勸告ヲ爲スニ止ッテ居ル  
 ノデアアルガ、何故之ヲ勸告ニ止メタカノ論議ガアリ、之ニ對シテ政府カラハ、現行法制ノ立前  
 カラ見テ、會社ノ合併又ハ設立ニ付テハ、勸告ニ止ムルノヲ適當ト認メル、又ソレデ大體目的  
 ヲ達シ得ルモノト考ヘル旨ノ答辯ガアリマシタ、又本法デハ讓受ノ價格ニ關シ、協議ガ調ハザ  
 ルトキハ主務大臣ガ裁定スルコトニナッテ居ルノデアアルガ、此場合如何ナル標準ヲ以テ裁定ス  
 ルカトノ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ讓受價格ニ付テハ專ロ一定ノ標準ヲ設ケナイコト  
 ガ實情ニ適スルモノト答ガアリマシタ、本法デハ調整ニ關スル計畫ノ決定、協議ガ調ハザル  
 場合ノ裁定、其他本法ノ實際ノ運用上、交通事業調整委員會ガ重要ナル使命ヲ有スルモノデア  
 リマスルガ、其組織構成ハドウスル考デアルカトノ論議ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、貴  
 衆兩院議員、學識經驗者、關係各廳高等官、地方ノ事情ニ通曉セル者等ヲ委員トシテ、權威ア  
 ル意見ヲ徵シ、遺憾ナキヲ期スル積リデアルトノ答辯ガアリマシタ、又本法ハ事業ノ經營主  
 體ニ付テ明示シテ居ナイガ、如何ナル形態ヲ以テ最善ナリト信ズルヤトノ論議ガアリ、之ニ對  
 シテ政府ハ、各地域ニ於ケル實情ニ即シテ、最モ適當ナル形態ニ依ル調整ヲ爲ス考デアルト答  
 ヘラレマシタ、更ニ制裁ハ少シク強過ギルノデハナイカトノ質問ニ對シマシテ、本法ノ制裁ハ  
 大體地方鐵道法、軌道法等ノ例ニ倣ッタモノデアッテ、妥當ノモノト考ヘル旨ノ答辯ガアリマ  
 シタ、本法ノ運用上ハ固ヨリ、將來ノ交通事業調整ノ爲ニハ、交通省ノ如キモノヲ設置シテハ  
 如何トノ論議ニ對シ、行政機構ノ改革ハ行政ノ運用ヲ綜合的ニ觀察シ、又各種行政機關ノ今日  
 迄ノ沿革等ヲ考慮シテ、慎重ニ決スベキ問題デアルトノ答ガアリマシタ、其他交通事業ト密  
 接ナル關係ヲ有スル兼業ヲ如何ニ處置スルカ、合併等ノ場合ニ從業員ノ待遇低下ヤ、或ハ失業  
 者ヲ出スヤウナコトナキヤノ質問ニ對シマシテ、委員各位ト鐵道、内務兩當局トノ間ニ、熱心  
 ナル質問應答ノ交換ガアッタノデアリマス、ソコデ討論ニ入りマシテ、次ノヤウナ修正案ガ出  
 マシタ、第二條第一項中「事業ノ種類及範圍」ノ次ニ「之ト密接ナル關係ヲ有スル兼業ノ處置」ヲ  
 加フ、第十二條ノ即チ處罰規定デスガ「主務大臣ハ」ノ次ニ「交通事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ」

ヲ加フ、是ガ修正デアリマス、此修正ハ民政黨ヲ代表シテ清水徳太郎君ヨリ勸議ガ提出セラレ、之ニ對シテ政友會ヲ代表シマシテ佐藤洋之助君ガ賛成ノ意ヲ表セラレ、社會大衆黨ヲ代表シテ永江一夫君、第二控室ヲ代表シテ道家齊一郎君ガ賛意ヲ表サレマシタ、而シテ修正ヲ代表シテ本法案ヲ全員一致議決致シタノデアリマス、修正ニ對シマシテ、中島鐵道大臣ヨリ十分考慮メルトノ御答辯ガアリマシタ、尙ホ民政黨、政友會、社會大衆黨、第二控室ノ各派カラ種々ノ希望條項ガ出マシタガ、中ニハ重複シテ居リマス點モアリマスノデ、私ハ之ヲ整理シマシテ、其要綱ヲ申シマスルト

一、幹線ナラザル國有鐵道、省營「バス」ヲ積極的ニ調整ニ參加セシムベシ  
二、主務大臣ガ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ裁定金額ノ算出ニ付命令其ノ他ノ方法ニ依リ一定ノ標準ヲ定ムベシ

三、市内ニ於ケル水路交通事業ヲモ陸上交通事業ト併セ調整スベシ  
四、調整ニ當リテハ

(イ) 公營ノ方針ヲ貫キ地方自治體ヲ經營ノ主體トスルコト

(ロ) 運賃ノ引上ゲヲ來サザルセウ嚴重ニ監督スルコト

(ハ) 從業員ノ待遇ヲ低下セシメザルハ勿論絕對ニ失業者ヲ出サザルコト

(ニ) 交通事業調整委員會ノ構成ハ公平ヲ期スルコト  
等デアリマシタ、委員會ハ是等希望條項ヲ何レモ理由アルモノトシテ可決シマシタ、詳細ニ互ッ  
タコトハ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願フコトニ致シマシテ、委員長ハ是ダケヲ御報告致シマス、  
何卒御贊同ヲ賜ランコトヲ御願致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十二日可決奏上シ四月二日法律第七十一號ヲ

以テ公布セラル

### 六五 本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律案

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ命令ノ定ムル外國債ハ租税ノ賦課又ハ納税ノ擔保ニ關シテハ之ヲ國債ト看做ス

#### 附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前募集シタル外國債ニハ本法ヲ適用セズ

右ハ昭和十三年三月四日本院ニ提出ス同月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ太田大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律案ニ付テ御説明申上  
ゲマス、我國ノ國債ニ對シマシテハ、租税ノ賦課並ニ納税ノ擔保ニ付キ、其性質上他ノ有價證券  
ト比ベマシテ特例ガ設ケラレテ居ルノデアリマスケレドモ、外國ノ國債ニ付キマシテハ、斯様ナ  
取扱ヲ致シテ居ラナイノデアリマス、然ルニ外國ノ國債ニ付キマシテモ、我が國內ニ於テ募集  
セラレタモノニ付キマシテハ、此際一定條件ノ下ニ我國ノ國債ト同様ノ待遇ヲ與ヘマシテ、其

發行ニ便宜アラシメタイト存ズルノデアリマス、差當リマシテハ滿洲國ノ國債ニ其適用アリト認メラレルノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ御願致シマス

次テ本案ハ政府提出臨時租稅增徴法中改正法律案外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十九日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案、五乃至一二及三五乃至三八ノ十三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ院議異議ナク十三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二、第三讀會ヲ開キ本案ハ委員會報告ノ通可決シ(委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第五參看)即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十四日可決奏上シ六月一日法律第八十七號ヲ以テ公布セラル

### 六六 農業保險法案

#### 農業保險法

##### 第一章 農業保險

第一條 市農會又ハ町村農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケ風水害其ノ他ノ災害ニ因リ會員ノ被ル農作物ノ收穫上ノ損失及小作料ノ取得上ノ損失ニ付共濟金ノ交付ヲ爲ス

事業(共濟事業)ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ共濟事業ヲ行フ市農會又ハ町村農會ハ之ニ因リ會員ニ對シテ負フ共濟責任ニ付相互保險ヲ爲ス目的ヲ以テ農業保險組合ヲ設立スルコトヲ得  
共濟責任ノ保險ニ付セラルベキ共濟ノ目的タル農作物及小作料、共濟事故竝ニ共濟責任期間ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 養蠶業ニ關スル共濟施設ヲ行フ養蠶實行組合ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ前條第二項ノ規定ニ依ル農業保險組合ノ設立者又ハ組合員タルコトヲ得

第三條 農業保險組合ハ法人トス

第四條 農業保險組合ノ區域ハ郡又ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

前項ノ規定ニ於テ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長管轄區域トス

第五條 農業保險組合ハ其ノ名稱中ニ農業保險組合ナル文字ヲ用フベシ

農業保險組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ農業保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ事實ノ生ジタル後三週間以内ニ之ヲ各事務所ノ所在地ニ於テ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 農業保險組合ニハ所得税及營業收益税ヲ課セズ

第八條 農業保險組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

第九條 本法ニ依ル農業保險ニ關スル書類ニハ印紙税ヲ課セズ

第十條 農業保險組合ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ區域ヲ定メ其ノ區域内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ理事及監事ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ創立總會ノ決議ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 農業保險組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 區域

四 事務所ノ所在地

五 保險スベキ共済責任

六 保險料率

七 準備金ノ積立及管理ノ方法

八 共済基金ニ關スル規定

九 剩餘金處分及不足金填補ノ方法

十 組合員タル資格ニ關スル規定

十一 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十二 事業執行ニ關スル規定

十三 役員ニ關スル規定

十四 組合ガ公告ヲ爲ス方法

十五 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十二條 主務大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ニ組合ヲ設立スベキコトヲ命ジ又ハ組合ノ區域内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者命令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ認可ヲ申請セザルトキ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

ハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 農業保險組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

前條ノ規定ニ依ル組合ノ設立アリタルトキハ其ノ組合ノ區域内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十四條 農業保險組合ノ設立アリタルトキハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一 第十一條第一號乃至第三號、第十四號及第十五號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 成立ノ年月日

四 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ

第十五條 農業保險組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合ノ行フ保險ニ付セラルベキ第一

條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ノ總テニ付共濟ヲ行フコトヲ要ス

第十六條 農業保險組合ノ組合員タル市農會又ハ町村農會及養蠶實行組合ハ其ノ地區ガ重複ス

ル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同一地區内ノ同一ノ共濟ノ目的ニ付重複シテ組合ノ保險ニ付スルコトヲ得ズ

第十七條 農業保險組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事

故ニ付組織員ニ對シテ負フ共濟責任ノ總テヲ保險ニ付スベシ

組合ハ組合員ニ對シテ正當ノ事由ナクシテ保險ノ引受ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十八條 農業保險組合ノ組合員ハ定額ノ保險料ヲ釐出スルコトヲ要ス

保險料及保險金額ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 農業保險組合ハ第一條第三項ノ共濟ノ目的タル農作物及同項ノ共濟ノ目的タル小作

料ノ生ズル小作地ノ農作物ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ割合以上ノ被害アリタル場合ニ

限リ其ノ被害程度ニ應ジテ定メタル保險金ヲ組合員ニ對シテ支拂フモノトス

第二十條 農業保險組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ支拂ニ不足ヲ生ズルトキハ保險金額ヲ削減スルコトヲ得

第二十一條 農業保險組合ノ組合員ハ組合ニ釐出スベキ保險料ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十二條 農業保險組合ノ組合員保險料ノ拂込ヲ遲滞シタルトキハ組合ハ其ノ遲滞期間中ニ

生シタル事故ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ニ付支拂ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十三條 農業保險組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一條第三項ノ共濟ノ目的タル農作物及同項ノ共濟ノ目的タル小作料ノ生ズル小作地ノ農作物ニ付耕作細目書ヲ組合ニ提出スベシ

組合員惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ前項ノ耕作細目書ノ提出ヲ怠リ又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ニ付支拂ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十四條 農業保險組合ノ組合員ハ第一條第三項ノ共濟ノ目的タル農作物及同項ノ共濟ノ目的タル小作料ノ生ズル小作地ノ農作物ニ付通常爲スベキ肥培管理其ノ他損害防止ニ付指導ヲ爲スベシ

組合員惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ニ付支拂ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十五條 農業保險組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ損害ノ防止ニ關シ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 農業保險組合ハ組合員ヲシテ損害ノ防止ノ爲特ニ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合員ノ負擔シタル費用ハ組合ノ負擔トス

組合員前項ノ規定ニ依ル組合ノ指示ニ從ハザルトキハ組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ニ付支拂ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十七條 農業保險組合ハ損害ノ防止又ハ損害ノ評價ノ爲必要アルトキハ何時ニテモ組合員ノ組織員ノ耕作スル土地ニ立入り又ハ其ノ耕作及收穫ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第二十八條 農業保險組合ノ組合員ハ命令ヲ以テ定ムル事故發生シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ組合ニ通知スベシ

組合員ハ第一條第三項ノ共濟ノ目的タル農作物及同項ノ共濟ノ目的タル小作料ノ生ズル小作地ノ農作物ニ付共濟金ノ支拂ヲ爲スベキ損害アリト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク其ノ旨ヲ組合ニ通知スベシ

組合員前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ニ付支拂ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十九條 農業保險組合ノ組合員ノ支拂フ共濟金ノ額ハ組合ヨリ支拂ハレタル保險金ノ額ヲ下ラザルコトヲ要ス



第三十條 農業保險組合ノ組合員ハ第二十二條、第二十三條第二項、第二十四條第二項、第二十六條第二項又ハ第二十八條第三項ノ規定ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ受ケザルトキト雖モ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組織員ノ責ニ歸スベキ事由ナキ限り共濟金ヲ支拂フコトヲ要ス

第三十一條 耕地ノ所有者ガ農業保險組合ノ組合員ヨリ第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ニ付共濟金ノ支拂ヲ受クルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ共濟金ノ額ニ相當スル部分ノ小作料ハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

他人ノ土地ニ付耕作ヲ營ム者ガ組合員ヨリ第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ニ付共濟金ノ支拂ヲ受クルモ之ニ因リ其ノ土地ニ付權利ヲ有スル者トノ間ノ權利義務ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第三十二條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ農業保險組合ヲシテ組合員ノ第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ニ關スル共濟金支拂ノ義務ニ代ヘ組合員ノ組織員ニ對シ保險金ヲ支拂ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合員ニ對スル保險金支拂ノ義務ヲ免ル

第三十三條 農業保險組合ノ組合員ガ第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ニ付支拂フ共濟金ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十四條 農業保險組合ヨリ保險金ノ支拂ヲ受クル權利及組合ノ組合員ヨリ共濟金ノ支拂ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三十五條 商法第三百九十七條、第三百九十九條、第四百條、第四百三條第一項及第四百十七條ノ規定ハ農業保險ニ之ヲ準用ス

第九條及商法第四百十七條ノ規定ハ農業保險組合ノ組合員ガ第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ニ關シ共濟事業又ハ共濟施設ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 農業保險組合ハ保險事業ヲ行フノ外命令ノ定ムル所ニ依リ總會ノ議決ヲ經テ行政官廳ノ認可ヲ受ケ共濟基金ヲ積立テ組合員ニ對シ共濟金ノ交付ヲ爲ス事業ヲ行フコトヲ得

第九條及第三十四條並ニ商法第四百十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テハ組合員ハ組合ヨリ交付セラルル共濟金ヲ組織員ニ交付スル爲之ニ關スル規程ヲ設ケ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第九條、第二十九條及第三十三條並ニ商法第四百十七條ノ規定ハ前項ノ規程ニ基キ組合員ガ共濟金ノ交付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 農業保險組合ニハ理事及監事ヲ置ク

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員タル法人ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ設立當時ノ理事及監

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 一四四七

事ハ第三十八條ノ場合ヲ除クノ外創立總會ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル法人ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ組合ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ前項ニ該當セザル者ヨリ理事又ハ監事ヲ選任スルコトヲ得

第三十八條 主務大臣第十二條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ農業保險組合ノ理事及監事ヲ命ズ

第三十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備置キ且命令ノ定ムル所ニ依リ組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クベシ

第四十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及剩餘金處分案又ハ不足金填補案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フベシ

第四十一條 農業保險組合ノ組合員及組合ノ債權者ハ前二條ノ書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十二條 農業保險組合ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス  
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ  
理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ行府官廳ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第四十三條 農業保險組合ノ組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ

依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エザル範圍内ニ於テ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第四十四條 農業保險組合ノ組合員ハ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ提出スベシ

第四十五條 總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルトキハ農業保險組合ノ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

商法第六十三條第二項第三項及第六十三條ノ四ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 農業保險組合ノ事業年度ハ一年トス

第四十七條 農業保險組合ハ每事業年度ノ終ニ於テ存スル農業保險ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十八條 農業保險組合ハ不足金ノ填補ニ備フル爲每事業年度ノ剩餘金中ヨリ命令ノ定ムル所ニ依リ準備金ヲ積立ツベシ

第四十九條 農業保險組合ノ組合員命令ノ定ムル所ニ依リ一定年間自己ノ責ニ歸スベキ事由ナクシテ組合ヨリ保險金ノ支拂ヲ受ケザルトキ又ハ支拂ヲ受ケタル保險金ガ一定額ニ滿タザルトキハ組合ハ組合員ニ對シ保險料ノ一部ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得  
商法第四百十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十條 第三十六條第一項ノ共濟基金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合ノ每事業年度ノ剩餘金ノ一部及組合員ヨリ徵收シタル共濟掛金ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ共濟基金ハ共濟金又ハ前條ノ拂戻金ノ支拂其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ他ノ費用ニ充ツルコトヲ得ズ

第五十一條 農業保險組合ハ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ正當ノ事由ナクシテ組合員ト爲ルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

第五十二條 農業保險組合ノ組合員タル法人ニ付合併又ハ分割アリタルトキハ合併後存續スル者ニシテ組合員タラザルモノ又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立シタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入シタルモノト看做ス

第五十三條 地區ノ重複スル市農會又ハ町村農會及養蠶實行組合ハ協議ノ上主務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一方ガ農業保險及第三十六條第一項ノ規定ニ依ル事業ニ關シ

テ有スル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第五十四條 農業保險組合ノ組合員ハ左ノ事由ニ因リテ組合ヨリ脱退ス

- 一 第一條第三項ノ共濟ノ目的及共濟事故ニ關スル共濟事業又ハ共濟施設ノ廢止
- 二 解散又ハ合併若ハ分割ニ因ル消滅

第五十五條 農業保險組合ノ組合員ハ組合ヲ脱退シタルトキト雖モ脱退ノ日ノ屬スル事業年度ノ保險金額ノ削減ニ關シテハ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ズ

第五十六條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合ノ組合員ノ支拂フベキ保險料ノ一部ヲ負擔ス

第五十七條 行政官廳ハ農業保險組合ニ對シ組合ノ事業又ハ財産ニ關スル報告ヲ爲サシメ、組合ノ事業又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 農業保險組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲若ハ決議ガ法令若ハ定款ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ行政官廳ハ決議ヲ取消シ、理事若ハ監事ヲ解任シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第五十九條 農業保險組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一四五二

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併
- 四 組合ノ破産
- 五 行政官廳ノ解散ノ命令

解散及合併ノ決議ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條 農業保險組合ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間以内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルベシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラバ一定期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スベシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者前項ノ期間内ニ合併ニ對シテ異議ヲ述ベザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ組合ハ合併前之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スベシ

第二項又ハ前項ノ規定ニ違反シテ爲シタル合併ハ之ヲ無効トス

第六十一條 農業保險組合ガ解散シタルトキハ合併ノ場合ヲ除クノ外保險關係ハ終了ス

前項ノ場合ニ於テハ組合ハ未ダ經過セザル期間ニ對スル保險料ヲ拂戻スベシ

第六十二條 農業保險組合ガ解散シタルトキハ合併及破産ニ因ル場合ヲ除クノ外清算人ノ氏名及住所竝ニ解散ノ原因及年月日ノ登記ヲ爲スベシ但シ行政官廳ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ解散ノ原因及其ノ年月日ノ登記ヲ爲スコトヲ要セズ

前項ノ規定ニ依リ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六十三條 行政官廳農業保險組合ノ解散ヲ命ジタルトキハ解散ノ原因及其ノ年月日ノ登記ヲ囑託スベシ

登記所ハ前項ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六十四條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ依リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ定款竝ニ理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

合併ニ因ル設立ノ登記ニハ前項ノ書面ノ外合併ニ關スル總會ノ決議錄ヲ添附スベシ

第六十五條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、其ノ職務ヲ行フ監事又ハ清算人ノ申請ニ依リテ之ヲ爲スベシ但シ合併ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

一四五三

ニ依リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人ガ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

第六十六條 合併ニ因ル解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員ノ申請ニ依リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ總會ノ決議録及第六十條ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第六十七條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條及第七十三條乃至第八十三條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第二百二十二條、第三百三十六條乃至第三百八十八條、第四百二十二條乃至第五百一十一條ノ六、第五百五十四條乃至第五百五十七條、第七百七十五條、第七百七十六條、第七百七十八條及第九十五條ノ二並ニ産業組合法第二十三條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十三條、第三十四條ノ二第二項、第三十六條、第三十九條、第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條、第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ農業保險組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項、第四十八條第一項及第七十七條ノ規定中一週間トアルハ三週間トシ産業組合法第二十八條(同法第三十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)中四分ノ三トアルハ三分ノ二トシ同法第三十九條及第六十五條中地方長官トアルハ行政官廳トス

## 第二章 農業再保險

第六十八條 本法ニ依ル農業保險ノ再保險事業ハ農業保險組合聯合會及政府之ヲ行フ

第六十九條 農業保險組合ハ農業保險組合聯合會ヲ設立スベシ

聯合會ノ區域ハ道府縣ノ區域ニ依ル

第七十條 農業保險組合ガ農業保險ノ引受ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ農業保險組合聯合會トシテ再保險關係成立スルモノトス

第七十一條 農業再保險ノ再保險金額ハ農業保險組合聯合會ノ行フ再保險ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ元受保險金額ノ一定割合ニ相當スル金額トシ政府ノ行フ再保險ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ聯合會ノ總再保險金額中異常災害ニ對應スル金額トス

再保険料ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合聯合會ノ農業保險組合ニ對スル支拂再保險金ガ聯合會ノ總再保險金額中ノ一定額ヲ超過シタル場合ニ於テ再保險金ヲ支拂フモノトス

第七十三條 農業保險組合ハ農業保險ノ引受ヲ爲シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合聯合會ニ對シテ其ノ旨ヲ通知スベシ

聯合會ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ對シテ其ノ旨ヲ通知スベシ

第七十四條 左ノ場合ニ於テハ農業保險組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ再保險金ノ全部又ハ一部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ

一 農業保險組合ガ法令又ハ定款ニ違反シテ保險金ヲ支拂ヒタルトキ

二 組合ガ損害額ヲ不當ニ認定シテ保險金ヲ支拂ヒタルトキ

三 組合ガ不正ノ目的ヲ以テ前條ノ規定ニ依ル通知ヲ怠リ又ハ不實ノ通知ヲ爲シタルトキ

前項ノ規定ハ政府ノ行フ農業再保險ニ之ヲ準用ス

第七十五條 農業保險組合聯合會成立シタルトキハ其ノ區域内ノ農業保險組合ハ其ノ聯合會ノ

會員トス

第七十六條 農業保險組合ハ解散ニ因リ農業保險組合聯合會ヨリ脱退ス

第七十七條 農業保險組合ガ再保險ニ關スル事項ニ付農業保險組合聯合會ニ對シテ民事訴訟ヲ

提起スルニハ道府縣農業再保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

聯合會ガ再保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ農業再保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

農業再保險審査會及道府縣農業再保險審査會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 第三條、第五條、第七條乃至第十二條、第十三條第一項、第十四條、第三十七條乃至第四十八條、第五十七條乃至第五十九條、第六十一條乃至第六十三條、第六十四條第一項第二項及第六十五條、民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條及第七十三條乃至第八十三條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第二百二十二條、第三百三十六條乃至第三十八條、第四百二十二條乃至第五百十一條ノ六、第五百十四條乃至第五百五十七

條、第七百七十五條、第七百七十六條、第七百七十八條及第九百九十五條ノ二竝ニ産業組合法第二十三條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十三條、第三十四條ノ二第二項、第三十六條、第三十九條、第六十五條、第七十條、第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ農業保險組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項、第四十八條第一項及第七十七條ノ規定中一週間トアルハ三週間トシ産業組合法第二十八條（同法第三十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）中四分ノ三トアルハ三分ノ二トシ同法第三十九條及第六十五條中地方長官トアルハ行政官廳トシ第五十九條及第六十五條竝ニ産業組合法第六十五條ノ規定中組合ノ合併ニ關スル規定ヲ除ク

商法第三百九十一條ノ規定ハ農業保險組合聯合會ノ行フ農業再保險ニ之ヲ準用ス

第二十八條第二項第三項及第三十四條竝ニ商法第三百九十七條、第三百九十九條、第四百條及第四百十七條ノ規定ハ農業再保險ニ之ヲ準用ス

第三章 罰則

第七十九條 左ノ場合ニ於テハ農業保險組合又ハ農業保險組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可

ヲ受ケザルトキ

- 二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
- 三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ
- 五 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
- 六 組合又ハ聯合會ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタルトキ
- 七 本法ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘズ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
- 八 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ
- 九 第四十七條（第七十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第五十條及第六十條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 十 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
- 十一 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ處分ヲ爲シタルトキ
- 十二 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シ又ハ保險金額ヲ削減シタルトキ

第八十條 第五條第二項（第七十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第八十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス  
附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十三年三月四日日本院ニ提出ス同月五日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ有馬農林大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナッテ居リマス農業保險法案ニ付テ御說明致シタイト思ヒマス、申ス迄モナク農業ハ自然界ノ影響ヲ受ケルコトガ極メテ多イ産業デアリマシテ、特ニ我國ノ農業ハ氣象上、地理上ノ關係カラ、農作物ノ災害其他農業上ノ災害ハ、年々全國ニ互ッテ頻發シ、其損害額モ頗ル多額ニ上ッテ居ル實情デアリマス、之ヲ過去ノ統計カラ見マスルト、農作物ノ災害ノミニ付テ見マシテモ、年々ノ被害面積ハ百万町歩、其損害額ハ一億圓餘ニ達シテ居ルノデアリマス、然ルニ我國ノ農業經營ハ其規模極メテ小サク、一戸當リ耕作面積ハ一町歩餘ニ過ギズ、隨テ農業ノ經濟モ餘裕少ク、彈力性ヲ缺イテ居リマスノデ、一タビ災害ガ發生致シマシタ場合、其損失ニ堪ヘルコトハ頗ル困難デアリマシテ、直接農家ノ經濟、農家ノ生活ニ非常ナ脅威ヲ與フルコトナル譯デアリマス、即チ農家ノ收入源泉ガ失ハル、爲メ、翌年ノ農業生産ニ支障ヲ來シ、農業生産力ニ影響スル所大ナルモノガアリ、又農家ノ負債ヲ増加セシムルコトトモナルノデアリマス、政府ト致シマシテモ、從來災害ガ廣範圍ニ互リ、又ハ被害程度ガ著シイ場合ニハ其都度各種ノ救濟ヲ行ッテ來テハ居リマスガ、年々之ヲ臨機應急ノ措置ノミニ委ヌルコトハ、何ト申

シマシテモ不十分ト言ハネバナラヌノデアリマシテ、現下ノ農村事情ニ鑑ミ、農業災害ニ對シテハ、是ガ救濟施設ニ付制度化致シマスコトガ、極メテ緊要ト考ヘラレルノデアリマシテ、此爲ニ今般農業保險制度ヲ樹立シテ、一定災害ニ因ル損害ノ填補輕減ヲ圖リ、農業經營、農家經濟ヲ安定セシメ、以テ農業生産力ノ維持増進ト、農村ノ經濟更生トニ資セントスルノデアリマス、本案ノ要旨ハ、農業保險ノ元受保險事業ハ相互組合タル農業保險組合ヲシテ之ヲ行ハシムルコトトシ、組合ハ市町村農會及ビ地方ノ實情ニ依リ、養蠶實行組合ヲ其組合員ト致シマシテ、組合員タル是等團體ノ行フ共濟事業ニ基ク共濟責任ニ付保險ヲ行ヒ、農家ハ共濟事業ヲ通ジテ保險ノ利益ヲ享受スルコトト致シタノデアリマス、更ニ農業保險ノ再保險事業ハ、農業保險組合ノ組織スル農業保險組合聯合會ヲシテ之ヲ行ハシメ、聯合會ノ行フ再保險ニ對シマシテハ、政府ガ更ニ再保險事業ヲ行フコトト致シテ居ルノデアリマス、以上ハ本案提出理由ノ大體デアリマスガ、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ希望スル次第デアリマス

山本彙吉君、泉國三郎君、中野寅吉君及菊地養之輔君質疑ヲ爲シ有馬農林大臣、高橋農林政務次官、加藤陸軍政務次官、木村內務參與官及岸田海軍參與官應答ス

山本彙吉君ノ質疑

私ハ只今御上程ニナリマシタ農業保險法案ニ對シマシテ、二三質疑ヲ試ミヨウトスルモノノデアリマス、本法案ガ當議會ニ提案セラレマシタコトハ、全國三千万農民ガ非常ナ期待ヲ以テ待ッテ居タコトヲ實行セラレタ結果ニナリマスノデ、恐ラク本法案ノ實施セラレマスルコトヲ、一日千秋ノ思ヒデ待ッテ居ルモノト信ズルノデアリマス、而シテ其法案提出ノ理由ヲ檢討致シマスルト、災害ノ損害ガ極メテ甚大デアアルガ爲ニ、農家負債ノ原因ガ生ズルカラ、之ヲ控除スル、而シテ以テ農家經濟ノ安定ヲ圖ルノデアルト云フコトニ歸著スルヤウデアリマスガ、茲ニ提



案セラレマシタ法律案ニ依リマシテ、果シテ以上提案理由ノ如キ重大ナル目的ヲ貫徹スルコトガ出来ルカドウカト云フコトニ對シテ、疑問ヲ持ツモノデアリマス、但シ本法案ニ依リマシテハ、未ダ保險料ト保險金トノ關係、被保險災害ノ程度ト保險金トノ關係等ノ一切ハ、命令ニ委任セラレテ居リマスノデ、其内容ヲ承知スルコトガ出来マセヌカラ、是等ノ點ニ付キマシテハ、何レ委員會ニ於テ詳細質疑ヲ試ミルコトニ致シマシテ、私ハ現在ノ我國農村ノ實情カラ考ヘテ、本法案ニ依ル、所謂保險組合制度ニ依ル農業保險ハ、未ダ我國ノ貧窮ニ陥ラセ居ル農村ヲ救済スルニハ不十分デアアルト考ヘルモノデアリマス、即チ第一ニ私ノ御尋致シタイ點ハ、政府ハ農業保險ヲ全部國營ニスル意思ガアルカナイカ、御承知ノ如ク現在ノ我國ノ農村ノ實情ハ、私ガ此處デ申上ケルマデモナク、數十年ノ間農民救済ヲ叫バレ、農村救済ヲ叫バレテ居リマスケレドモ、未ダ農民ノ經濟安定ヲ來シタト云フコトヲ聞カナイ、ソレト反對ニ益々生活不安ノ状態ニ陥リツ、アルノデアリマス、其原因ヲ煎ジ詰メルト、結局收支ノ均衡ヲ得ナイト云フコトニ歸著スルノデアアル、收支ノ均衡ヲ得ザル原因ヲ更ニ探究スルト、結局不測ノ災害ニ因ル被害ニ依リテ負ウタル債務ノ爲メデアツテ、之ニ依リテ到底浮ビ上ルコトガ出来ナイ實情ニ立至ッテシマウノガ、多クノ農民ノ悲惨ナル生活ノ原因ナノデアリマス、而シテ農家ノ最モ恐ルベキ災害ハ、他ノ事業ノ危険ニ比ベテ、甚シク危険率ガ多イノデアリマス、即チドノ事業ニモ事業上ノ危険ノアルコトハ申スマデモアリマセヌケレドモ、社會ニ存在スル企業危険ハ、現在ノ科學ノ力ヲ以テシテ、或ル程度マデ之ヲ豫測スルコトガ出来ル、豫測スルコトガ出来ルカラシテ、之ニ對ストノ出來ナイ部分ガ、其大部分ヲ占メテ居ルノデアリマス、科學ノ力ヲ到底豫測スルコトガ出来タトシテモ、現在ノ農家ニ之ニ對應スルダケノ準備ヲサセル餘裕ガ經濟的ニ存スルヤ否ヤ、私ガ申上ケル迄モナク、現在ノ農家ニハ其餘裕ガ全然存シナイ、隨テ此災害ニ對スル危険ヲ負擔スベキモノハ、當然國家全體觀ヨリスルモ、國家ガ之ヲ負擔スベキモノデアアルト私ハ信ズルノデアリマス、國家ガ危険ヲ負擔スルコト云フコトハ、取モ直サズ此保險法案ヲ國營ニスルコト云フコト

デアアル、即チ現在ノ此法案ニ依ルト、組合員ノ單位ガ市又ハ町村農會デアアル、其農會ノ事業、即チ共濟事業ノ資ニ供スル爲ニ保險組合ガ設立セラレル、然ルニ現在ノ市町村農會ハ、農民ヨリ農會費ヲ納メサセルコトスラ非常ナ困難ヲ來シテ居ル、農會費未納ノ爲ニ農會其モノノ存立スラ出來ナイヤウナ町村ガ、全國ニ大分存在スルコトヲ承知シテ居ルノデアリマス、此農會ヲ組合員トシテ、更ニ保險料ヲ農民ヨリ徵收シ、之ヲ保險組合ニ支拂ハセテ、保險組合ハ更ニ再保險料ヲ支拂ハレル、斯ノ如キ制度ニ依リテ如何ナル結果ヲ招來スルカト想像致シマスルニ、恐ラクハ現在ノ農民ガ果シテ其農業保險、即チ保險料ノ支拂ニ堪ヘラレルヤ否ヤ、是ガ此法案ヲシテ果シテ政府所期ノ目的ヲ達セシムルヤ否ヤ、最大ナル點ト思料スル者デアリマス、若シ農民ガ保險料ノ支拂スラ不可能ナリトセバ、本法案ニ依リテハ災害ニ罹ッテモ、悲シイ哉保險金ノ一部若クハ全部ヲ拂ッテ貰フコトガ出来ナイコトニナツテ居ル、故ニ私ハ先ヅ第一ニ御尋致シマスルノハ、本法案ノ如キ趣旨ニ於テ結構デアリマスルカラ、唯其保險料ヲ免除シ、即チ國家ガ總テノ危険ヲ負擔シテ、國家全體觀ヨリ國營ノ農業保險制度樹立ノ意思アリヤ否ヤヲ伺ヒタイト思ヒマス、第二ハ、若シ政府ガ國營ノ農業保險制度確立ノ意思ナシトスラバ、又不可能ナリトスルナラバ、セメテ保險料ノ全額ヲ國家ガ之ヲ負擔スル意思アリヤ否ヤ、此點ヲ第二ニ御伺ヒタイト思ヒマス、第三ニハ、本法案ニ依リマシテハ、未ダ保險料ト保險金額トノ關係ガ明瞭デアリマセヌカラ、之ヲ窺フノ餘地ガアリマセヌガ、保險金額ヲ増大シテ、農民ノ五箇年平均ノ收益ヲ標準トシテ、ソレニ滿ツルマデ國家ガ危険負擔ヲシテ補助スル意思アリヤ否ヤ、即チ本法案ニ依リマスルト、保險料ト保險金トノ割合ガ不明確デアリマスルカラ分カリマセヌケレドモ、恐ラクハ本法案ノ趣旨ヨリ致シマシテ、到底平均收益ニ滿ツルマデ國家ガ之ヲ補助スル意思ナキコトハ、明ニ窺ヒ知ルコトガ出來ルノデアリマス、斯ノ如キ状態デハ災害ヲ被ッタ農民ノ、其年ニ於ケル收益ヲ平均率マデ補助スルニアラズンバ、所謂二階カラ目藥、飛行機ヨリ目藥程度ノ救済ニ過ギナクナツテシマツテ、到底保險ノ目的ヲ貫徹スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、故ニ私ハ少クとも五箇年平均收益ニ滿ツル迄ハ、國家ガ如何ナル災害ニ當ッテモ、

之ヲ補助スルダケノ準備ヲ必要トスルモノト考ヘルノデアリマス、故ニ本法案ニ於キマシテモ、此保險金ノ支拂ニ付テハ再々保險即チ國家ガ保險金ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ、少クトモ此平均率ニ滿ツルダケノ補助ヲ爲ス御考アリヤ否ヤ御尋スル次第デアリマス、第四ニ、從來ノ新シク生ズル制度ニ付キマシテハ、其手續ノ煩雜ナル爲ニ、而シテ政府ノ監督ガ其宜シキヲ得ザル爲ニ、非常ナ弊害ヲ來シテ居ルコトハ、産業組合ノ例ニ付テモ、其他ノ政府事業ニ付テモ多アルノデ、其實例ヲ申上ゲル必要ハナイ程存在シテ居ルデアリマス、ソコデ第四番目ニ、私ニ免ニ角手續ヲ簡易ニシテ、實質上ノ效果ヲ得ルコトニ留意シ、嚴正公平ナル指導監督ヲ爲スコトニ付テノ手段方法ニ付テ、如何ナル對策ヲ持ッテ居ルカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、即チ本法案ノ如ク災害ノ救済ヲ目的トスル法案ニ付キマシテハ、急速ニ其災害救済ガ出來ナケレバ、半バ目ノ没却シテシマフノデアリマス、即チ其災害ヲ招來シタ時ニ、ソレガ異常災害デアリ、國家ガ之ニ對シテ保險金ヲ支拂フ場合ノ如キニ立至リマシタ時ニ、ソレガ救済ノ目的ノ半バ目没却シテシマフト云フヤウナコトハ、想像ニ難クナイノデアリマス、敢テ官僚獨善ヲ攻撃スル譯デアリマセヌガ、免ニ角本法案ノ如キ急速ヲ尊ブ救済ニ付テハ、只今特別ノ御考ヲ必要トスルモノト思フノデアリマス、故ニ此點ニ付テ對策アリヤ否ヤ御尋スル次第デアリマス、最後ニ農業保險制度ハ、本法案ニ依ッテ曲リナリニモ出來マシタケレドモ、是ト相對シテ漁村ニ於ケル漁業保險ヲ設置スル意思ガ政府ニアリヤ否ヤ、現在ノ漁村ニ於テ漁業保險ノ必要ナルコトハ、今更私ガ此處デ喋々スル必要ハアリマセヌ、故ニ政府ハ此農業保險制度ノ確立ヲ圖ツタト同時ニ、近キ將來ニ於テ是非トモ漁業保險ノ制度確立ヲ期シテ貫ヒタイ、果シテ政府ハ之ニ對スル準備アリヤ否ヤ御尋致シタイノデアリマス、以上五點ニ付キマシテ直截簡明ナル御答辯アラランコトヲ希望致シマス

有馬農林大臣ノ應答

山本君ノ御質問ニ御答致シマス、第一ノ御尋ハ、農民ガ果シテ保險料ノ支拂ノ負擔ニ堪ヘ得ルカドウカ、保險ハ良イ制度デアアルケレドモ、現在ノ日本ノ農村ノ實情カラ言ヘバ、農家ニ此負擔ヲサセルコトハ、可ナリ困難デハナイカト云フ御話デアリマス、隨テ國營トスル意思ハナイカト云フ第一ノ御尋デアリマスガ、私共モ其點ヲ深ク考ヘマシテ、保險金額ヲ多額ニ致シマスレバ、隨テ救済ノ目的ヲ達スル上カラ言ヘバ宜イノデアリマスガ、併シソレダケ保險料ヲ多ク拂ハナケレバナラヌト云フコトニナリマス、本法案ニ於キマシテハ、保險金額ヲ低額ニ致シテ、保險料ヲ出來ルダケ低ク致シマシテ、農家ノ負擔ヲ輕クスルト云フコトヲ考ヘタノデアリマス、國營ト致シテ國ガ全部ノ負擔ヲ負フト云フコトニ付キマシテハ、是非非常ニ重大ナコトニナリマス、財政ノ關係モアリマシテ、今直チニ之ニ付テ考ヘル譯ニハ行カナイノデアリマス、第二點ノ保險料ノ金額ヲ國ガ負擔スル意思ガナイカト云フ御尋デアリマスガ、是モ只今申上ゲマシタコトト大體同ジコトデアリマシテ、保險金ノ支拂ニ付キマシテ、組合ニ對シテハ縣區域ノ聯合會ガ再保險ヲシ、更ニ國ガ其再保險ニ對シテ保險ヲスルト云フ制度ニ於キマシテ、國ハ相當ノ負擔ヲ致シ、其外保險ニ關スル事務費等ヲ國ガ負擔ヲシテ居ルト云フ程度デアリマシテ、是以上ノコトハ今日トシテハ行ヒ得ナイノデアリマス、第三ノ御尋ノ點ハ、保險金額ヲモット増大シテ、國家ガ補助シタラバ宜イダラウト思フガドウカト云フ御尋デアリマシテ、是モ前ノ一二ノ御尋ト關聯シテ居ルト思フノデアリマス、只今申上ゲマシタヤウニ、保險金額ヲ増大致シマスコトハ、國ガ負擔ヲスレバ無論結構デアリマスガ、併シ農家ノ負擔トシテハ保險料ガ多クナリマスノデ、ソレハ實施致シ兼ネルノデアリマス、而シテ一方國ガソレヲ全部補助スルト云フ譯ニハ、事實上參リ兼ネルノデアリマス、第四ノ手續ノ煩雜ト云フコトニ付キマシテハ、御話ハ至極御尤デアリマシテ、之ヲ實施致シマスル場合ニ、出來ルダケ簡易化致シマシテ行ッテ參リタイト思ヒマス、個人ヲ對象ニ致シマセヌデ、市町村農會ト云フモノヲ組合員ニ致シテ居ルト云フコトモ、サウ云フ團體デアレバ總テノコトガ簡易ニ參リマスルシ、

又保險金額ヲ低クスルト云フコトモ、簡易ニスル一ツノ方法デアカト思ヒマス、指導ニ付キ  
マシテハ勿論地方廳モアリマスルシ、農會ガヤルノデアリマスルカラ、ソレノ之ヲ指導シ、  
監督スルコトハ出來ルト思ヒマス、最後ニ漁業保險ノコトニ付キマシテハ、洵ニ御尤ナコトデ  
アルト思フノデアリマス、御承知ノヤウニ漁船保險ハ既ニ行ッテ居リマスガ、漁業ト云フモノ  
ハ、御承知ノヤウニ非常ニ危険ノ多イモノデアリマスノデ、隨テ今直チニ之ニ保險制度ヲ布ク  
ト云フコトハ、相當考究ヲ致サナケレバナラナイト考ヘテ居リマス

泉岡三郎君ノ質疑

本法案ハ曩ニ提出セラレマシタル農地調整法案ト共ニ、今期議會ニ於ケル農林省關係ノ進歩的  
二大立法トシテ敬意ヲ表スルニ各デハナイノデアリマス、私ハ有馬農林大臣ハ近衛内閣ノ閣僚  
ノ中ニ於キマシテモ、最モ革新的「イデオロギー」ヲ持ッテ居リマスルモノト信ジテ、農村ノ爲  
ニ期待甚大ナルモノガアッタノデアリマス、然ルニ私ハ本議會ノ有ユル機會ヲ通ジテ、遂ニ  
農林大臣ノ農村ニ對スル基本的認識及ビ其指導精神ノ何モノデアルカラ把握シ得ナカッタコト  
ハ、私ノ最モ遺憾トスル所デアリマス、強ヒテ農林大臣ノ指導精神ヲ求ムルナラバ、ソレハ自  
作農主義デアアルト言ヒ得ルカモ知レナイノデアリマス、農村ノ内部ニ於キマシテハ、土地ガ根  
本的問題デアアルコトハ爭ハアリマセヌ、併ナガラ資本主義經濟ノ組織ノ下ニ於キマシテハ、農  
村ト致シマシテハ土地問題、即チ農村内部ノ問題、災害保險ト云フガ如キ災害ノ問題ガ解決サ  
レタト致シマシテモ、未ダ以テ農村問題ノ解決トハナラナイノデアリマス、現在ノ社會組織ノ  
下ニ於キマシテハ、人的資源、原料資源、食糧資源ノ生産地トシテ、最モ尊重サレナケレバ  
ラナイ所ノ農村ガ、却テ安價ナル努力、原料、食糧ノ供給地トシテ、懸テ再生産サレタル高價  
ナル商品ノ需要地、消費地トシテ、資本主義的搾取、收奪ヲ恣ニセラレ、社會的、經濟的ニ從  
屬的立場ニ置カレル所ニ、資本主義生産ノ指導者タリ得ナイ所ニ、其處ニ農村ノ生活ノ永久不  
安ノ原因ガ存スルノデアリマス、隨テ内部的土地問題トカ、災害ノ問題ガ解決セラレマシテモ、

ソレハ一時ノ小康ハ得ラレマスルケレドモ、ヤハリ農村ハ永久ニ年ト共ニ窮乏ヘノ一路ヲ辿ル  
デアラウコトハ、推測スルニ難クナイノデアリマス、現在ノ經濟機構ノ下ニ於テハ、農業經營  
ハ既ニ儲カラザル、利潤ヲ生ゼザル所ノ企業デアリマス、小作農ノ生活ガ其甚シイノハ言フ迄  
モアリマセヌ、自作農ト雖モヤハリ苦シイノデアリマス、收支ノ計算ガ引合テ居ナイノデア  
リマス、或ハ地主ノ間ニモサウシタ者ガアルノデアリマス、少クトモ此農村問題ノ解決ハ、農  
村ノ永久恐慌カラ之ヲ救フコトハ、現在ノ資本主義制度ノ機構ニ、其根本ニ觸ル、コトナクシ  
テハ、全ク不可能ナコトデアアルト私ハ信ジマス、併ナガラソレハ洵ニ至難ノ業デアリマス、其  
至難ノ業ハ何人ニ依ッテ爲シ遂グラレルカ、ソレコソ革新政策ノ遂行ヲ以テ立ツ所ノ、近衛内  
閣ノ下ニ於ケル有馬農林大臣自ラ爲サナケレバナラナイ問題デアアルト考ヘルノデアリマス  
ガ、農相ノ之ニ對スル所見如何、其農村ニ對スル根本的認識、其指導精神ニ付テノ腹藏ナキ御  
所見ヲ先以テ承リタイノデアリマス、第二ニ伺ヒマスコトハ、本法案ノ目的、内容等ニ關スル  
問題デアリマス、思フニ農業保險法ノ目標トスル所ハ、農家收入ノ源泉ヲ確保スルコトヲ以テ  
最高ノ目的トシ、他ノ各種ノ農村政策ト相俟ッテ農業生産力ノ維持増進ヲ圖リ、負債ノ原因ヲ  
防除シ、農業經營ヲ安定セシメ、以テ國家ノ爲ニ人的資源、食糧資源タル農村ヲシテ、不安ナ  
カラシムルモノデナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ本法案ヲ一瞥致シマスナラバ、  
其内容甚シク不整備且ツ貧弱ナルニ一驚ヲ禁ジ得ナイモノガアリマス、其最モ甚シキ例ノ一ツ  
ハ、農業保險制度ノ構成ニ付キ、市町村農會ヲシテ共濟事業ヲ行ハシメル、郡ノ區域ヲ以テ、  
農業保險組合ヲシテ市町村農會ノ共濟責任ニ付テノ保險ヲ爲サシメル、此點デアリマス、私達  
ガ思ヒマスルノニ、農業保險ノ理想ハ農民ノ收穫ニ對スル損失ノ全部ヲ補償スル、即チ收穫保  
險ニアラザレバ、未ダ以テ全シト云フ譯ニハ參ラヌノデアリマス、各國ノ歴史ニ見マシテモ、  
農業保險ハ、自然的災害ヲ綜合的ニ觀察シテ、一括シテ保險事故ト爲ス所ノ一般收穫保險ト、  
各個ノ災害ヲ目標トシマス所ノ個別災害收穫保險、其二ツノ別ハアリマシテモ、其被保險利益  
ハ收穫ニアル、收穫ガ災害ニ因ッテ損傷セシメラレマシタル場合ニ、其損傷ヲ補填セシメラル、

コトが大體ノ例デアリマス、農民ハ災害ニ拘ラズ、斯クシテ初メテ平年作ト同様ナル收入ヲ得テ、次年度ノ再生産ヲ用意スルコトガ出來ルノデアリマス、然ルニ本日御提案ニナリマシタ所ノ法案ハ、世界ニ類例ノ少イ共濟制度デアリマス、共濟制度ヲ基本トスル所ノ法案デアリマス、此制度ノ下ニ於キマシテハ、災害ニ因ル全損失ガ補填セラレ、ニハアラズシテ、單ニ其一部ガ共濟セラレ、ニ過ギナイノデアリマス、何程ノモノガ共濟セラレマスルカハ、此法案ノ中ニハ見エヌノデアリマス、推測スルニ難クハナイノデアリマス、若シ災害ヲ受クル者ガ組合員中ニハ三名ニ過ギナイ場合ニ於キマシテハ、他ノ組合員ニ經濟力ガ未ダアルノデアリマスカラ、有無相通ズルコトニ依ッテ農村ノ經濟ハ成立チマセウ、併ナガラ若シ組合ノ全員ガ災害ヲ受ケタト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、全組合員ガ何レモ生産ノ爲ニ投下シマシタ所ノ資本ヨリ少イ共濟金ヲ受ケテ、ドウシテ農村ノ經濟ガ成立チ、農民ノ生活ガ維持セラレテ、所謂農家收入ノ源泉ヲ確保シ得ルト言ハレマスルカ、殊ニ此法案ノ第二十條ニ依リマシレバ、保險金ノ支拂ニ不足ラズルトキハ保險金額ヲ削減スルコトヲ得、拂フニ足リナカッタラバ、拂ハナクテモ宜ト云フ法律ヲ拵ヘヨウトシテ居ルノデアリマシテ、此法案ノ缺陷ガ茲ニ暴露セラレテ居リマス、政府ハ何故ニ收穫保險制度ノ樹立ニ努力セズシテ、本法案ノ如キ半端ノモノヲ提案シタカ、政府ノ豫想スル共濟金ハ反當リ何程ヲ豫想スルカ、吾々ノ得心ノ行ク迄御説明ガ願ヒタイノデアリマス、我國ヲ凡ソ南北ニ兩分シテ、概觀致シマシラバ、概ネ南ニ位置スル地方ハ旱魃、風冷害、若クハ雪害ノ被害ヲ受ケマスルコトハ、是レ農民ノ避ケ得ザル所ノ災害ノ一ツデアリマシテ、殊ニ東北地方ニ於キマシテハ、遠キ歴史ヲ緝ク迄モナク、明治以來既ニ八回ノ大凶作ニ遭テ、平均八年ニ一度ト云フ周期的災害ノ前ニハ、農民ノ勞苦殆ド酬イラズ、益、其經濟ヲ窮乏ノ底ニ追込ミツ、アルコトハ、洵ニ痛惜ノ極ミデアリマス、殊ニ昭和九年ノ冷害ニ至リマシテハ、想起スルダニ今尙ホ慘然タルモノガアルノデアリマス、雪ニ於テモ然リデアリ

マス、昨年十二月ノ降雪量ハ、コ、四十年來ノ大雪デアルト謂ハレテ居リマス、此災害ハ東北農民ガ怠惰逸樂ノ爲ニ求メタノデアリマセウ、耕作技術ヲ誤ッタ爲ニ招來シタモノデモゴザイマセウ、枚々營々トシテ朝ニ星ヲ戴キ、夕ニ月ヲ踏ンテ刻苦勩勵、尙且ツ免レ得ザル所ノモ提出シタ所ノ此法案ニ、第一ニ取上ゲラレバナラナイ問題デアリマス、ソレハ本議會ニヲ政府ガ本法案ニ規定スルコトヲ爲サザル理由ハ如何、政府ハ果シテ是等ニ對スル調査研究ヲ爲シツ、アルカ、アラバ其結果ハ如何ニナツテ居ルカ、政府ガ本法案第一條ニ謂フ所ノ「其ノ他ノ災害」ノ中ニハ、此冷害雪害ト云フヤウナモノヲ、ドウ云フ風ニ處置セントシテ居ルカ、本法ニ委任セラレテ出ヅル所ノ勅令ニハ、之ヲ規定スル意思デアルカ、ナイカト云フヤウナコトヲ、先ヅ第二ニ聽カウト欲スルノデアリマス、次ニ本法案ニ關聯シテ質問致シマス、ソレハ災害ノ豫防施設ニ關スル問題デアリマス、農作物ノ自然的災害ニ對スル對策ハ、單ニ保險法ノ制定ノ如キ消極的手段ヲ講ズルヲ以テ、萬全ナリト爲スコトガ出來ナイノデアリマス、進ンデ積極的災害豫防ノ方策ヲ科學的ニ研究シ、調査シ、樹立シ、實踐強化シナケレバ、農民ハ常ニ其培ニ安ンジテ、所謂鼓腹擊壤ノ樂ミヲ爲スコトガ出來ナイノデアリマス、即チ風雨、霜害、雪害ニ對スル防風、防雪其他ノ災害豫防ノ造成、旱害及ビ洪水ニ對スル水源林ノ培養、灌溉用水路、溜池等ノ築造、防潮林、砂防工事、大中小河川ノ改修等、各般ノ施設ヲ完備スルト共ニ、病蟲害ニ對シテ是ガ豫防驅除ノ研究、實驗指導ノ宜シキヲ得ナケレバナラヌノデアリマス、又同時ニ自然的災害ノ態樣ニ應ジテ、各地勢風土ニ即シテ各種災害ニ堪ヘ得ル農作物ノ品種、並ニ栽培方法ノ發見、改良普及等ニ、格段ノ努力ヲ致サナケレバナラヌト思フノデアリマス、是等災害豫防ノ完壁ヲ期シ、是ト並行シテ進ムコトニ依ッテノミ、始メテ農業保險ハ所期ノ目的ヲ達シ得ルノデアリマス、然ルニ政府ノ爲ス所概ネ之ニ副ハザルヲ、私ハ遺憾トスルノデアリマス、各地農民ノ要望スル砂防及河川ノ改修ハ、中々ニ内務省ノ容ル、所トハナラズ、其利益ガ地方ニ均霑セズ、農村各種團體自ラ起ッテ用水路溜池等ノ工事ヲ爲サントスルモ、其起債ハ

容易ニ許可セラレズ、若クハ助成之ニ伴ハズ、大藏省預金部ハ濫リニ資金ノ融通ヲ阻ミ、農事試験場ハ又徒ニ高遠ナル學理ヲ試験管中ニ密閉シテ、糞土ノ上ニ立タズ、農民餓死スルモ我關セズ焉タル有様デアリマス、斯ノ如キ状態ヲ以テシテハ生産力ノ擴充モ、災害ノ防止モ、到底期シ得ナイコトハ火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、有馬農林大臣ハ是等ノ點ヲ如何ニ見ラレルカ、曩ニ東北ノ凶作ヲ契機トシテ、農林省ガ冷害試験場ヲ囑託設置シタルガ如キハ、前述ノ目的ニ副フモノデアリマス、其規模餘リニ貧弱ノ憾ヲ免レナイノデアリマス、更ニ之ヲ擴大シテ水稻ノミナラズ、各種主要食料農産物ノ試験ニマデ及ブベキデアルト考ヘマスガ、果シテ農林大臣ハ將來之ヲ實現スルノ意思ガアルカ、又内務大臣ハ各地農民ノ要望ニ應ジテ、砂防並ニ河川改修事業ヲ擴大スルノ意思ハナイカ、公共團體等ノ適切妥當ナル起債認可ノ申請ニ對シテ、是ガ許可ヲ緩和スルノ意思ハナイカ、是等ノ諸點ニ付キ關係閑僚ニ質問シテ置キマス、農民生活ヲ窮乏ノ底ニ押込ムモノ、獨リ自然的災害ノミデハアリマセズ、資本主義生産機構亦然リデアリマス、併ナガラ私ハ今其全般ニ付テ之ヲ問ヒマセズ、政府ノ事業、就中軍需工業ニ付テ私ハ之ニ關聯シテ質問セントスル者デアリマス、即チ軍需工業ガ現時局ノ下ニ於テ如何ニ民間ヲ潤シテ居リマスルカ、一應國民ノ手許ヨリ國家ニ集中サレ、更ニ軍需工業ニ投下セラレタテ農村ニ還元歸納スルカト云フ問題デアリマス、私ハ茲ニ最近ノ數字ヲ持チマセケレドモ、昭和十一年度ニ於テ陸軍ガ軍需品ヲ民間ニ注文致シタル額ハ二億三千九百九十餘萬圓、之ヲ都市一億七千五百萬圓ニ比較シテ、農村ハ僅ニ二千八百餘萬圓デアリマシテ、都市ハ五五%ニ對シテ農村僅ニ一五%ニ過ギナイノデアリマス、更ニ之ヲ地方別ニ檢討スルナラバ、差等ノ餘リニ甚シキニ一驚ヲ禁ジ得ナイノデアリマセウ、即チ昭和十年度ニ於ケル軍需品ノ民間注文高ハ、海軍ガ三億六千八百萬圓、陸軍ガ一億九千九百六十萬圓、計五億六千四百萬圓デアリマス、此中關東二億四千九百八十五萬圓第一位ヲ占メテ、約二分ノ一ヲ獨占シ、大阪ヲ中心トスル近畿之ニ次イデ一億二千五百萬圓、福岡ヲ中心トスル九州ハ五千七百萬圓第三位デアアルニ比較シ

マシテ、東北六縣八百二十三萬三千圓、四國三百八十萬圓、斯ノ如ク貧弱ナノデアリマス、即チ東京ヲ中心トスル關東ガ、民間注文ノ約半分ヲ壟斷シテ、面積之ニ倍スル東北地方、或ハ四國ハ、關東ノ三・三%關東ガ百圓ノ注文ヲ受ケル場合ニ東北、四國ガ僅ニ三圓三十錢ト云フ蓋ノ涙程ノ注文シカナイノデアリマス、此状態ヲ妥當デアルト考ヘマスルカ、私ハ此状態ヲ以テシテハ農村ハ疲弊スル一方デアルト考ヘル、此軍需工業ニ投下セラレル所ノモノガ、再ビ農民ニ公平ニ還元スルヤウナコトデナケレバイケナイト考ヘル、此點ニ對シテ政府ハ如何ニ考ヘラレルカ、之ヲ是正スルノ意思ガアルカ、何等カ之ニ對シテ考慮シテ居ルコトガアルカト云フコトヲ、御聽キシタイノデアリマス、更ニ御許ヲ得マシテ、モウ一點最後ニ御伺ヒスル、ソレハ東北ガ明治政府以來疎外又ハ放任セラレテ、一切ノ經濟的文化的施設ニ於テ、他ノ地方ヨリ劣惡ナル條件ニアルコトハ、今更私ガ申上グル迄モナイノデアリマス、冷害、凶作ヲ契機トシテ東北振興問題ガ再認識サレ、内閣ノ下ニ東北局ガ置カレマシタコトハ、吾々ノ洵ニ感謝ニ堪ヘナイ所デアリマス、調査會ノ最初ノ答申ニ對シマシテ政府ノ爲ス所ヲ見マス、殆ド此答申ニ副ハザル状態ニアルノデアリマス、東北問題ハ國策デアリマス、吾々ハ此状態ニ見マシテ、眞ニ國策トシテ東北振興ヲ、此内閣ニ依ッテヤッテ戴カナケレバナイト考ヘテ居ル、ソレニハ先以テ東北局ノ設置ト云フガ如キ根本問題、並ニ是ハ豫算ヲ一途ニ統一シテ、其豫算ヲ更ニ擴大シテ費ハナケレバナイト考ヘテ居リマス、時局ハ支那事變勃發ニ依ッテ、戰時體制ノ下ニ東北問題ナンカニ關係シテ居ラナイト云フ御意見ガアルカモ知レマセウガ、ソレハ認識不足モ甚シイモノデアリマス、戰ガ長期ニ互レバ互ル程、農民ノ生活ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ置キ、一切ノ原料資源ヲ開發シ、生産力ヲ擴充シ、以テ食料其他ノ原料ヲ枯渴セシメズ、同時ニ人的武力ノ補充ニ支障ナカラシメナケレバナラヌノデアリマス、此點ニ關スル政府ノ所見如何、東北ガ愛ヘテ居ルコトハ、東北振興ノ問題ガ尻切レ蜻蛉ニ終リハシナイカト云フコトデアリマス、政府ハ國策トシテ、事情ノ許ス限リ速ニ此解決ニ努力スル意思ハナイカ、吾々ガサウ云フコトヲ言フノハ、少クモ日本人竝ノ經濟的文化的地位ニアリタイト云フ、東北人ノ水平運動

ヲヤツテ居ルニ過ギナイノデアツテ、諸君ニ優越シテ吾々ハ惠ンデ欲シト言フノデハナイノデアリマス、日清、日露、日獨ノ戰爭、滿洲事變等々、戰ノタビニ日本ノ國威ハ宣揚サレ、國力ハ擴充シ、資本主義ハ成長シマシタ、或ハ戰時成金ノ輩出ヲ伴ヒナガラデアリマス、併ナガラ東北農民ノ生活ハ、依然トシテ窮迫ノドン底ニアルデアリマス、滿洲事變ニ際會シテ、東北ノ健兒ハ血ヲ以テ參戰シタノデアリマス、支那事變一タビ起ルヤ、北、中、南支ノ曠野ニ、執拗果敢ナル東北特有ノ鬪争力ヲ揮ッテ、國防ノ第一線ニ起ッテ居リマス、左右幾多ノ生靈ヲ奪ハル、モ、顧ミル暇ガナイノデアリマス、勿論彼等ガ一タビ君國ノ爲ニ銃ヲ執ッテ立ッタ時、一死奉公ノ一念アツテ、他ニ求ムル所アリマセヌ、併ナガラ思フ、戰火漸ク戢ッテ、日滿支一體ノ經濟ガ確立シ、東北ガ其爲ニ直接如何ナル利益ニ均霑スルカ、其失フ所ニ比シテ、其得ラレル所ガ、餘リニモ少イデアラウコトハ言フ迄モナイノデアリマス、國難來ラバ共ニ起チ、國ニ憂アラバ共ニ憂ヒ、喜アラバ共ニ喜ビ、失フモノハ共ニ失ヒ、得ラル、モノハ共ニ分ツモノデナケレバイケナイ、政府ハ如何ニ之ヲ考ヘラレルカ、此點ニ付テ責任アル御答辯ヲ望ンデ已マナイ次第デアリマス

高橋農林政務次官ノ應答

詳細ハ委員會デ御答スルコトニ致シマシテ、極ク簡單ニ御答辯申上ゲマス、第一ノ農村問題ノ解決ハ、本保險制度ノ確立ダケデハ出來上ラナイト云フコトハ、御説ノ通りデアリマシテ、農地ノ問題、肥料ノ問題、農産物價ノ問題ト云フ、諸般ノ方面カラ考察致シマシテ、此農村問題ハ解決シナケレバナラヌト信ズル者デアリマス、第二點ノ收穫保險ニ何故シナカッタカト云フ御尋デアリマスガ、本法案ヲ考ヘマスル際ニ於キマシテハ、實情ヲ基礎ト致シマシテ、簡易ニ加入シ得ルト云フコトヲ立法ノ立前ニ致シ、先ヅ此定額保險ヲ致シマシテ、之ニ依ッテ相當農民ガ保險ト云フモノヲ理解致シマシタ後ニ於キマシテ、收穫保險ニマデ進ンデ行キタイ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス、冷害ヲ何故入レナカッタカト云フ御質問ガアッタノデアリマス、此

冷害ニ對シマシテハ、マダ保險技術上尙ホ慎重ニ研究ノ要ガアリマスノデ、取敢ズ町村農會ニ於キマシテノ共濟事業ノ中ニ之ヲ入レマシテ、將來十分ノ研究ヲ遂ゲマシテ、保險事項ノ中ニ含マセタイト存ジテ居ルノデアリマス、災害保險ヲ立テタダケデハイケナイ、其根本ヲ芟除シテ居ル次第デアリマス

木村内務參與官ノ應答

只今泉君カラノ農業保險制度ト共ニ、災害豫防ノ色々ナ施設ヲ講ズル必要ガアルト云フ御説ニ對シマシテハ、全ク同感デアリマス、内務省ノ所管ニ於キマシテハ、治水費トシテ十三年度ニ於キマシテハ約二千五百万圓、災害費トシテ約千五百万圓ヲ支出スルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、併シ是ハ泉君ノ御説ニナリマシタヤウニ、決シテ十分ノ經費デハアリマセヌ、全ク支那事變ノ關係、財政上ノ關係、又物及ビ努力ノ需給ノ關係等カラ、斯ノ如キ經費ニ相成ッテ居ル次第デアリマス、今後此治水事業ノ完壁ヲ期シマスコトハ、産業ノ發展ノ上カラ見マシテモ、民力ノ涵養ノ上カラ見マシテモ、殊ニ災害防除ヲ致ス根本問題デアリマスカラ、昭和八年ノ土木會議ノ決定モアリマスノデ、ソレ等ノ問題ニ付テハ十分ナル研究ヲ致シタイ考デアリマス

加藤陸軍政務次官ノ應答

泉君ニ御答致シマス、陸軍ニ於キマシテハ、軍需品ヲ調達スル場合ニ於キマシテハ、極力之ヲ全國各地方ニ分散スルコトヲ圖ッテ居リマス、且ツ大工業ニ偏シナイヤウニ注意ヲ致シテ居リマス、農村中小工業ヲ利用スルコトニ努メマシテ、成ルベク一地方ニ集中シナイヤウニ努メテ居リマス、然レドモ軍需品ト致シマシテハ、必要ナルモノハ其性能ト云ヒ、性質ト云ヒ、自然ト其註文ガ都市ニ集中セラル、傾向ノアリマスコトハ、自ラ免レ難イ所デアリマス、陸軍ト致

シマシテハ、其結果カラ生ズベキ弊害ニ關シマシテ、緩和是正ノ方法ヲ講ズル必要ガアリマス  
ノデ、特ニ此點ニ注意ヲ致シテ、御期待ニ副フコトニ努力致ス積リデアリマス

岸田海軍參與官ノ應答

泉サンノ海軍ニ對スル御質問ニ御答致シマス、海軍ニ於キマシテハ、軍需品注文ニ當リマシテ  
ノ地方分散、殊ニ農村ノ都市トノ國防費ノ負擔ト、其還元トノ關係ニ付キマシテハ、極メテ公  
平ヲ期スルヤウニ、出來得ル限リ注意ヲ拂ッテ居ル次第デアリマシテ、此點ハ時局柄重大ナル  
點デモアルト思ヒマスカラ、一言海軍ノ實際狀況ヲ御報告申上ゲマス、御承知ノヤウニ、海軍  
ニ於キマシテハ、各鎮守府及ビ要港部ニ於キマシテ、地方統制工業委員會ナルモノヲ設ケテ居  
リマシテ、關係府縣ト能ク協力致シマシテ、工作廳及ビ軍需部ガ之ニ善處シテ當ッテ居ル次第  
デアリマス、斯ウシタ結果、各府縣側ニ於キマシテハ、御承知ノ如クニ技術ノ指導及ビ金融ノ途  
ヲ開クト云フヤウナコト、或ハ製品ノ検査トカ云フヤウナコトニ付キマシテ、色々機關ヲ擴充シ  
テ居リマスルシ、又工廠側ト致シマシテハ、關係者ニ技術ノ指導ヲ實施致シテ居リマシテ、其  
技術ニ應ジテ注文致スヤウニ致シテ居リマスノデ、非常ニ生産ニ當リマシテモ、適當ナ處置ヲ  
執ルコトガ出來テ居リマシテ、良好ナル結果ヲ擧ゲテ居ル次第デアリマス、斯ウシタ結果ハ、  
昭和十一年ニ於キマシテハ、此統制工業ヲ通ジテ購入、或ハ工作廳、或ハ軍需部カラ直接購入  
シタモノ、此合計ハ二百四十萬圓ニ達シテ居リマス、又十二年度ニ於キマシテハ、事變關係ノ  
影響モアリマスルノデ、非常ニ注文量ガ増大致シマシテ、九百萬圓カラニ達スル見込ニナッテ居  
ル次第デアリマス、尙ホ糧食及ビ需品ニ付キマシテハ、出來得ル限リ地方ノ中小業者ノ利益  
ハ害シナイト云フ考ヲ頭ニ置キマシテ、農會或ハ産業組合カラ成ベク之ヲ購入スルコトニ致シ  
テ居リマシテ、十二年度ノ如キハ、海軍自體及ビ共濟組合等ノ購入金額合計ハ、五百十二萬圓  
ニ達スル狀態ニナッテ居ル次第デアリマス、以上ノ實情ニ於キマシテ、大凡海軍ガ此點ニ付テ十  
分注意ヲ拂ッテ居ルト云フコトヲ、御諒解ヲ願フト云フコトガ出來タト思ヒマスルガ、尙ホ將來モ

一層此趣旨ニ對シマシテハ、徹底ヲ期スルヤウニ心掛ケタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

中野寅吉君ノ質疑

私ハ極ク簡單ニ質疑ヲ致シマス、長ク致シマセヌ、先刻長野高一氏カラ二十分以内デ止メロト  
云フコトデアリマシタ、山本衆吉君ナリ、泉國三郎君カラ長イ間御質疑ガアリマシタカラ、  
私ハ重複ノ點ハ避ケマス、此農業保險法ヲ出シタト云フコトハ、農林省トシテハ洵ニ大出來  
アリマス、今迄ハ斯ウ云フモノヲ出サナカッタ、ソレヲ今度出シテ來タト云フダケデモ大出來  
デアアル、ソレデ先ヅ第一ニ伺ヒタイノハ、第一條ノ「風水害其ノ他ノ災害ニ因リ」ト云フコトデ  
アツテ、冷害ト雪害ヲ何故此處ニ明記シナイカ、之ヲ是非明記スル必要ガアル、何故ナラバ、  
問題ノ起キル度毎ニ雪害モ冷害モ災害デナイ、是ハ認メラレナイト云フヤウナ役人ガ出ナイト  
モ限ラナイカラ、明記シテ置ク必要ガアル、明記スレバ即チ迷ハナイノデアアル、法文ヲ曖昧ニ  
シテ置イテハイケナイ、役人ノ自由裁量ニシテ置ケバ、丁度オ互ガ協賛シタ選舉法ノヤウナ目  
ニ遭フカラ、ハッキリ書イテ置ク必要ガアル、雪害、冷害ノ問題ハ最モ必要デ、我が先輩松岡  
俊三君ハ、殆ド此問題ニ對シテハ命ヲ捧ゲテ當ッタルデアアル、吾々モ亦引摺ラレテ之ヲ叫ブヤ  
ウニナッタノデアアル、雪害、冷害ノ本家本山ハ全ク松岡俊三氏デアリマス、ソレデ是ハ松岡氏  
ノ地位ニ懸ケテモ、此法文ニ冷害、雪害ト明記シテ置ク必要ガアル、冷害、雪害ヲ蟲害、煙害  
トカ、霜害、電害トカ、コンナ詰ラナイ害ト一緒ニサレテハ堪ラナイ、其冷害ノ最モ悲惨デ  
アツタノハ、昭和九年ト昭和十年デアアル、昭和九年ハ山崎達之輔君ガ農林大臣、昭和十年ハ島  
田俊雄氏ガ農林大臣、我が福島縣ナドハ今ノ此御二人ノ方ニハ、オ百度ヲ踏ンデ救済ヲ願ッ  
ノデアアル、本當ニアノ時ハ田ノ中ニ入ッテ見ルト、立ッテ居ル稻ガカサノト音ガスル、洵ニ悲  
慘デアツタ、アレヲ思フト、ドウシテモ之ニ冷害ト雪害ヲ入レテ貰ハナケレバ駄目ダ、森肇君  
デモ、又山崎猛君デモ、私ガ頼ンデ數同行ッテ貰ッタ、是ハ實際ノ話デアアル、ソレカウモウツ  
ハ五十六條、國庫ハ組合員ノ支拂フベキ保険料ノ一部ヲ負擔ス、其負擔ノ額ハ勅令デ定メルト

書イテアル、是モ危イモノダ、大體斯ウ云フ仕事ヲ始メルノハ、農業者ノ方カラ此仕事ヲ始メテ吳レト叫ンダノデハナイ、政府カラ進ンデ農業保險制度ヲ設ケルト云フコトヲ言出シタ以上ハ、國家ト云フ立場カラ、此負擔額ハ成ベク餘計ニ國家ニ持ツテ貰ハナケレバナラヌ、農家ノ方デヤル仕事デナク、國家ガヤル仕事アルカラ、其負擔ハ國家ガ多ク持タナクテハナラヌ、少クモ事務費ノ全部ハ負擔シテ貰ハナケレバナラヌト思フガ、サウ云フ意思ガアルカドウカ、ソレカラ若シ冷害、雪害ヲ入レナカッタラ提案ノ理由ニ合ハナイ、農業保險法案ノ提案ノ理由ニハ「自然的災害ニ因ル農作物ノ損失ノ多大ナルニ鑑ミ之ガ損害ノ填補輕減ヲ圖リ以テ農家負擔ノ原因ヲ防除シ農家經濟ヲ安定セシメ農業生産力ノ維持増進及農村ノ經濟更生ヲ期スル爲メ農業保險制度ヲ確立實施スルノ要アリ」ソレデ此案ヲ出シタト書イテアル、然ラバ自然的災害ニ因ル中デモ、冷害、雪害ハ最モ多イモノデアル、先ヅ「イ」ノ一番ニ之ヲ掲ゲナケレバナラヌ、ソレヲ提案ノ理由ニ、コンナ立派ニ書イテ置イテ、法文ヲ見ルト拔カシテ居ルト云フコトハ、マルデ羊頭ヲ懸ケテ狗肉ヲ賣ルモノダト言ツテモ宜シイ、ソレカラ共濟事業ト農業保險組合設立ト兩建デ行クト言フガ、是ハ兩建デ行カナイデ、一本建デ行ッタ方ガ宜カラウト思フ、共濟事業デヤツテ見テ、豫期ノ成績ヲ擧ゲラレナカッタ時ハ、今度ハ其外デヤル、斯ウ云フヤウナコトハ試シテ見ナクトモ分ル、初メカラ一本建デ行ク氣ハナイカドウカ、ソレカラ何故法文ニシツカリ書ケト云フコトヲ言フカト云フト、官僚ト云フモノハドウモ都合ノ惡イ時ハ逃ゲル、是ハイケナイ、ソレダカラシツカリ書イテ置ク必要ガアル、昭和八年ノ時ノ農林大臣ハ後藤文夫君、其時ハ米ガ穫レテ、米ノ始末ニ困ツテ減反問題ヲ起シタ、耕作反別ヲ減ジロ、中ニハ「アラジ」デ珈琲ヲ穫ツテ餘タモノヲ、珈琲ノ値段ヲ維持スル爲メ、海ノ中ニ船デ三杯カ四杯投ゲタカラ、米モ投ゲロト云フヤウナ役人モアッタ、所ガ其次ノ昭和九年ノ山崎農林大臣ノ時、昭和十年ノ島田サンノ時ノ如キハ、ホラ今度ハ凶作ニナッタデセウ、後藤文夫ハ此大ハ内務大臣ニナツテシマッタ、自分ガ農林大臣ノ時ヤリ損ッタナラバ、假令内務大臣ニ君ナレト言ハレテモ斷ツテ、俺ハドウシテモ此前ノ減反問題ノ責任ガアルカラ、今度コソ農林大臣ニナツテ

農村ヲ救ハナケレバナラヌト云フ位ノ、意地ガナクテハナラナイデハナイカ、然ルニ官僚ト云フモノハ、農林大臣ノ責任ナド疾ウノ昔ニ忘レテ居ル、ソレダカラ私ハ法文ニ後デ文句ヲ言ハナイヤウニ、チャント書イテ置ケト言フノダ、此點ヲ伺ヒマス

有馬農林大臣ノ應答

中野君ノ御質問ニ御答致シマス、東北ニ於ケル冷害及ビ東北、北陸方面ニ於ケル所ノ雪害ノ甚大デアリ、之ヲ救濟スルコトニ力ヲ入レマセケレバナラヌコトハ、十分ニ承知致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ御承知ノヤウニ、冷害ハ年ヲ置キマシテ起ツテ參リマス關係ガアリマスノト、サウ云フ事情ノ爲ニ此保險制度ヲ立テマスル基礎トナルベキ災害ノ統計ヲ作ルコトニ、非常ニ不便デアリマシテ、マダ十分ノ災害ノ統計ノ基礎ヲ得テ居ナイノデアリマス、政府ハ決シテ冷害トカ、雪害トカ云フモノヲ輕ンジテ居ル譯デハナイノデアリマス、御承知ノヤウニ法文ノ付テ保險ヲ致スト云フ迄ニ、調査ガ十分ニ届イテ居ナイノデアリマス、只今直チニ之ニ第一條ニ「風水害其他ノ災害ニ因リ」ト云フコトガ書イテゴザイマスノデ、今後調査ガ十分出來マスレバ、成ベク早イ機會ニ於テ、冷害等モ保險ノ中ニ加ヘマスルヤウニ致シタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、次ニ國ガ一部ヲ負擔スルト云フコトハ甚ダ不徹底デアルカラ、モット餘計ニ持タナケレバナラヌト云フ御話デアリマスガ、是ハ先程モ申上ゲマシタヤウニ、國ガ大部分ノ費用ヲ負擔致シマスト云フコトハ、財政上ノ關係カラモ出來マセヌ、隨テ保險ノ事務費等ハ一部國ガ持チマスシ、尙ホ再保險等ノ金ナドヲ支出致シマシテ、出來得ル限リニ於テ國ガ之ヲ負擔シテ、成ベク保險料ノ輕減ヲ圖ルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、第三ノ共濟ト保險トノ兩建ハイケナイト云フ御話デゴザイマシタガ、此共濟ト申シマスノハ、只今御述ニナリマシタ冷害ノヤウナ、今回ノ保險ノ中ニ加ツテ居リマセヌモノヲ、一時共濟制度ニ依リマシテ、冷害等ノ爲ニ救濟ノ積立金ヲ致シテ置キマシテ、ソレハ共濟事業ニ依ツテ行フト云フ爲ニ、共濟制度ヲ設ケテ居ルノデアリマシテ、單ニ冷害バカリデハゴザイマセヌ、陸稻其他ニ付キマシテ



モ、保險ニ依ラズ共濟金ニ依ルコトノ方ガ、寧ロ宜シイト思ハレルモノモアリマスノデ、ソレ等ハ共濟制度ニ依ルコトニ致シマシタ、保險一本ヲ參リマスヨリハ、寧ロ其方ガ實際ニ適スルト云フコトモ考ヘテ、斯様ニ致シタヤウナ次第デアリマス

中野君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

政府ノ御答辯ハ甚ダ納得シ得ナイ點ガアリマスガ、尙ホ他ノ機會ニ於テ質問致スコトニシマシテ、是デ打切りマス

菊地養之輔君ノ質疑

私ハ先ヅ農村ニ取リマシテ極メテ重大ナル本案ニ對シマシテ、ナゼ會期剩ス所僅ニ二十日シカナイ今日マデ其提出ヲ延バシテ居ッタカ、此點ニ對シテ御何致シタイノデアリマス、モット早ク提出セラレマシテ、慎重審議ノ機會ヲドウシテ十分吾々ニ與ヘナカッタカ、此點ニ對シテ當局ノ答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、本案ガ今日ノ窮乏セル農村ニ取ッテ極メテ必要デアリ、又特ニ長期戰ニ對シマシテ、生産力ノ擴充、銃後農村生活ノ安定ニ對シマシテ、極メテ重要ナル法案ナルコトハ、何人モ異論ノナイ所デゴザイマス、政府當局モ十分之ヲ信ジ、之ヲ常ニ力説シテ居リナガラ、何故ニ今日マデ住再日ヲ送ッテ來タノデアアルカ、提出ノ準備ニ付キマシテハ、既ニ昭和八年五月ニ出シマシタ農業保險經過概要説明書ニ詳シク書イテアルノデアリマス、之ニ依リマス、政府ハ調査スベキ調査ハ十分致シタ、又研究スベキモノハ十分研究シ盡シタ、既ニ第六十二議會ニ於テ提出シヨウト思ッタガ、大藏當局ノ拒ム所ニ依ッテ出セナカッタ、越エテ七十議會ニ於テ出サウト思ッタガ、大藏當局ノ拒ム所ニ依ッテ出セナカッタ、準備不足ノ結果遲レタト云フヤウナ口實ハ、何處カラモ出テ來ナイノデアリマス、隨テ始マッテ以來今日マデ七十日、住再今日ニ至リマシタコトハ如何ナル理由デアアルカ、其點ヲ御何致シタイ、而モ會期剩ス所僅カ二十日デアアル、斯ノ如キ重要法案ヲ斯ル短時日ヲ以テ審議ス

ルト云フコトハ、中々難シイト思フノデアリマス、若シ萬一ニシテ斯ルコトガナイト信ジマスルガ、審議未了ニ終ルヤウナコトガアッタラバ、ソレハ政府當局ノ責任デアルト私ハ信ズルノデアリマス、此點ニ關スル政府當局ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、第二ニ本保險制度ノ内容ニ付テ質問ヲ申上ゲタイノデアリマス、其一ハ今日ノ農村ノ現狀ニ於テ、相互保險制度ノシテ妥當デアアルカドウカト云フ點デアリマス、其第二ハ保險金定額制ハ損害保險ノ性質ニ反シナイモノデアアルカドウカト云フ點デアリマス、第一本案ハ多少國家ノ補助助成ガアリマスケレドモ、原則トシテ相互保險制ヲ採用シテ、農民共同ノ分擔ニ於テ損害ヲ填補セントスル立前ヲ取ツタト云フコトハ、法文上明カデアリマス、併ナガラ今日ノ農村ノ窮乏ハ文字通り餓死線ヲ彷徨シテ居ル、何等災害ガナクテモ農民ハ没落ノ一途ヲ辿ッテ居ルノデアリマス、其現實ノ農村ヲ見ル時ニ、保險料ノミニ於テ、日本各地ニ類發スル所ノ災害ニ對シテ、損害填補ヲ爲サントスルコトハ不可能デアルト云フコトヲ、豫斷スルニ難クハナイノデアリマス、相互保險制ノ成立スル爲ニハ、亞米利加或ハ諸外國ニ於テ行ハレル所ノ大農經營ノ組織デナケレバナラヌ、一旦災害ガアッタ場合ニ、其災害ニ因ッテ被ッタ損害ガ、家族ノ生活ニ影響シナイ所ノ大農經營デナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ我國ノ農業ハ私ガ申上ゲル迄モナク、家族農業ヲ主體トスル小農經營デアリマシテ、全農家ノ六八%マデガ、一町歩以下ノ五反百姓デアリマシテ、農業經營ト家族生活トハ一ツノ紐帶ヲ成シテ居リマシテ、一度災害ニ見舞ハレマス、直チニ一家ガ食フコトスラ出來ナイヤウナ狀態ニ立至ルノデアリマス、斯ル貧困者ニ平素多額ノ保險料ヲ負擔セシムルコトハ不可能デアリマシテ、茲ニ本法案ノ相互保險制ヲ採リマシタ所ノ重大ナル缺陷ガ存在スルコトハ不可能デアリマシテ、政府ハ社會保險ノ原則ヲ十分酌ミ入レテ、國營保險制度ヲ採用シ、生活費ノ全額ヲ負擔スル制度ヲスルニアラザレバ、本案ノ目的ヲ達成スルコトハ出來ナイト思ヒマス、政府ノ所見ハ如何デアリマセウカ、次ニ本案ニ於キマシテ保險金ノ定額制ヲ採用シテ居ル、是ハ損害保險ノ本旨ニ反スルノデハナイカ、本案ニ於キマシテハ、保險金額ハ勅令ニ委任シテ居リマスノデ、何程ニナルカハ不明デアリマスケレドモ、昨

年ノ末農林省ノ發行致シマシタ所ノ要綱ニ依リマスルト、水稻ニハ僅ニ二十圓、桑ニハ二十圓、麥ニハ十圓トナツテ居ルノデアリマス、是ダケノ填補デハ到底農民ハ救ハレナイコトハ明デアリマス、尙ホ帝國農會ノ調査ニ依リマスルト、米作反當リノ生産費ハ、昭和十年度ニ於キマシテハ六十九圓十八錢、十一年度ニ於キマシテハ反當リ七十一圓十一錢トナルノデアリマシテ、二十圓ノ填補ヲ受ケタリトスルモ、僅ニ損害額ノ二割五分ニ過ギナイノデアリマス、而モ此二割五分ハ皆無作ノ場合ニ於テデアアル、三割乃至五六割ノ減收ノ場合ニハ、僅ニ二三圓カ五六圓シカ與ヘラレナイ、ドウシテ本案ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルデアリマセウカ、又一面ニ於キマシテハ、物ノ價格ハ固定シテ不動ノモノデハナイノデアリマス、種々ノ事情ニ依ツテ或ハ昂騰シ、或ハ暴落スルト云フコトハ明ナ事實デアアル、最近ノ情勢ヲ見マスルト、支那事變ノ影響ニ依リマシテ、漸次物價ハ昂騰シテ居ル、而モ物價ノ昂騰ハ勞賃ノ値上ヲ必然的ニ齎スト云フコトハ言フ迄モナイノデアリマス、隨テ災害ヲ受ケタル農作物又ハ生産費モ時ニ依ツテ相異ツテ來ル、損害金額モ亦異ルノガ當然デアリマス、例ヘバ今後物價並ニ勞賃ガ騰貴ヲ致シマシテ、今日反當リ七十二圓ノ生産費デアルガ、將來或ハ百五十圓ニナルカモ知レヌ、其場合ニ又同ジ保險金ノ定額制ニ依ツテ、七十圓ノ場合ト同ジ二十圓シカ與ヘラレナイト云フコトハ、損害保險ノ本旨ニ反スルモノデハナイカ、此點ニ關スル當局ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、第三ハ、保險ノ目的物並ニ保險事項ガ餘リ狭小ニ過ギハシナイカト云フコトデアリマス、是ハ保險法ヲ見マスルト云フト、其第一條ニ於キマシテ「行政官廳ノ認可ヲ受ケ風水害其ノ他ノ災害ニ因リテ書イテアリマシテ、何等具體的ノ事項ヲ一ツモ言ツテ居ラナイ、其他ノ災害トハ如何ナル災害ヲ指スノデアアルカト云フコトヲ、ハッキリ當局ニ御示ラ願ヒタイ、昨年ノ十二月ニ發表サレマシタ要綱ヲ見マスルト、僅ニ米作ト麥作ト桑作トノ農民ダケシカ、此保險ノ對象トナツテ居ラナイ、野菜或ハ果樹ヲ作ル農民ニ對シテハ、何等ノ方策モ講ジテ居ラナイ、一方ニ於テ農林當局ハ、今日多角形農業ヲ獎勵シテ居ル、野菜ヲ作レ、果樹ヲ作レ、兔ヲ飼ヘ、或ハ豚ヲ飼ヘト、多角形農業ヲ獎勵シテ居リナガラ、其多角形農業ノ獎勵ニ應ジテ作ツタ農作物

ニ對シマシテハ、何等保險ノ對象ニシテ居ラナイ、是ガ矛盾ニアラズシテ何ゾヤト言ヒタイノデアリマス、ソコデ私ハ斯ウ云フコトヲ質問致シタイ、第一ニ將來麥、桑、或ハ米以外ノ農業ニ從事シテ居ル者ニ對シテ、本案ヲ擴張スル意思ガアルカナイカト云フ點デアリマス、若シ擴張スル意思ガナイトスルナラバ、如何ナル方法ヲ以テ農業保險ヨリ除外サレタル所ノ農業ヲ保護スルヤト云フ、二點ニ付テ御伺致シタイト思フノデアリマス、第二ハ、保險事項ノ點デアリマスガ、是ハ中野氏或ハ其他ノ人カラ略御話ガアッタデアリマスガ、例ヘバ雪害、冷害、蟲害ニ因ルモノハ除外シテ居ル、雪害、冷害ニ付テハ、先程ノ人カラ詳シク申サレマシタガ、政府ノ之ニ對スル答辯ハ吾々ヲ納得セシメルコトガ出來ナイ、マダ研究ガ足ラヌト云フコトヲ言ウテ居ル、然ルニ農業保險ガ日本ニ唱道セラレタノハ、明治二十年デアッタノデアリマス、ソレカラ在朝在野ノ人、或ハ色々ノ人々ニ依ツテ研究ガ盡サレテ、政府ハ既ニ六十二議會ニ於テ法案ヲ提出シヨウトシタト言ハレルノデアリマス、ソレ以來ズツト研究ヲ續ケテ居リナガラ、今尙ホ冷害ニ對シテ研究ガ出來テ居ナイト云フコトハ、冷害ノ常ニ存シテ居ル所ノ東北地方ニ對シテ、政府當局ガ冷淡ダト云フコトヲ物語ルモノダト吾々ハ思フノデアリマス、然ルニ政府委員ノ答辯ハ、保險ニシナクテモ共濟事業ヲ行フコトヲ言ツテ居ル、所ガ共濟事業ノ主體ハ市町村デアアル、國家サヘモ行ヘナイ所ノ龐大ナル雪害及ビ冷害ニ對シテ、市町村ガドウシテ之ヲ行ヘルカ、單ニ法文中ニ共濟事業ヲ冷害ニ對シテ行フコトヲ規定シタニ止ツテ、實際上ハ不可能デアルト云フコトハ明ナ事實デアリマス、是ハ私共ハ政府ノ通路デハナイカト思フ、市町村ニ委シテ置イテ、ドウシテ共濟ガ出來ルカ、共濟事業ニ依ツテドウシテ行ヘルカ、ソレヲ御聽シタイノデアリマス、最後ニ政府ハ農業保險ノ實施後ニ於テ、從來政府ガ罹災農民ニ對シテ執ツテ參リマシタ所ノ罹災救助、其他災害地免租、低利資金ノ融通等ヲ、併セテ行フノ意思アリヤ否ヤト云フ問題デアリマス、若シ農業保險制度ノ實施ニ於テ、政府ハ之ニ満足シテ是等ノ方策ヲ講ジナイトスルナラバ、吾々ハ本案ニ對スル贊否ニ關シテ、十分考ヘナクチャナラヌノデアリマス、ドウカ此點ニ對シテ明確ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデゴザイマス

有馬農林大臣ノ應答

菊地君ノ御尋ニ御答ヲ致シマス、第一ノ提出ノ遅レマシタ理由ニ付キマシテハ、別ニ取立テテ申上グルコトモナイノデアリマシテ、色々ノ法案ガアリマスルシ、準備其他ノ爲ニ遅レタノデアリマシテ、甚ダ申譯ガアリマセヌガ、ドウゾ短イ時間ニ於テ十分御審議ヲ願ヒタイト思ヒマス、相互制ハイカスト云フ御説デゴザイマシタガ、日本ノ農村ノ農業ガ非常ニ小規模デアルト云フコトハ、或ハ缺點デアルカモ知レマセヌガ、併シ日本ノ農村ノ相互共済ト云フヤウナ風カラ考ヘテ見マシテモ、所謂相互制ト云フモノハ、必シモ日本ノ農村ニ適當デアルト考ヘテ居ラナイノデアリマス、殊ニ何ト申シマスカ、生活費全部ヲ保險ニ付スルト云フヤウナ、保險金額ヲ多額ニ致シマスコトハ、保險料ヲ高ク致シマシテ、小農ニ取リマシテハ負擔ガ重クナリマスルカラ、其點ハ考慮致シマシテ、成ベク保險料ヲ低額ニ致シマス爲ニ、定額制ヲ採ルコトニ致シタノデアリマス、定額制ノ大體ノ標準ト云フモノハ、是ハ次ノ生産ヲ行ヒマスル上ニ付キマシテ、其準備ヲスル爲ニ必要ナ現金支出ト云フモノヲ大體ノ標準ニ置キマシテ、定額制ト云フモノヲ考ヘタノデゴザイマス、收穫全部ニ對スル保險ト云フコトニナリマスレバ、只今申上ゲマシタヤウニ、非常ニ保險料ガ高クナル爲ニ、定額制ガ宜シト思ッテ居ルノデアリマス、保險事項、保險ヲ致シマス作物其他ニ付キマシテハ、只今ノ所デハ、米ト麥ト桑ト云フコトニナツテ居リマス、是ハ日本ノ全農産物ノ約七割ヲ占メテ居リマス、又面積カラ申シマシテモ、大部分ヲ占メテ居リマスノデ、差當リ此三ツノモノニ付キマシテ、風水害、旱害、其他ノ主ナル害ニ付テ保險ヲ付ケルコトニ致シマシタガ、決シテ之ニ限定ヲ致シテ居ルト云フ意味デハナイノデアリマシテ、將來必要ニ應ジテ又之ヲ改メタイト考ヘテ居リマス、冷害、雪害ノ點ニ付キマシテハ、只今中野君ニ御答申上ゲマシタ通りデアリマスガ、共済ト云フコトハ決シテ市町村ガ行フノデハナイノデアリマシテ、共済事業ハ保險組合ガ行フ、所謂郡區域ノ保險組合ガ之ヲ行フコトニナツテ居ルノデアリマス、此保險制度ガ設ケラレテモ、決シテ普通一般ニ今マデ行ハ

レタ所ノ災害ニ因ル救済的ナモノヲ廢止致ス考ハゴザイマセヌ、災害ニ因ル所ノ免租デアルトカ、或ハ低利資金ノ融通ナドハ、從來通り之ヲ行フノデアリマシテ、保險ノ爲ニソレ等ヲ廢止スルト云フヤウナ考ハ持ッテ居リマセヌ

次テ本案ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同月七日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ニ追加シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長村上國吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレマシタル農業保險法案ニ付キマシテ、委員會ノ審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、農業保險制度ノ立法ハ、我國農政史上眞ニ一新紀元ヲ劃スル大事業デアリマシテ、農村多年ノ要望ヲ滿ス所以デアリ、年々少カラザル災害ノ爲ニ禍サレテ居ル農業者ノ收入ヲ確保シ、其生活安定ニ資スルコト頗ル大ナルベキ重要ナル法案デアリマスルカラ、委員會ニ於キマシテハ去ル九日以來最モ慎重ニ審議ヲ重ネ、委員諸君亦極メテ熱心精勵、反復其質疑ヲ盡サレマシテ、本日茲ニ其結果ヲ御報告申上ゲ得マスコトハ、私ノ欣快トスル所デアリマス、私ハ先ヅ此法案ノ概要ヲ一通リ申上ゲタイト存ジマス、蓋シ此法案ハ我國ニ於テ初メテノ立法デアルカラ、其内容ノ要旨ヲ明カニシテ置ク必要ガアルト思フカラデアリマス、即チ此法案ニ定ムル所ノ農業保險ハ、農作物ニ關スル災害保險ヲ本旨トスルノデアリマシテ、郡ノ區域ニ依ル農業保險組合ニ、其元受保險事業ヲ行ハシメル、サウシテ其組合ノ組織員ハ個々ノ農家デナク、其區域内ノ市農會及ビ町村農會、又地方ノ狀況ニ依リマシテハ、共済事業ヲ行フ所ノ養蠶實行組合ヲモ其組織員トス

ル、團體加入組織ノ仕組デアリマスルコトハ、此保險組織ノ特色デアルト思フノデアリマス、又其再保險事業ハ右ノ保險組合ヲ以テ組織スル道府縣區域ノ聯合會ヲシテ之ヲ行ハシメ、更ニ其聯合會ノ行フ再保險ニ對シテ政府ガ再々保險ヲ行フ組立デアリマス、同時ニ又郡ノ區域ニ依ル農業保險組合ハ、其組合員タル市町村農會又ハ養蠶實行組合ガ一定ノ農作物ノ災害ニ付キ、其組員タル農家ニ對シテ行フ所ノ共濟事業、若クハ施設ニ依ッテ負擔スル共濟責任ニ付テ保險ヲ行フヲシテ行ハシメル制度ト致シテ居ルデアリマス、又此保險制度ニ於キマシテハ、其事業ガ社會ノ性質ヲ有スル本質ニ鑑ミマシテ、其保險料ノ一部ハ國庫ガ之ヲ負擔シ、且ツ組合員ノ加入、差當リノ所、農作物デハ水稻及ビ麥類、桑葉並ニ水稻ノ小作料デ、又其保險事故ハ風水害、旱害、凍電害等及ビ一定ノ植物病デアリマシテ、冷害、雪害等ハ今ノ場合之ヲ除外シテ居リマス、早ルガ、將來漸ヲ遂ウテ其對象ヲ擴張スルコトハ勿論デアリマス、次ニ保險組合ノ其組合員タル市町村農會又ハ養蠶實行組合ト契約スル保險金額ハ、耕作者ニアリテハ其生産ニ要スル現金支出ノ反當額ヲ、又地主ニ付テハ其土地負擔額ヲ標準トセル定額デアリマス、斯様ニ保險金額ヲ收穫價額ニ依ラズ、定額保險トセル理由ハ、保險料ニ關スル農家ノ負擔能力ヲ考慮セルト、及ビ保險事業經營上ノ便宜ニ基クモノデアルト説明サレテ居リマス、又支拂保險金ハ三割以上ノ減收ノアツタ場合ニ、其減收ノ程度ニ從ヒ、一定ノ金額ヲ支拂フノデアリマシテ、是等ハ命令ニ依ッテ定メラレルコトニナッテ居リマス、更ニ保險料ハ各地ニ於ケル農業氣象、用水關係、地勢等ヲ考慮シ、過去ノ災害統計ヲ基礎トシテ町村別ニ、又事情ニ依ッテハ部落別ニモ一定ノ算式ニ依ッテ之ヲ定メルコトトナルデアリガ、初メノ内ハ相當面倒ナコトデアラウト云フ感シヲ持チマシタ、次ニ保險組合聯合會ノ行フ再保險ハ所謂歩合再保險デ、即チ其保險金額ハ元受保險金額ノ七割ト云フコトニ致シテ居リマス、又此聯合會ニ對シテ行フ政府ノ再々保險ハ、各道府縣ニ於ケル異常災害ノ分散ヲ目的トスル超過再保險ト申スベキモノデ、各道府縣ノ災害

ガ通常ト見ルベキ程度ヲ超過シタ場合ニ、其聯合會ニ對シテ再保險金ヲ支拂フノデアリマス、尙ホ特ニ一言スベキコトハ、此法案ニ於テハ水稻小作料ノ取得ニ關スル保險ヲ認メテ居リマスガ、是ハ災害ノアツタ場合ニ、現實ニ行ハル、所ノ小作料ノ減免問題トハ相關關係ヲ持タセナイ趣旨ノモノデ、即チ一定ノ災害ガアツタ場合ニ、地主ハ小作料取得上ノ損失アルモノト看做シテ、直チニ之ニ保險金ノ支拂ヲ爲シ、此支拂保險金ニ相當スル小作料ノ部分ハ、之ヲ小作人ニ請求スルコトガ出來ナイモノト致シテ居ルデアリマス、以上ガ此法案ノ概要デアリマス、ソコデ私ハ此委員會デ審議セラレタル數多クノ質疑應答ノ中、最も重要ナリト認メラレタルモノ數點ニ付テ、次ニ之ヲ御紹介致シテ置キマス、即チ其第一點ハ、本法ニ於テ其保險事故ノ中ニ何故ニ冷害及ビ雪害ヲ取入レナカッタカト云フ點デアツテ、此問題ハ全質疑ノ殆ド大半ヲ占メテ居リマス、即チ北海道、東北及ビ北陸地方ハ、冷害及ビ雪害ヲ被ルコト甚シク、殊ニ冷害ノ爲ニハ農家ハ時ニ或ハ飢餓ニ瀕セントスルコトサヘアリ、地方ノ農民ハ絶エズ其生活ノ不安ニ脅カサレテ居ル、故ニ苟モ農業保險ノ立法ヲ考フル時ニ、何人ト雖モ此冷害及ビ雪害ハ第一ニ其保險事故ノ中ニ取入レラるベキデアルニ拘ラズ、之ヲ除外セル如キハ失當ノ甚シキモノデアアル、是等ノ地方民ガ多年農業保險制度ノ制定ヲ渴望シ來レル所以ハ、其實施ニ依ッテ斯ノ如キ深刻ナル被害ヨリ救ハレ得ルモノデアルト信ジタガ故デアアル、然ルニ今之ヲ除外セル本法案ノ如キハ、殆ド農業保險ノ意義ヲ爲サナイ、是等ノ地方民多年ノ渴望ヲ全然裏切ルモノナリトシテ、其論難追究極メテ急ナルモノデアツタデアリマス、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、冷害及ビ雪害ハ政府ニ於テモ極メテ之ヲ重要視シ、從來ト雖モ其救濟施設ヲ行ッテ來タノデアアルガ、之ヲ保險事故ノ中ニ取入レルニ付テハ、相當信憑シ得ル災害統計ヲ必要トスルニ拘ラズ、現在ノ所未ダ十分ナル統計資料ヲ整フルニ至ッテ居ナイノデ、隨テ被保險者ガ何程ノ保險料ヲ負擔スレバ足ルカ、又政府ニ於テ何程ノ支出ヲ要スルカノ見透シモ付カナイ現狀デアアルカラ、一應ハ之ヲ保險ヨリ除外シテ、農業保險組合ノ共濟事業ニ依ラシムルコトト爲シ、政府ヨリ援助シテ共濟ノ實ヲ舉ゲシムルコトニ努力スルト共ニ、一方可及的ニ其調査攻究ヲ遂ゲ、出來得ル限り速

ニ之ヲ保險事故中ニ取入レルヤウニスル考デアルトノコトデアリマシタガ、委員ハ此答辯ヲ満足ガ出來ズ、益々急迫ガアリマシタノデ、最後ニ此點ニ關シ農林大臣ヨリ言明ヲ得タノデアリマス、此言明ハ極メテ重大デアリマスルカラ、農林大臣ハ當議場ニ於テ重ネテ其言明ヲ爲サレシコトヲ私ハ茲ニ要求シテ、私ノ報告ヨリ省クコトニ致シマス、重要ナル質疑ノ第二點ハ、此法案ニ依ル保險計畫ノ内容ガ餘リニ貧困デアルト云フ問題デアリマシテ、保險金額ノ如キハ實收獲價額ノ三分ノ一又ハ四分ノ一、若クハ五分ノ一位ニ過ギナイ、又其支拂保險金額モ、普通ニ見ル所ノ災害ノ場合ニハ極メテ少額デ、而モ減收三割マデノ被害ニハ其支拂額ヲ止メ、三割乃至五割ノ損害ノ場合ニ、僅ニ保險金額ノ一割ニ當ル程度ノ支拂ニ止メ、九割以上減收ノ被害アリタル時初メテ全額、即チ十割ノ支拂ヲ爲スト云フガ如キハ、子供騙シニ類スルモノデアルトノ非難ガアリ、又我國農家ノ實情ヨリスレバ相互主義ノ保險制度トスルコトニ無理ガアルノデアルカラ、政府ニ於テ思切ッテ助成ヲ爲シ、以テ保險料ノ低下ト保險金ノ支拂額ヲ増額スベキデアリカト云フヤウナ質疑ガ繰返サレタノデアリマス、右ノ質疑ニ對スル政府ノ答辯ハ、本制度ハ我國ニ於テハ初メテノ施設デ、官民共ニ未ダ經驗ヲ持タナイ上ニ、多數ノ零細農ヲモ包含セシメントスル社會保險の制度デアル爲ニ、保險料ノ負擔ガ重クナツテハナラズ、從來ノ共濟施設ノ實情ヤ農家負擔力ノ程度ヲ考慮シテ定メタノデ、其計畫ガ甚ダ不十分デアルトハ已ムヲ得ナイト考ヘルガ、政府ハ勿論之ヲ以テ災害救済ハ足レリトスルモノデハナク、保險事業ノ發達ト逐次ニ得ル所ノ經驗ニ依ツテ、漸次之ヲ擴充スル意向デアルトコトヲ表明致シマシタ、又三割以下ノ災害ニ保險金ヲ支拂ハナイコトニナツテ居ル理由ハ、從來ノ保險ヲ目的トスル災害統計ガ、三割以上ニ減收ノ場合ノミノ調査ニナツテ居ルノデ、致方ガナイノダトノ答辯デアリマシタガ、保險金額ニ對スル支拂保險金額ノ割合ガ甚シク不當デアルトノ非難ニ對シマシテハ、政府モ之ヲ認メ、施行令ノ制定ニ際シテ、計算上許サレル限り之ヲ改メントスル意思ヲ示シタノデアリマス、又國庫支出ノ點ニ關シマシテハ、政府ハ毎年ノ保險料ノ一部ヲ永久ニ負擔シ、且ツ保險組合ニ對シテ其共濟施設ヲ助成スル等、相當額ノ負擔ヲ要スルノミナラズ、異常災害

ニ際シテハ一舉ニ極メテ巨額ノ支出ヲ約束スルコトデモアリ、更ニ保險事業ガ普及スレバ普及スル程、年々多額ノ負擔ヲ爲スベキ立前デアルノデ、保險料ノ低下、保險金支拂額ノ増額ノ爲ニ、國庫支出ヲ増額スルコトハ頗ル困難ナル様ノ答辯デアリマシタガ、委員會ニ於キマシテハ到底斯ノ如キ答辯ヲ諒解ノ行ク譯デモナク、段々農林大臣ニ其ノ決意ヲ追ッタノデアリマスルガ、農林大臣カラハ、本案實施ニ當リマシテハ出來得ル限り御趣意ニ副フヤウニ努力ヲ致シタイト思ヒマス、斯ウシタ言明ガアツタノデアリマス、次ニ重要ナル質疑ノ第三點ハ、此法案ニ於ケル養蠶實行組合ノ取扱ニ關スル問題デアリマシテ、即チ本法第一條ニ於テ、市町村農會ハ行政官廳ノ認可ニ依リ農業保險組合ヲ設立スルコトヲ得ルモノト規定セルニ拘ラズ、養蠶實行組合ガ農業保險組合ノ設立者又ハ其組合員タルトスルニハ、主務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要スルモノト第二條ニ規定セルコトハ、全ク差別的ノ取扱ヒ方デ、蠶絲業組合法ニ依ル養蠶團體ノ重要性ヲ輕視シ、活動セル全國四万有餘ノ養蠶實行組合ノ現狀ニ對スル認識不足ノ不當ナル扱ヒ方デアルカラ、此第二條ヲ削除シ、第一條ニ於テ市町村農會ト並ンデ養蠶實行組合ヲ認ムベシトノ趣旨ノ質問ガアツタノデアリマス、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、養蠶團體ノ重要性ニ關スル認識ニ付テハ、政府ハ決シテ人後ニ落チル者デハナイガ、養蠶實行組合ノ行ヒ得ル保險關係ハ桑葉デ、是ハ桑園ノ耕作者ガ悉ク市町村ノ農會員タル關係上、農會ニ於テモ爲シ得ル保險事業デアリ、又養蠶實行組合ハ強制團體デナク、經費ノ強制徵收モ認メラレテ居ナイ、サウシタ團體ガ保險組合ノ組合員トナツテ、桑葉ニ付テノ保險契約ヲ爲スコトヲ認メルニ付キマシテハ、其實行組合ノ内容ノ實體、又農會トノ關係等ニ關スル見方ガ、地方的ニ區々ニナツタノデハ宜シクナイト云フ考カラシテ、之ヲ地方ノ行政官廳ニ委任スルコトヲ避ケタノダト云フ答辯デアリマシタ、サウシテ此問題ニ關聯致シマシテ、其點ニ對スル政府ノ認識ヲ確メルト同時ニ、更ニ委員會ニ於キマシテ、其認可取扱ニ關シテハ、行政官廳ト主務省トノ間ニ十分ニ注意ヲ拂ッテ、雙方ノ相剋摩擦ヲ來サナイヤウニ留意セナケレバナラヌデハナイカト云フ質疑ニ對シテ、農林大臣ハ、養蠶實行組合ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ組合員トナルコトト致シタガ、此認可

ニ當テハ具體的實情ヲ十分考慮シ、眞ニ實情ニ適應シ、地方的ニ偏頗ナク公正妥當ナル取扱ヲ致スヤウニ努ムベキコトハ勿論デアリマス。云フ言明ガアッタノデアリマス、ソレカラ水稻ノ稻熱病ヲ保險事故ノ中ニ入レルベキデハナイカトノ熱心ナル質問ガアリマシタガ、政府ハ保險事故ノ中ニ認メントスル一定ノ植物病ト云フノハ、例ヘバ風害ニ起因スル水稻ノ白葉枯病ノ如ク、不可抗力ニ依ッテ發生スル損害ニ對シテ、之ヲ保險セントスルノデアアッテ、稻熱病ノヤウニ豫防スレバ豫防シ得ル見込ノモノニ對シテハ、蟲害ト同ジク保險事故ト致サナイコトニシタノデアアルト答辯ヲ致シマシタガ、質疑者トハ此豫防ノ出來ル出來ナイト云フ點ニ付テ、尙ホ意見ノ相違ガアルヤウニ見受ケマシタガ、結局ニ於テ政府ハ尙ホ能ク調査研究ヲ遂ゲルコトニスルトノ言明ヲ與ヘタノデアリマス、保險ノ對象タル作物ノ中ニ燕麥ヲ除外セルコトガ指摘サレマシテ問題トナリマシタガ、政府ハ燕麥ニ付テハ、麥類トシテハ差當リ廣イ地域ニ作ラレルモノト致シタ關係上、大麥、小麥、裸麥トシ、燕麥ハ除外シタノデアアルケレドモ、實施ニ當リマシテハ御趣旨ニ副フヤウニ努力致シマス。農林大臣カラ言明ガアッタノデアリマス、以上ノ外向ホ色々多クノ質疑ガアリ、希望モアリマシタガ、是等ハ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願フコトニシテ、此處ニハ省略ヲ致シマス、以上デ質疑ガ終了シ討論ニ入ッタノデアリマスガ、民政黨ニ於テハ村松久義君、政友會ニ於テハ加藤知正君、第一議員俱樂部ニ於テハ北勝太郎君、社會大衆黨ニ於テハ菊地養之輔君、第二控室ニ於テハ中原謹司君、東方會ニ於テハ小野謙一君ガ、各代表的ニ意見ヲ述ベラレマシタ、其意見ヲ要約致シマス。ト、何レモ案ノ内容ガ餘リニ貧弱デ、期待ニ背クコト甚シキ不滿ハアルガ、法案ノ重要性ニ鑑ミ、施行ノ後ニ逐次其内容ヲ充實擴張スベシトノ政府ノ答辯、殊ニ農林大臣ガ責任ヲ以テ言明セラレタル其言明ニ信賴シ、多大ノ期待ト希望トヲ實施ノ後ニ繋ギ、此條件ノ下ニ原案ニ賛成スルトノ旨デアリマシタ、斯クテ採決ニ入リマシテ、全會一致原案ヲ可決致シタ次第デアリマス、何卒委員會ノ決議ノ通りニ可決セラレンコトヲ希望致シマシテ私ノ報告ヲ終リマス。

有馬農林大臣ハ政府ノ意見ヲ述フ  
只今村上委員長ヨリ農業保險委員會ノ御報告ノゴザイマシタ中ニ、冷害並ニ雪害ニ關シマシタ事項ニ付キマシテ、委員會ニ於テ私ガ聲明致シマシタコトヲ、本議場ニ於テ更ニ申述ベルヤウニト云フコトデアリマス。此處デ再ビ之ヲ聲明致シマス、本案ニハ冷害及ビ雪害ハ一應之ヲ保險事故ト致シテ居ラナイノデアリマスガ、政府モ固ヨリ是ガ救濟制度確立ノ必要ヲ認メテ居ルノデアリマス。ルカラ、委員會ニ於ケル委員諸君ノ御要望ノ趣旨ニモ鑑ミマシテ、明年度ヨリ現ニ農林省ニ設置致シテアリマスル農林災害保險及ビ共濟制度委員會ニ諮リマシテ、具體案ノ作成ニ努メル積リデアリマス、尙ホ右救濟制度ノ確立マデニ於キマシテモ、冷害及ビ雪害ニ對スル救濟及ビ共濟ニ關シマシテハ、之ヲ重要視致シマシテ、適切ナル對策ヲ講ズルコト勿論デアリマス、以上茲ニ聲明ヲ致シマス

討論ニ入り松浦周太郎君、坪山徳彌君、平野力三君及菊地養之輔君ハ執レモ原案ニ賛成ノ演說ヲ爲ス

松浦周太郎君ノ賛成演說

私ハ只今上程ニナリマシタ農業保險法案ニ對シマシテ、立憲民政黨ヲ代表致シマシテ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、本保險法案ガ提案セラレマス同時ニ、政府ハ其說明ノ内容ニ於キマシテ、農業保險制度ヲ樹立シテ、農家收入ノ源泉ヲ確保シ、各種農業對策ト併セテ、農村生産力ノ維持増進ヲ圖ルハ勿論、農村ノ更生ヲ圖ルト申シテ居リマス、此聲明ニ依リマシテ、全國五百六十萬戸ノ農村ハ、如何ニ此法案ニ依ッテ吾々ノ救ハレルコトヲ待望シタモノデアリマセウカ、其案ヲ檢討致シテ見マス。實ニ農家ノ待望ヲ裏切ツテ、貧窮極マルモノデアッタノデアリマス、先ヅ保險ノ範圍ノ内容ニ付テ考ヘテ見マス。今日ノ農家經濟ヲ救フナラバ、單ニ收穫保險ダケデナシニ、農業經營主體其モノニ保險ヲスル必要ガアルコトヲ痛感スル者デアリマス、言フ迄モナク農村ノ生産ハ源泉ハ土地デアアル、其土地ノ災害ニ付テノ事故ヲ、全然保

險目的カラ除外シテ居タ其一事ヲ見マシテモ、私ハ此法案ガ今日ノ農村經濟ヲ救済スルノ源泉デアルトハ言ヒ得ナイノデアリマス、ノミナラズ然ラバ收穫災害保險ト致シマセウカ、此收穫ノ災害保險ニ付テモ、收穫物全體デハナイ、作物全體デハナイ、唯一部定額保險デア、而モ其作物ノ種類ニ於キマシテハ、米、麥、桑ニ限ラレテ居ルノデアリマス、是等ノ作物ノ種類ニ限ラレテ居リナガラ、立派ニ麥ノ中ニ含まレテ居ル所ノ燕麥ヲ除外シテ居ル、又一部收穫ノ定額保險デア、其災害ノ種類ニ限定ラシテ居ル、政府ハ其質問應答ノ中ニ、常ニ人カヲ以テ及バザル所ノ天災ニ對シテ、此危險ヲ保障スルモノデアルト言ッテ居ルガ、其災害ノ中ニ最モ大キナ天災トセラルベキモノハ、言フ迄モナク東北、北海道及ビ北陸地方ニ於ケル所ノ冷害其モノデア、如何ニ政府ガ天狗ニ肖リテモ、人ノ力デドウシテ此冷害ヲ防止スルコトガ出來マセウカ、此冷害ニ對シテハ殆ド統計ガ足ラナイトカ、或ハ調査ガ足ラナイトカ、色々言フ左右ニ致シマシテ、此冷害ニ對スル誠意ヲ持ッテ居ラヌコトヲ遺憾トスルモノデアリマス、然ルニ政府ノ言フガ如ク、眞ニ冷害ニ對スル調査ガ行届イテ居タカドウカ、本農業保險ト云フモノガ議會ニ提案セラレマシテカラノ歴史ハ、既ニ十二箇年ヲ經過致シテ居リマス、其間昭和九年ノ冷害ノ統計スラ集ッテ居ラヌト云フニ至ッテハ、政府ガ農村ニ對スル誠意ヲ疑フモノデアリマス、斯様ナ情勢デアリマシテ、吾々民政黨員ハ最後マデ政府ニ之ヲ追究シ農村ノ現狀、否東北、北海道、北陸等ノ農村ノ現狀ヲ救フモノハ、此冷害對策ニアリト絶叫致シマシタ、之ニ對シテ政府ハ種々考慮セラレマシテ、先程モ農林大臣ガ此席上ニ於テ御發表ニナッタ如ク、内容ノ殊ニ重大ナルモノヲ發表セラレマシタガ故ニ、吾々ハ之ニ贊成スルモノデアリマス、更ニ此保險料ノ問題ニ付テデアリマスガ、先程村上委員長カラモ御報告ガアリマシタガ、碎イテ申シマスルト、七十六錢ヲ三箇年掛ケテ二圓二十八錢、而モ三年ニ一度五分作ニ遭遇シタ時ニ於テ二十六錢ノ損ガ行クト云フ内容デアリマス、之ヲ小作人ニ見マスルト、一圓十四錢ヲ拂ッ

テ一圓シカ貫ヘナイ、政府ガ助成スルト雖モ小作地一反ニ對シテ五錢ノ助成デアリマス、是デ小作人ガドウシテ保險ヲ要望シマセウカ、私ハ此内容其儘ナラバ、今日ノ小作者ハサウシタ税金ヲ増スガ如キモノニハ、斷ジテ入ラナイと思フ、斯ウ云フ内容ヲ持ッテ居リマスノミナラズ、本法ノ最モ缺點トスル所ハ、日本全國ノ災害ヲ平均ニ見テ七十六錢ト致シテ居リマスガ、南方ノ方面ノ所謂小面積耕作、所謂多角形農業、所謂立體的農業ノ方面ニ於キマシテハ、面積ニ對スル保險料ナルガ故ニ、少額ナル負擔デ之ヲ濟マスコトガ出來マセウカ、若シ之ヲ北陸、東北、北海道ノ如キ單作、所謂平面農業、面積ノ擴大スル農地ヲ持ッテ居ル農業地帯ト致シマシテハ、莫大ナル金ヲ支拂ハナクテハナラズ、茲ニ本案ノ缺陷ガアルと思フ、所謂平面農業ハ立體農業ニ對シテ其負擔ノ均衡ガ缺ケテ居ル、是ガ本法ノ最モ缺點ト稱スベキ所デアラウト思ヒマス、今日ノ農家ノ現狀ハ言フ迄モナク、農家ガ今日ノ窮境ニ至リマシタ其原因ヲ追究致シマスナラバ、所謂資本主義經濟ニ壓倒セラレタト申シマセウカ、所謂今日ノ農家ノ經濟ハ、消費ハ文化ノ尖端ヲ行キ、生産ハ昔變ラヌ粗笨農業デア、而モ其上ニ今日ノ社會情勢ハ、税ノ均衡ノ上ニ於テ二倍三倍ノ多クノ税ヲ支拂ヒ、一朝事アル場合ニハ國家ノ干城トシテ農村青年ノ六割七分ハ徵集サレテ居ル、而モ其生産費ノ値上リニ於キマシテハ、色々他ノ商品ハ非常ニ値上リヲ致シテ居リマスケレドモ、今日ノ農村ノ生産費ハドウデアリマセウカ、何レノ部面ヲ見マシテモ、今日ノ農村ノ生活ト云フモノハ、今日ノ如キ狀態ニナラナケレバナナイ情勢ニ置カレタノミナラズ、農村其モノハ所謂社會全體ノ搾取ノ對象ニナッテ居タノデアリマス、斯ウ云フ情勢デゴザイマスカラ、政府ガ茲ニ保險法案ヲ出サレラバ、簡單ナル所ノ相互扶助ニ依ル保險制度デナシニ、國家ガ之ヲ助成スル、所謂國家保障ノ制度ニスルニアラザレバ、此保險ノ完璧ヲ期スルコトハ斷ジテ出來ナイと思ヒマス、此意味ニ於キマシテ、私ハ此法案ノ審議ニ當テハ、各種ノ速記録並ニ此席上ニ於テ各代表者ノ述べラレタ所ノ其意思、ソレヲ農林大臣ハ十分ニ酌取ラレテ、私ハ農林大臣ニ對シテ滿腔ノ信賴ヲ持ツモノデア、農林大臣ハ曾テ産業組合ノ中央金庫ノ理事長ヲシテ居ラレタ時ニ、有ユル「イデオロギー」ヲ盛ッタ「パンフレット」ヲ發

行セラレテ居ル、私ハ農村青年トシテ此農林大臣ノ農村指導、農林大臣ノ此確信ナラバ今日ノ農村ハ救フコトガ出来ルト待望シテ居リマシタニ拘ラズ、此法案ノ内容ハドウデアルカ、アナタハ以前持ッテ居ラレタ其強イ信念ヲ以テ、此農村ノ窮乏ノ現狀ニ鑑ミ、先程アナタガ此處ニ聲明セラレマシタ末尾ニアル所ノ、重要視シテ適切ナル對策ヲ講ズルコトハ勿論デアリマス云フコトヲ御忘レニナラナイデ、此農業保險制度ヲ立派ニ確立セラレンコトヲ要望シ、茲ニ私ハ簡單ニ賛成ノ意ヲ表スルモノデアリマス

坪山徳彌君ノ賛成演説

只今議題トナッテ居リマスル農業保險法案ニ對シ、私ハ立憲政友會ヲ代表シテ委員長ノ報告ニ對シ、賛成ヲ致ス者デアリマス、勿論政府言明ノ事項ニ關シテハ、是ガ實現ノ速カナランコトヲ特ニ強調スルモノデアリマス、申上グル迄モナク、本法案ハ農地調整法ト共ニ我國農業ニ取ッテ、今期議會ニ於ケルニ大重要法案デアルコトハ論ヲ俟タナイ所デアリマス、而モ本制度ガ劃期的革新政策デアリ、農業關係者ガ多年要望シ、是ガ實現ノ一日モ速カナランコトヲ期シテ居タモノデアリマス、然ルニ本法案ノ内容ヲ檢討スルニ及ンデ、折角ノ農民ノ期待ハ全ク裏切ラレタ感ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、本法案ノ實施ニ依ッテ果シテ政府ノ期待シテ居ラル、如キ效果ヲ擧ゲ得ルヤ否ヤ、洵ニ疑問ニ思フノデアリマス、併ナガラ初メテノ法案デアリ、而モ議會ノ會期ハ非常ニ切迫ヲ致シテ居リマス今日、徒ニ修正改廢等ヲ行ヒ、案ヲ不成立ニ導クガ如キハ却テ農民ノ爲ニ忠實ナラザルモノデアルト考ヘマシテ、姑ク政府ノ言明ヲ信賴シ、茲ニ二三ノ希望ト警告ヲ發シテ本法案ニ賛成ノ意ヲ明ニ致シタイト思フノデアリマス、農村ノ疲弊困憊甚シク、經濟的ニ惠マレザル狀態ハ今更多言ヲ要サナイノデアリマス、殊ニ不慮ノ災害ニ因リテ被ル損害ハ年々頗ル大ナルモノガアリマシテ、是ガ爲メ農家經濟ノ受クル打撃モ、決シテ尠クハナイノデアリマス、是等損害ノ填補輕減ヲ圖リ、以テ農家負債ノ原因ヲ防除シ、農業經營ヲ安定セシメ、農業生産力ノ維持増進ヲ圖リ、農村經濟更生ノ爲ニ本法案

ガ生レタノデアリマスルガ、其内容ハ極メテ貧弱デ、是ガ實施ノ曉ニハ農民ノ失望落膽ハ蓋シ想像ニ餘リアルト思ヒマス、徒ニ相互扶助ノ美名ニ隠レテ國家ノ負擔ヲ輕カラシメントスルガ如キ態度ニ出ラレタルコトハ、本法案實施ニ當リ其實績ヲ擧ゲル上ニ於テ、相當困難ナル事柄デアルト考ヘネバナリマセヌ、殊ニ農村ノ現況ハ、農家ガ直屬ノ市町村農會又ハ養蠶實行組合ノ僅少ナル費用スラ負擔シ得ザル實情ニ鑑ミラレマシテ、是ガ實施ニ當ッテハ單ニ保險料ノ一部國庫負擔ノ限度ニ止メズ、少クモ保險料ノ半額程度ハ之ヲ國家ニ於テ補助シ、農業災害救済ノ實ヲ擧ゲルコトニ一段ノ留意ヲ望ム次第デアリマス、養蠶實行組合ヲ本法第一條ヨリ除外シ、之ヲ特殊ナル取扱ニ委ネタルコトハ、其當ヲ得ザルモノト言ハナケレバナリマセヌノデアリマシテ、是ガ爲ニ却テ農村ノ麗シキ平和ヲ破ルノデハナカラウカト心配セラレルノデアリマス、是等ノ市町村農會ト養蠶實行組合トノ取扱ニ付テハ特ニ細心ノ注意ガ肝要デアルト考ヘラレマスルカラ、地方ノ實情ニ付テ詳細ナル調査ヲ遂ゲ至公至平事ニ當ルノ重大ナ覺悟ガナケレバナラナイト思ヒマス、調査研究不十分ノ理由ヲ以テ雪害冷害等ノ事故ヲ保險事業カラ除キ、又豫防シ得ルノ理由ヲ以テ稻熱病ヲ其事故ヨリ除外シテ、單ニ救済事業ニ委ネントスルガ如キ態度ハ洵ニ承服シ得ザル所デアリマス、東北、北海道、北陸、北關東地方ノ如キ年々是等ノ害ヲ被ルル地方ニ於テハ、雪害、冷害、稻熱病ヲ除キ何ノ保險ノ效果ガアルデアラウカ、是等ノ事故ガ加ッテコソ初メテ農業保險ノ農業保險タル價値ヲ發揮シ得ルノデアリマス、殊ニ是等ノ特殊ナル地方ニ對シテハ、特別ナル取扱ヲ爲シテ、疲弊困憊ノ極ニアル地方農民ヲ救済スルコトニ、何ノ躊躇遠慮スル必要ガアルノデアラウカ、今ヤ八十億ノ豫算ヲ議決シタル今日ニ於テ殊ニ然リデアリマス、保險技術上ノ困難ナル理由ヲ以テ、是ガ施行ヲ遷延セントスルガ如キハ、其ノ眞意ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、此問題ニ付テハ來年度速ニ是ガ調査研究ヲ重ネ善處スル旨ノ言明ガアリマシタノデ、速ニ是ガ調査研究ヲ完了セラレ、地方農民ノ意ノ在ル所ヲ尊重セラレ、一日モ速ク是ガ實現ヲ望ンデ已マナイ次第デアリマス、尙ホ農村ニ於ケル人的資源及ビ食糧資源タル農耕地ノ災害ニ付テモ其被害ガ極メテ甚大ナルニ鑑ミ、是ガ救済制度ニ付



テモ速ニ實現セラレシコトヲ希望スル次第アリマス、自然的災害ヲ被リ易キ果樹、茶或ハ大麻、干瓢、西瓜、砂糖黍等ノ特殊農作物ニ對シテハ十分是ガ研究調査ヲ遂ゲ、其濟事業ハ勿論、保險事業ニ加ヘラレシヤウ希望スル所デアリマス、災害ノ未然防止ニ對シテハ決シテ之ヲ等閑ニ付スルヤウナコトガアツテハナラナイト思ヒマス、經費ノ關係上動トモスレバ現況ニ満足セントスル、各府縣農事試驗場ヲ特ニ此際動員ヲシテ、一層其活動ヲ促シ、土壤ノ検査、施肥標準調査、肥培管理ノ方法、或ハ品種ノ改良、特殊農作物等ノ研究調査ヲ速ナラシメ、地方ニ適當ナル品種ヲ選出シ、肥培管理ノ改善ヲ行フト共ニ、速ニ適地適作主義ヲ獎勵シ、以テ災害ヲ未然ニ防止セシムベキコトニ努ムベキダト思ヒマス、又農作物ノ自然的災害ヲ未然ニ防止スルコトニ關シテハ、積極的災害豫防施設ヲ忘却シテハナラナイト思ヒマス、灌溉水竝ニ勞力不足ニ對シテハ、耕地整理ノ獎勵、貯水池ノ設置、旱害水害ニ對シテハ、水源林ノ培養、砂防ノ強化、河川ノ改修、用排水幹線ノ整備等、一日モ之ヲ忽セニスベキモノデハナイト信ジマス、病蟲害ニ對スル豫防驅除、實地指導等ニ對シテ決シテ注意ヲ怠ラズテハナラナイマセス、勞力不足ヨリ生ズル農產物收穫減ニ對シテハ、特ニ此際政府ノ注意ヲ喚起シナケレバナリテ君國ノ爲ニ奉公ノ誠ヲ捧ゲツ、アルノデアリマシテ、是ガ爲ニ農村ニ於ケル勞働力ハ甚シキ不足ヲ痛感致シテ居リマス、加フルニ近時軍事工業發展ノ結果、農村ニ於ケル青年子女ハ、年ト共ニ是等工業都市ニ集中セラレ、農村ニ於ケル勞働力ノ不足ハ益々其度ヲ加ヘツ、アル現況デアリマス、勿論是等勞力不足ニ對シテハ、隣保共助ノ精神ニ依ツテ、或ル程度ノ補給ハ爲シ得ルト思ヒマスケレドモ、天候自然ニ支配セラレ易キ五月、六月ノ作付時期、即チ水稻ノ植付、大小麥ノ收穫時期ニ於ケル勞力不足ニ對シテハ決シテ樂觀ヲ許サナイモノガアルト思ヒマス、特ニ馬ノ徵發ニ依リ勞働力不足ニ關シテハ、特ニ是ガ補充ニ對シテ適切ナル方途ヲ講ゼラレ、苟モ作付不能ニ陥ルガ如キコトノ萬ナカラシコトヲ望ム者デアリマス、是等勞働力不足ヨリ生ズル收穫減ニ對スル未然防止ニ付テハ特ニ周到ナル對策ヲ要求スル次第デアリマス、由來農

村問題ハ動トモスレバ社會ヨリ輕視セラレントスルガ如キ傾向ノアリマスコトハ、我國農業界ノ爲メ眞ニ遺憾ニ堪ヘザル所デアリマス、農業ガ他ノ職業ニ比較シテ其努力ニ對シテ常ニ惠マレザル立場ニアリマスコトハ、否定シ得ザル現實デアリマシテ、農民ハ働ケド、増スノハ借金バカリデアリマス、獨リ農民ノミガ終生斯ノ如キ慘メナ生活ヲ致サナケレバナラヌト云フ理由ハ決シテアルベキモノデアリマセス、茲ニ政治ノ行届カザル缺陷ガアルト言ハザルヲ得マセス、此點ニ關シテ政府ノ注意ヲ喚起シテ已マナイ次第デアリマス、此窮乏セル農村ヲ救済スル爲ニハ常ニ勇猛心ニ富ミ、熱意アリ、眞ニ農業ヲ理解シテ居ル適當ナル當事者ヲ得ルニアラザレバ、到底望ムコトハ出來得ナイト確信致シテ居リマス、農政官吏ノ任免異動ニ當テハ、一屬吏ト雖モ之ヲ輕々ニ行フガ如キコトナク、宜シク其地方ノ事情ヲ參酌シ、適否ヲ極メ、適材ヲ適所ニ配置シ、十分其手腕ヲ發揮セシムルコトヲ忘レテハナラナイト思ヒマス、農村ニ於ケル銃後ノ護ハ重且ツ大デアリマス、政府ハ宜シク念ヲ特ニ此點ニ注ガレテ廣義國防ノ完結ノ立場カラモ、今日ノ農村ガ一刻モ早ク經濟的ニ惠マレ得ル日ノ速ナランコトヲ懇願シテ已マナイ次第デアリマス、之ヲ要スルニ本法案ハ幾多ノ不平不満ヲ殘シテ忍ブベカラザルヲ忍ンデ、是ガ成立ヲ急グガ爲ニ已ムナク茲ニ贊成ヲ致ス者デアリマスカラ、本法實施ニ當ツテハ政府言明ノ實行ハ勿論、連日ニ互ル委員會ニ於ケル質疑ノ状態ニ深ク留意セラレ、農村ノ爲メ萬遺算ナキヤウ特ニ希望スル者デアリマス、以上ノ諸點ヲ申述ベマシテ私ノ本法案ニ對シテ贊成ヲ致ス理由ト致シマス

平野力三君ノ贊成演說

私ハ第一議員俱樂部ヲ代表致シマシテ本農業保險法案ニ關シマシテ、委員長ノ報告ニ贊成スル者デアリマス、唯此際特ニ政府ニ對シテ重要ナル希望意見ヲ申述ベタイト思ヒマスコトハ、農村疲弊ノ根源ト云フモノガ、農業ガ災害ニ禍セラレマスルコトハ、何人モ承知スル所デアリマス、此農村疲弊ノ根幹ニ觸レタル所ノ重要法案ヲ提案サレマスル所ノ農村當局ガ、是ガ實施

ラサレマシタ場合ニ於テ、極メテ實益ノ薄イ法案ト云フモノニ對シテハ、吾々ハ假ニ賛成ヲ致  
スト致シマシテモ、當局ニ對シテ重要ナル希望意見ヲ述ブルコトハ當然デアラウト思フノデア  
リマス、隨テ私ハ以下三ツニ互リマスル所ノ希望意見ヲ申上ゲマシテ、本案ニ對スル所ノ賛成  
トスル次第デアリマス、希望意見ヲ朗讀致シマス、先ツ

第一ハ、政府ハ農業保險施行ニ當リ、眞ニ災害救済ノ目的ヲ達スル爲必要ナル經費ノ負擔ヲ

計上シ次期議會ニ必ズ提出スベシ

第二、政府ハ速ニ冷害、雪害ノ調査ヲ遂ゲ之ガ根本對策ヲ樹立スベシ

第三、政府ハ本法案施行ニ伴ヒ漸次農業保險目的物タル所ノ農作物ノ種類ヲ擴張スベシ

以上デアリマス、此希望意見ニ關シマシテ、簡單ニ私ノ所見ヲ申上ゲタイト思ヒマス、何ガ故  
ニ第一ノ希望意見ヲ附スルカト申シマスナラバ、本案ハ委員長ノ報告サレマシタ通り、極メ  
テ此案其モノガ施行サル、場合ニ於キマシテハ、農民ノ失望ト云フモノハ甚シイノデアリマ  
ス、其失望ノ甚シイ理由ト云フ問題ハ、實益ガ乏シイト云フコトデアリマス、何ガ故ニ實益ガ  
乏シイカト申シマスルト、政府ガ吾々ニ提出致シマシタ其保險料ト保險金額ノ内容ヲ見マスル  
ナラバ、自作農ニ於テハ七十六錢、小作農ニ於テハ三十八錢、地主ニ於テハ四十三錢ノ  
保險料ヲ掛ケマシタ場合ニ於テ、而モ其收穫ガ五割減ト云フ農民ニ取リマシテ致命ノ打撃ヲ  
受ケマシタ場合ニ、保險金ヲ幾ラ與レルカト申マスルト、自作農ニ於テハ七十六錢掛ケマシテ  
僅ニ二圓デアリマス、小作農ニ於テハ三十八錢掛ケマシテ僅ニ一圓デアリマス、地主ニ於テ  
ハ四十三錢掛ケマシテ僅ニ一圓デアリマス、諸君、苟モ農村ノ實情ニ通曉致シマス者ガ、五  
割減ト云フ收穫ニ遭ヒマス時ニ於キマシテハ、是レ致命ナル打撃デアリマスルコトハ、私ガ  
喋々申ス迄モナイノデアリマス、即チ一反歩ニ於テ二石穫レル所ノ地面ニ於テ、一石減少致ス  
ト致シマシタナラバ、ドウデアリマセウカ、ソレヲ金額ニ見積ルト、米價ヲ假ニ一石三十圓ト  
シテモ、其損害ハ三十圓デアアル、三十圓ノ損害ヲ致シマシタ時ニ於テ、自作農ガ七十六錢ヲ掛  
ケテ二圓ヲ貰ッタ、其差額ハ幾ラデアアルカト申シマスナラバ、僅ニ一圓二十四錢デアアル、三十

圓ノ損害ヲ致シマシテ、一圓二十四錢ヲ貰ッテ、是レ救済ニナリマセウカ、小農作ニ於テハド  
ウデアリマセウカ、半減致シマシテ、小作料ヲ半分取ラレテ、残りノ五分デアリマスル時ニ於  
テハ生活ノ脅威デアアル、其根本ナル生活脅威ニ襲ハレマスル場合ニ於テ、小作農ハ一圓貰ッ  
テ、保險金ヲ差引クト僅ニ六十二錢、之ヲ與ヘテ果シテ是レ農村ノ救済ト言ヒマスナラバ、農  
林當局ノ認識不足ト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、此致命ナル缺陷ガ、然ラバ何處カラ發生  
スルカ、私ハ此致命ナル缺陷ト云フモノハ、極メテ是ハ簡單ナル原理ニ基クト思フノデアリ  
マス、即チ政府ガ此農村ヲ救済スルト云フ使命ニ立チマシタ農業保險ニ對シマシテ、其補助金  
ト云フモノハ、今年計上致シマシタモノハ僅ニ二十萬圓デアアル、諸君二十萬圓ト云フ金ヲ全國ノ  
耕地反別六百萬町歩ニ割ルトドウカ、一反歩ニ對シマスル所ノ平均ト云フモノハ僅カ三厘三毛  
デアリマス、農民ヲ救済スルト言ヒマス所ノ農業豫算ト云フモノガ、一反歩ニ對シテ三厘三毛  
デ、能ク農村救済ヲ得ルト云フコト、是亦私ハ農村當局ノ如何ニモ認識不足デヤナイカト思  
フ、來年度カラハ約百萬圓デアルト言ヒマス、百萬圓ト致シマシテモ、之ヲ六百萬町歩ニ割ル  
ト、僅ニ一錢五厘デハナイカ、政府ガ目的ト致シテ居リマスル所ノ二百三十萬町歩ト云フモノ  
ヲ救済スルト云フ點カラ言ヒマス、百萬圓ハ一反歩ニ付テ僅カ四錢五厘デアリマス、諸君、  
今日農村ヲ救済スルト云フ聲、徒ニ高クシテ、其提案サレマシタ法案ノ内容ヲ吾々ガ仔細ニ點  
檢シテ見マス時ニ、此驚クベキ貧弱ナル數字ヲ見マスル時ニ、吾々ハ無條件ニ賛成スルコト  
ハ出來ナイ、私ガ委員會ニ於テ大藏大臣及ビ農林大臣カラ特ニ言明ヲ得タ所ニ依リマス、  
大藏大臣ハ此點ニ付テハ直チニ農業保險ニ關スル所ノ費用ヲ出スト云フコトハ言ヘナイケレドモ、  
農村ノ實情ニ鑑ミマシテ、當然アナタ方ノ意見ニ對シテ考慮ヲシナケレバナラナイカラ、其言外  
ノ意味ヲ諒トセヨト云フ御答辯ガアリマシタノデ、私ハ本日ハ其大藏大臣ノ答辯ヲ善意ニ解釋  
スルコトニ依ッテ賛成セントスル所以デアリマスルカラ、此點ヲ明白ニ致シテ置キタイト思ヒマ  
ス、第二ノ冷害ニ對シマスル所ノ問題ニ付テ、當局ハ過去十七年箇間ノ統計ト云フモノヲ基準  
ト致シマシテ、冷害、雪害ト云フモノニ對シテハ未ダ研究調査ガ出來ナイト言ハレマス、併ナ

ガラ私ハ政府ガ吾々ニ提供致シマシタ此被害統計ト云フモノヲ手ニ致シマシテ、政府ガ唯單ニ調査不十分デアルト云フ點ハ私ニハ承服出來ナカッタデアリマス、政府ノ見ル所ニ依リマスト、昭和九年ニ於キマシテ百三十万町歩ト云フ被害ガ現ハレタコトニ對シテ、農林當局ハ膽ヲ潰シテ居ル、併ナガラ諸君、政府ガ十七箇年間ノ統計ヲ調べマシテ、百万町歩ヲ超エテ居リマスタ云フノハ、僅ニ昭和九年一年デナイカ、私ハ此統計ヲ自分ノ數字ニ依ッテ計算シテ見マスタナラバ、十町歩乃至二十万町歩ノ被害ト云フモノハ、此十七箇年間ニ於テ約十二箇年間デアカ三十五万町歩ノ被害デアリマスカラ、當局ガ一反歩ニ對シテ十圓ノ補助金ヲ出スト云フコトニナリマシテモ、一年ニ三千五百萬圓サヘ計上致シマスナラバ、農業保險ト云フモノハ立派ニ成立ツデハナイカ、農林當局ノ豫算總會其他ノ委員會ニ於テ是認シテ居ルトスルナラバ、農林ノ爲ニ、而モ全國ノ農村問題ト云フモノノ解決ノ極メテ重大部面ノ爲ニ、僅カ三千五百萬圓位ノ金ヲ出シテ農業保險ヲヤルト云フ位ノコトハ、少クトモ此非常時議會ニ於テハ農林當局ハ考ヘテ宜カラウト私ハ斷言スル者デアリマス、私ガ此第二ノ冷害及ビ雪害ニ對シテ根本的調査ヲ爲スベシト云フ所以ハ此處ニ存スルデアリマス、冷害、雪害ト雖モ、政府ガ三千五百萬圓ノ金ヲ犧牲ニスルト云フ觀念ガアリマスナラバ、アノ北海道、東北方面ニ於キマスル所ノ熱烈ナル所ノ委員諸君ノ希望ニ對シテ、農林大臣ハ言下ニ答ヘラレタデアラウト思フ、切ニ私ハ此私ガ希望條件トシテ附シテ居リマス所ノ第二ノ冷害、雪害ニ對スル所ノ根本的調査ヲ爲シテ、農林ノ希望ニ副フヤウニト云フコトヲ希望スルデアリマス、第三ノ問題ニ付テハ、私ガ申上ゲマシタヤウニ、其文章ニ依ッテ明瞭デアリマスカラ、之ヲ茲ニ避ケルノデアリマス、最後ニ一言私ガ申上ゲタイコトハ、斯ノ如キ不備ナル所ノ法案デアルト雖モ、本案ニ對スル所ノ政府ガ相當ナル犧牲ヲ拂フト云フ政府自身ノ肚ガ決マレバ、此法案ト云フモノハモノニナルノデアアル、要ハ農林當局、大藏當局ガ農村問題ニ對スル所ノ熱意如何ト云フ點ニアリ

マスルカラ、私ハ姑ク本日此席上ニ於キマシテ農林大臣ガ言明サレマシタ其言明ヲ信賴スル點ニ於テ賛成スル者デアリマスルガ、若モ不幸ニシテ其言明ヲ裏切ルコトガアリマスラバ、全國ノ農民ノ洵ニ憾ミトスル所デアルト云フ一點ヲ殘シマシテ、私ハ本案ニ對スル所ノ希望意見ヲ述ベテ委員長報告ニ賛成スル次第デアリマス

菊地養之輔君ノ賛成演説

私ハ社會大衆黨ヲ代表致シマシテ本案ニ賛意ヲ表スル者デアリマス、既ニ各派ノ代表ノ諸君ニ依リマシテ詳細ニ論議シ盡サレマシタカラ、私ハ極メテ簡單ニ賛成ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマス、政府ハ曩ニ農業保險制度ハ相互扶助ノ精神ニ立脚シ、農業負債原因ヲ防除シ農村社會不安ノ原因ヲ除去シ、農家經濟ヲ安定セシメ、農業經營ノ合理化ヲ促進セシムルト共ニ、農村經濟更生ヲ遂行スル上ニ於テ、極メテ緊要ナル施設ナリト、本法案ノ其大目的ヲ發表シタデアリマス、我國窮乏ニ喘グ農民大衆ハ大旱ニ雲霓ヲ望ムガ如キ思ヒヲ以テマシテ本案ヲ期待シタデアリマス、然ルニ愈々本案ニ於キマシテ其全貌ヲ現ハスヤ、其大目的ト相距ルコト極メテ遠ク、到底今日ノ農村ヲ救済スルコト能ハザルコトヲ痛感致シマシテ、私共ハ農民大衆ト共ニ泌泌ト幻滅ノ悲哀ヲ感ジタデアリマス、併ナガラ政府ハ之ヲ以テ能事終レリト爲サズ、本法案ハ目的達成ノ第一歩デアアル、將來完璧ヲ期セントスルモノデアルトノ言明ヲ吾々ハ信ジマシテ、是カラ述ベル希望條件ヲ附シマシテ賛意ヲ表スル者デアリマス

希望條件

本法案ハ、生産費中ノ現金支出ト小作料ノ保障ヲ對象トシタル農業共濟制ニシテ、之ヲ以テシテハ窮乏下ノ農村災害ノ救済ノ完全ハ期シ難シ、政府ハ我國農村ノ實情ニ鑑ミ、農家ノ收穫上ノ全損害ヲ保障シ得ルノ完全ナル收穫保險制ヲ確立シ、少クトモ農民生活ノ最低ヲ確保セシメ、戰時下農業生産力ノ擴充ニ資スルノ社會保險的性質ヲ有スル國營綜合農業保險制ヲ速ニ樹立スベシ

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ四月二日法律第六十八號ヲ以テ公布セラル

六七 臨時通貨法案

臨時通貨法

- 第一條 政府ハ必要アルトキハ貨幣法第三條ニ規定スルモノノ外臨時補助貨幣ヲ發行スルコトヲ得
- 第二條 臨時補助貨幣ノ種類ハ十錢、五錢及一錢ノ三種トス
- 第三條 十錢及五錢ノ臨時補助貨幣ハ五圓迄、一錢ノ臨時補助貨幣ハ一圓迄ヲ限り法貨トシテ通用ス
- 第四條 臨時補助貨幣ノ素材、品位、量目及形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 政府ハ必要アルトキハ臨時補助貨幣ノ外五十錢ノ小額紙幣ヲ發行スルコトヲ得

小額紙幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ小額紙幣發行高ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ政府預金ノ内之ト

同額ヲ區分整理セシメ其ノ引換準備ニ充ツベシ

小額紙幣ハ他ノ通貨ヲ以テ之ヲ引換フ

第七條 小額紙幣ノ發行、銷却及引換ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時補助貨幣及小額紙幣ハ支那事變終了ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セズ

六八 關稅定率法中改正法律案

關稅定率法中左ノ通改正ス

第九條第二項中「輸入原料品ニシテ」ノ下ニ「製帽用兔毛、」ヲ加フ  
別表輸入稅表中左ノ如ク改ム

第五百五十號ノニヲ左ノ如ク改ム

五五〇ノ二 金銭登録機、計算機其ノ他類似ノモノ及同部分

品

第六百十二號第一項己ノ四ヲ左ノ如ク改ム

從

價

五

割

己ノ四 モミ屬(トドマツ等)、タウヒ屬

(エヅマツ、スブルース等)、マ

ツ屬(紅松等)及カラマツ屬(落

葉松等)

イ マツ屬(紅松等)

ロ 其ノ他

ロノ一 厚二百ミリメートルヲ超エ

サルモノ

ロノ二 其ノ他(丸太及割材ヲ含ム)

每立方メートル

每立方メートル

每立方メートル

四・四五

二・七〇

無

稅

第六百二十號中「ヴァナヂウム」ヲ「ワナヂウム、鐵」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右六七ハ昭和十三年三月五日、六八ハ同月七日孰レモ本院ニ提出ス同月八日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ太田大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ 臨時通貨法案並ニ關稅定率法中改正法律案提案ノ理由ヲ御說明致シマス、先ヅ臨時通貨法案ニ付テ申上ゲマス、現在十錢ト五錢ノ補助貨幣ハ「ニッケル」ヲ以テ造リ、一錢ノ補助貨幣ハ銅、錫及ビ亞鉛ノ合金デアリマス青銅ヲ以テ造ッテ居ルノデゴザイマス、然ルニ是等ノ金屬資材ノ中ニハ、現下内外ノ時局ニ顧ミマシテ、是ガ使用ヲ節約スルコトヲ要スルモノガアルト認メラレマス、仍テ當分ノ内其製造發行ヲ差控ヘマシテ、我國ニ於テ相當多量ニ生産セラレ、且ツ貨幣材料トシテ適當ナル金屬ヲ以テ、十錢、五錢及ビ一錢ノ臨時補助貨幣ヲ、製造發行スルコトト致シタイト考ヘルノデゴザイマス、次ニ五十錢ノ補助貨幣ハ、最近相當著シキ需要増加ノ傾向ヲ示シテ居リマス、然ルニ今後ニ於ケル趨勢如何ニ依リマシテハ、是ガ代用トシテ五十錢ノ小額紙幣ヲモ發行シ得ル途ヲ開イテ置ク必要ガアルト認メラレルノデアリマス、次ニ關稅定率法中改正法律案ニ付キマシテ御說明申上ゲマス、本案ハ稅率ノ改正ト致シマシテハ、木材等三品目ニ關スルモノデアリマスガ、是等ノ物品ニ付キマシテハ、其生産、輸入及ビ需要供給等ノ狀況ニ顧ミマシテ、木材ノ中ノマツ屬、及ビ鐵ヲ含ム觸媒ハ之ヲ無稅トシ、金銭登録機等ニ付キマシテハ、其關稅率ヲ引上ゲントスルモノデゴザイマス、此稅率改正ノ外、本案ニ於キマシテハ、製帽用兎毛ノ製造ニ供スル兎毛皮ノ關稅ヲ免除スル爲ニ、第九條ニ改正ヲ加ヘントスルモノデゴザイマス、詳細ノコトニ付キマシテハ、委員會ニ於テ御說明ヲ致シタイト存ジマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ御願致シマス

眞鍋儀十君質疑ヲ爲シ太田大藏政務次官應答ス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

一五〇三

眞鍋儀十君ノ質疑

本員ガ疑ニ建議委員會ニ於テ愛國記念貨幣發行ヲ提唱致シマシタ所ガ、政府ハ是ガ考慮ヲ約サレマシタ、更ニ赤字公債委員會ニ於キマシテ、圖案ノ時代の改装ヲ要求致シマシタ所、亦諒承ノ旨ヲ答ヘラレマシタ、茲ニ本法ニ於テ其一部ヲ實行ニ移サレコトニナリマシタガ、此際大ニ二點ニ關シテ政府ノ所見ヲ質シテ置キタイト存ジマス、其第一ハ、今回發行ノ硬軟四種ニ用フル圖案ハ、日本精神ヲ宣揚スルモノト聞イテ居リマスガ、依然トシテ從來ノ如ク同巧異曲ノモノヲ御用ヒニナリマスルモノカ、或ハ一種毎ニ各異タク視野ヨリ之ヲ表現シ、潤ヒアル模様ヲ以テ國民ニ「アッピール」サレントスルモノデアリマスカ、換言スレバ、甲ガ三千年ノ光輝アル歴史ヲ顯現セントスレバ、乙ハ一君萬民ノ皇室中心主義ヲ高調シ、丙ガ國民精神ノ緊張ヲ意味スルナラバ、丁ハ大亞細亞建設ノ理想ヲ示唆スルナド、清新撥刺ノ氣分ヲ圖案ニ織込マウトスル御意思ガアルヤ否ヤ、第二ハ新製ノモノハ紀元年號ヲ併記スルコトニナッテ居ルカドウカ、世界何レノ國モ時ノ君主ノ即位年號ト、其國ノ建國ノ年號トハ併記サレテ居ルモノデアリマス、國ヲ肇メテ二千六百年、萬邦無比ノ皇紀ヲ有スル日本ノ貨幣ニ、紀元年號ヲ併記シテ居ラナイノハ、國體明徴ノ點ヨリスルモ頗ル遺憾ナコトト存ジマス、特ニ「オリムピック」萬國博等、實際的飛躍ノ現下ニ於テ、最モ是ガ必要ヲ痛感スルノデアリマスガ、此點如何デアリマスカ、右二點ニ關シテ政府ノ御所見ヲ此際何ッテ置キタイト存ジマス、若シ御答辯ガ困難デアレバ、大臣ト御打合せノ上適當ナ機會ニ御答辯アラシコトヲ切望致シマス

太田大藏政務次官ノ應答

新貨幣ノ圖案ニ付キマシテ、御注意深イ御忠告、御意見ヲ承リマシタ、而シテ一種類ニスルカ、如何ナル圖案ヲ以テスルカト云フコトハ、眞鍋君ノ御趣意ヲ能ク酌ンデ行キタイト思ヒマス、御案内ノ通り今圖案ヲ募集シテ居リマスルノデ、其審査ノ際ニモ御意見ノ程ヲ能ク酌ンデ行キタイ、併シ之ヲ一種類ニスルカ、或ハ如何ナル圖案ニスルカト云フコトハ、今此處デ御返事申

上ゲルコトハ出來マセヌ、第二點ノ紀元年號ヲ併記スルコトハ、最モ理由ノアル御考ト存ジマス、併シ如何ニモ小サイ所ヘ澤山ノ數字ヲ入レルト云フ技術ノ關係モゴザイマスノデ、御趣意ノ點ニ副フヤウニ其際考ヘテ行キタイト思フノデゴザイマス

次テ兩案ハ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌九日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長駒井重次君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

臨時通貨法案並ニ關稅定率法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ノ大要ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ臨時通貨法案ニ付テ申上ゲマス、本法案ハ現下ノ時局ニ鑑ミマシテ、輸入品タル「ニッケル」錫、或ハ銀ノ節約ヲ致スト共ニ、一方ニ於キマシテハ小額補助貨幣ノ需要増加ニ對應致シマスルガ爲ニ、國內ニ相當多額ニ產出セラル、所ノ素材ヲ以テ、十錢、五錢及ビ一錢ノ補助貨幣ヲ製造發行セントスルモノデアリマス、又五十錢ノ小額紙幣ヲ發行致サントスル趣旨デアルノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、三月十一日及ビ十二日ノ兩日ニ互リマシテ、各委員ヨリ熱心ナル質疑ガアリ、政府モ亦詳細ナル答辯ガゴザイマシタ、其主ナルモノニ付テ御報告ヲ申上ゲマスレバ、其一ツハ、政府ハ如何ナル素材ヲ以テ、又如何ナル量目、形式ヲ以テ、臨時補助貨幣ヲ製造發行スル方針デアアルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シマシテ政府當局ハ、素材ニ付テハ時局ノ推移ニ應ジ、物資ノ需給ノ狀況ヲ究メ、最モ適當トスルモノヲ採用スル方針デアアルケレドモ、差當リ十錢及ビ五錢ノ臨時補助貨幣ニ付キマシテハ、「アルミニウム」ト銅

トノ合金ヲ以テ、一錢ノ臨時補助貨幣ニ付テハ、銅ト亜鉛トノ合金ヲ以テ之ニ充テルモノダト云フ答辯デアリマシタ、又其量目及ビ形式ニ付キマシテハ、流用上ノ便宜上、從來現行ノモノト餘リ變リナイ量目、形式ノモノヲ製造スル方針デアルト云フ答辯デアリマシタ、其質問ノ二ハ、大正六年カラ大正十二年ニ互ッテ發行セラレマシタ所ノ五十錢、二十錢、十錢ノ小額紙幣ト云フモノハ、非常ニ紙質ガ悪カッタ、其爲ニ流通中ニ汚損シ、或ハ衛生上甚ダ芳バシクナイヤウナ状態デアッタノデアルガ、今回發行シヨウトスル五十錢紙幣ハ、此點ニ鑑ミテ出來ル限リ良質ノモノトシテ欲シイノデアルケレドモ、政府ノ方針ハドウデアラウカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府當局ハ、今回發行スル五十錢紙幣ハ、從來ノ如ク十錢、二十錢ノモノヲ止メマシテ、五十錢一種トシタト云フコトハ、此流通上ノ點ヲ考慮シタノデアッテ、又五十錢ノ小額紙幣ニ使フ所ノ紙質ト云フモノハ、從來ノモノヨリモ良質ノモノヲ用ヒル積リデアルト云フ答辯デアリマシタ、其三ハ、今回發行セラレマスル所ノ補助貨幣及ビ小額紙幣ノ模様圖案ニ付テハ、現下ノ状態ニ鑑ミテ、國體ノ精華ヲ發揚スルヤウナ圖案ヲ採用シテ欲シイト思フケレドモ、此點ニ關スル政府ノ所見ハドウダト云フ御尋デアッタノデアリマス、之ニ對シマシテモ政府當局ハ、臨時補助貨幣ニ付テハ、既ニ三月八日ノ官報デ圖案ノ募集ヲシテ居ル、其圖案ノ募集ノ條件ノ中ニ、日本精神ヲ宣揚スルモノタルベキコトト云フ條件ヲ入レテ居ル位デアルノダ、御趣旨ニ副フヤウナ方針デアル旨ヲ答辯セラレタノデアリマス、尙ホ此外ニ臨時通貨ノ發行見込高、發行ノ期限、現行補助貨幣ノ引上ゲ見込等ニ付キマシテモ、熱心ナル質疑ガゴザイマシタ、之ニ對シテ政府當局ヨリソレレ、答辯ガアッタノデアリマス、其詳細ハ速記録ニ依ッテ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス、次ニ關稅定率法中改正法律案ニ付キマシテハ、政府ヨリ提案ノ理由ニ關シ説明ガアリマシタ後ニ、三月十四日及ビ本日ノ兩日ニ互リマシテ、政府委員ト委員諸君トノ間ニ、熱心ナル質疑應答ガ續ケラレタノデアリマス、其詳細ハ速記録ニ依ッテ御覽ヲ願ヒタイト存ジマス、此改正案ハ主トシテ滿洲國ニ産スル所ノ紅松等ノ輸入稅ヲ免除シヨウト云フ趣旨デアリマス、此點ハ第七十一議會ニ於テ、本院ノ希望決議トシテ提案セ

ラレタモノデアリ、其希望決議ノ趣旨ニ副ッテ此提案トナッタ次第デアアルノデアリマス、其他ノ改正ノ點モ大體極メテ簡單ナルモノデアッタト存ジマス、大體質疑ノ狀況ハ只今御報告申上ゲタ通りデアリマシテ、本日此兩案ニ付キ討論ニ入りマシタ、民政黨ヨリハ福田關次郎君、政友會ヨリハ大本貞太郎君、第一議員俱樂部ヨリハ高岡大輔君ガ意見ヲ開陳セラレマシテ、何レモ原案ニ付テ賛成ノ旨ヲ述べラレタノデアリマス、其後直チニ採決ニ入りマシテ、滿場一致此兩案ハ可決致サレマシタ、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ六七ハ六月一日法律第八十六號、六八ハ四月一日法律第六十三號ヲ以テ公布セラル

六九 飼料配給統制法案

飼料配給統制法

第一條 政府ハ飼料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ適當ト認ムル者ニ對シ飼料ノ配給統制上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ事業ヲ行フ者ノ監督其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 政府ハ飼料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲前條第一項ノ規定ニ依ル配給統制ニ關シ特ニ必要アリト認ムルトキハ同條ニ定ムルモノノ外飼料若ハ勅令ヲ以テ定ムル飼料ニ用ヒ得ル物ノ輸出入又ハ飼料ノ販賣若ハ使用ニ關シ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

第三條 政府必要アリト認ムルトキハ飼料又ハ勅令ヲ以テ定ムル飼料ニ用ヒ得ル物ノ製造、取引、保管又ハ運送ヲ業トスル者ニ對シ前二條ノ勅令ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第一項ノ規定ニ依ル勅令ニ違反シタル者

二 第二條ノ規定ニ依ル勅令ニ違反シタル者

第五條 第三條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 飼料又ハ飼料ニ用ヒ得ル物ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル勅令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法又ハ本法ニ基キテ爲ス處分ニ違反スル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

右ハ昭和十三年三月七日本院ニ提出ス同月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ高橋農林政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナッテ居リマス飼料配給統制法案ニ付テ御説明申上ゲタイト存ジマス、我國ノ畜産ハ近年顯著ナ發達ヲ遂ゲマシテ、畜産物ノ國內需要ハ急激ニ増加シテ居ルノデアリマスガ、畜産ノ基礎タル飼料ノ供給ニ付テハ、藁稈類其他ノ粗飼料ハ、其資源ハ比較的豊富デアリマシテ、大體國內自給ガ出來ルノデアリマスガ、玉蜀黍、高粱等ノ濃厚飼料ニ付キマシテハ、國內自給ガ出來ズ、年々多額ノ輸入ヲ致シテ居ル實情デアリマシテ、尙ホ逐年増加ノ傾向ヲ示シテ居



ルノデアリマス、即チ從來ハ主トシテ蘭領印度、南米、支那、滿洲國等ヨリ輸入致シテ居タノデアリマスガ、輸入飼料ノ供給確保ニ付テ、此際適切ナル對策ヲ樹テマスコトハ、是非トモ必要デアルノデアリマシテ、此事ハ我國畜産ノ基礎ヲ確保シ、農村經濟ノ安定ヲ圖ル爲ニモ、亦飼料業ノ健全ヲ發展ヲ期シマスル上ニモ、最モ緊要ナコトト考フルノデアリマス、隨テ政府ハ現下ノ飼料事情ニ鑑ミ、差當リ飼料中最モ重要デアアル玉蜀黍、高粱、及ビ是等ヲ原料トスル配合飼料ニ付キマシテ、必要ナ數量ヲ確保スル爲メ、日滿經濟一體ノ方針ニ則リ、其資源ヲ日滿兩國内ニ於テ自給スル方策ヲ樹テ、之ヲ目標トシテ滿洲國ノ産業開發計畫ニ對應シツ、内地ノ需給統制ヲ行ヒ、以テ飼料ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正トヲ圖ルコトトシ、其方法トシテ民間ノ適當ナ機關ヲ指定シテ、之ニ配給統制ニ關スル施設ヲ行ハシメ、政府ハ此機關ヲ適當ニ監督シテ行クコトト致シタノデアリマス、右ノ外本法案ニ於キマシテハ、飼料ノ配給統制ノ完璧ヲ期スル爲メ、飼料ニ關スル事情ノ變化ニ對應シテ、必要ニ應ジ政府ニ於テ適宜ノ措置ヲ講ジ得ルヤウ必要ナル條項ヲ置キマシテ、飼料政策上遺憾ノナイヤウニ致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ本法ノ運用ニ當リマシテハ、飼料業ノ實情ヲ十分考慮シ、民間當業者ノ協力ニ依リマシテ、所期ノ目的ヲ達成スルヤウニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、以上ハ本法案提出理由ノ概要デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラシテコトヲ希望致シマス

野溝勝君質疑ヲ爲シ高橋農林政務次官應答ス

野溝勝君ノ質疑

馬、鶏、豚、羊ニ關係シタヤウナ法案デアリマスカラ、自席デヤリタイト思ヒマシタケレドモ、一應登壇シテ質問シテ見タイト思ヒマス、先ヅ最切ニ御伺シテ置キタイコトハ、日滿支中心ト致シマシテ、蘭領或ハ其他ノ國々トノ關係ニ於ケル飼料配給ノ統制ヲスル法案デアリマス、ソレ程ノ重要法案デアルモノガ、法七條ニ依テ解決サレヨウトスルコトハ、如何ニ言ッテ

モ杜撰ノヤウナ嫌ヒガアリハシナイカト思ヒマス、特ニ法七條ノ中、法三條ガ主文デアリマシテ、アトノ法四條ハ皆罰則ニナツテ居ルノデアリマス、斯ル法案ハ立憲治下ニ於ケル法案ト致シマシテハ、實ニ「フアッシュ」的ナモノデアリマシテ、餘リ褒メタコトデナイト云フコトニ、吾々ハ感ジテ居ルノデアリマス、當局ハ此法案ヲ輕ク視テ出シタノカ、或ハ重要法案トシ、時局下ニ於ケル最モ非常立法ノ必要ヲ感ジテ出シタノカ、先ヅ最初ニソレヲ御伺シタイノデアリマス、續イテ今回提案サレマシタ此飼料配給統制法案デアリマスガ、事變下ノ農村對策及ビ國民體位ノ向上ヲ保持スル目的ヲ以テマシテ、立案サレタノデアリマセウケレドモ、現下ノ我國ノ農村ノ革新政策ト致シマスルナラバ、專口是ヨリ先ニヤラナケレバナラヌ數多ノ農村對策、或ハ立法ノ確立ノ必要ナモノガアルノデアリマス、例ヘバ有畜農業デアルトカ——或ハ有畜農業トノ關係ニ於ケル國民體位ノ向上ニ關係ヲ持ツ法案デアルトカ、サウ云フヤウナ點ニ對シテ、即刻必要ナ立案ガマダ幾多殘サレテ居ルト思フノデアリマス、特ニ政府ニ於キマシテハ、有畜農業政策ト致シマシテ、馬産ノ獎勵デアルトカ、或ハ綿羊ノ増産計畫デアルトカト云フヤウナ點ニ於キマシテハ、相當努力モサレテ居ルヤウニ見受ケルノデアリマスケレドモ、ソレガ成文化シテ居ラズ、爲ニ未熟ナ、未完成ナモノデアルト私ハ思フノデアリマス、農業生産力ノ維持増進ヲ圖ラントスルナラバ、ドウシテモ有畜農業ノ計畫化ト、ソレガ促進ニアルコトハ論ヲ俟タナイト思ヒマス、特ニ我國ニ於ケル所ノ農家總戸數五百五十九万七千戸、其中家畜ヲ飼養シテ居ル所ノ戸數ハ、牛ニ於キマシテハ百二十七万八千戸、馬ニ於キマシテハ百七十四千戸、豚ニ於キマシテハ六十万戸、綿羊ニ於キマシテハ二万一千戸、山羊ニ於キマシテハ十四万八千戸、此計ガ三百二十二万二千戸トナツテ居ル譯デアリマス、總戸數五百五十九万戸トノ關係ニ於キマシテ見ル時ニハ、マダ家畜ノ戸數ガ五割七分シカナイノデアリマス、之ヲ更ニ牛馬飼養ノ戸數カラ見ルナラバ、二百四十五万二千戸デアリマシテ、總農家ノ戸數ノ約四割シカニ當ラナイノデアリマス、茲ニ我國耕種農業ノ缺陷ガアルト思ヒマス、然ルニ事變發生以來、馬匹ノ徵發ニ依リ畜力ノ不足ヲ感ジマシテ、化學肥料ハ御存ジノ通り今日ノ資本主義機構ノ下ニ

於キニシテハ、一切ノ生産機構ト云フモノハ、零碎農民トノ間ニ非常ナ矛盾ヲ來シテ居ルノデアリマス、サウ云フ點デ此化學肥料ノ軍需生産ヘノ轉化ガ、勢ヒ金肥ノ昂騰ヲ來シテ居ル次第デアリマス、是ガ對策ト致シマシテ畜力ノ増大ト、ソレニ伴フ所ノ自給經濟ノ増殖ヲ私ハ絕對ニ必要ト信ズルノデアリマス、ソレニハ有畜農業ノ積極的計畫ヲ必要トスルノミナラズ、國民體位ノ低下ニ備フル爲ニ、國民ニ畜産原料ノ營養食ヲ廉價供給シ、或ハ畜産原料トスル所ノ衣服材料ヲ、豐富低廉價ニ供給スルコトガ、今日ノ場合必要デアルト感ズル次第デアリマス、御承知ノ通り我國一町内外ノ農家ノ平均收入ヲ見マスト、九百五十四圓トナッテ居リマス、其中約五割ハ殆ド食費ニ充テラレテ居ル譯デアリマス、此點カラ見マシテモ、現下百姓ニハ此養食ノ補給ト云フコトガ、最モ事變下ニ於ケル考ヘナケレバナラヌ重大問題デアルト心得テ居ル次第デアリマス、長期戦下ノ國策上、此點絕對ニ私ハ必要ヲ痛感スルモノデアリマス、斯ル點ヲ解決スルニハ、ドウシテモ立地農業計畫ノ線ニ沿フ計畫ヲ立テルコトガ必要デアルト思フノデアリマス、例ヘバ獨逸邊リニ於キマシテハ養豚村、或ハ塊地利邊リニ於キマシテハ綿羊組合村、或ハ丁抹等ニ於キマシテハ養鶏村等ノ、所謂立地農業ノ計畫線ガ計畫サレテ居ルノデアリマス、以上ノ觀點ヨリ致シマシテ、事變下ニ於ケル飼料對策ト致シマシテハ、立地農業ニ依ル所ノ計畫ヲ立テル以外ニハ、此飼料計畫ト云フモノハ、ドウモ完全性ヲ帯ビナイヤウニ思ヒマスケレドモ、政府ノ所見ハ如何デアリマスカ、第二點ハ本法案ヲ檢討スル時ニ、此當面ノ目的ガ肥料ノ需要供給ノ圓滑、且ツ公正ヲ圖ル點ニ置カレテ居ルト云フコトヲ政府ハ言ハレテ居リマス、併シ政府ハ如何ナル機關ヲ以テ右ノ目的ヲ達セントスルモノデアルカ、聞ク所ニ依リマスルト云フト、此目的ヲ達セシムル爲ニ特殊會社ヲ設ケラレマシテ、其特殊會社ニ依ッテ配給統制、或ハ之ニ對スル所ノ一切ノ支配權ヲ與ヘルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、特殊會社ニ支配權ヲ與ヘル、斯ウ云フ點ハ過去ニモ、肥料價格ノ統制法案ガ出タ時ニモ、吾々ハ此法案ニ依リマシテ、肥料ノ廉價供給ガ行ハレルデハナイカト云フ風ニ感ジテ居タ時代モアリマシタ、然ルニ其法案ガ實施以來ト云フモノハ、却テ確安ヲ初トシ過燐酸石灰等々ノ肥料ノ價

上リヲ來シタノデアリマス、此點カラ見マシテモ、今回ノ飼料配給統制法案ガ、特殊會社ニ依ッテ其支配權ヲ壟斷サレル以上、前轍ノ肥料統制法案ノ結果ヲ又踏ミハシナイカト云フコトヲ案ズル者デアリマス、政府ハ一體如何ナル點ニ價格ノ公正ノ基準ヲ置イテ居ルカ、其點ヲ御説明願ヒタイト思ヒマス、最後ニ御聽シタイコトガアリマス、法案其モノノ持ッ重大性ノ意義ト云フモノハ、能ク吾々ニ分ルノデアリマス、併シ此重大性ヲ持ッ法案ガ、法七條ニ依ッテ之ヲ解決サレントスル御考、竝ニ此法案ノ年限ヲ僅カ五箇年ニ仕切タト云フ點ガ、吾々ニハ了解ニ苦シムノデアリマス、政府ノ話ニ依リマスト、滿洲國產業五箇年計畫トノ關係ニ於テ立案サレタト云フコトヲ言ハレテ居リマスケレドモ、ソレナラバ日滿ダケノ飼料配給統制法案デ宜イト思ヒマス、「アルゼンチン」蘭領等ヲ入レタ各國トノ關係ニ於ケル本法案ガ、飼料配給統制法案デアルトスルナラバ、五箇年間ノ期限ヲ畫シタト云フ所ノ意圖ハ、最モ矛盾シテ居ルト思フガ、此點ニ對スル政府ノ所見如何、以上御伺致シマシテ、私ノ質問ヲ終リマス

高橋農林政務次官ノ應答

野溝君ノ御質問ニ簡單ニ御答申上ゲマス、本法案ハ大綱ノミ定メテ居ルガ、不都合デハナイカト云フ御質問ガ第一點デアリマス、御承知ノ通り此法案ハ統制ヲ目的トシタモノデアリマシテ、要ハ此法ノ運用ニ依リマシテ、敏速ニ處置致シマシテ、農家ニ對シマシテ需給ノ圓滑ヲ圖リ、公正ナル價格ヲ以テ供給サセルト云フノデアリマスカラ、大綱ノミヲ定メマシテ、其敏速ヲ圖ッテアリマス、勿論此法ヲ運用スルニ當リマシテハ、關係各省トノ連絡ヲ密ニシ、併セテ民間ノ業者等ノ意見ヲ相當尊重シテ進行スル考デアリマス、尙ホ餘リニ簡單デアルカラ、此法案ヲ重要視シナイノデハナイカト云フ御説デアリマスガ、此第一條、第二條ニアリマシヤウニ、此飼料ノ解決ハ現下ノ農家ニ取リマシテハ、重大ナル對策デアリマスガ故ニ、最モ重要ナル立法ト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ又有畜農業ガ現下ノ我國ノ農村ノ實情ニ照シテ、最モ必要ナコトデハナイカト云フノハ、御説ノ通りデゴザイマス、有畜農業ガ農業經營ノ

基礎デアリ、現下ノ農村ノ實情カラ見マシテ、自給肥料ノ供給策竝ニ農民營養ノ點カラ見マシテ、必要ナコトハ御説ノ通りデアリマス、是等ノ諸點ヲ綜合致シマシテ、有畜農業ト云フモノヲ普及發達サセマスル爲ニハ、十分ナル指導獎勵ヲ行ヒマシテ、十分ナル目的ヲ達スルヤウニ致シタイト思フテ居ル次第デアリマス、其次ニ價格ノ點ニ於テ、統制會社ヲ作ッテ、却テ價格ヲ高カラシメハシナイダラウカト云フ御説デアリマスガ、飼料ノ供給關係ヲ圓滑ナラシメテ、十分ニ豐富ナル飼料ヲ供給スルト云フコトニナリマスレバ、ソレニ依ッテ自然ニ價格ハ公正ニナルノダト思フデアリマス、即チ飼料ガ不足ヲ告ゲマスレバ、ソレニ依ッテ自然ニ價格ハ公正ニナルレバ、相當ニ不當ナ價格ニ吊上ゲラレルト云フ虞ガアルノデアリマスガ、供給ガ潤澤ニナリマスヲ限ッテ、自然ニ價格ハ公正ニナルモノト信ジテ居ルノデアリマス、尙ホ最後ニ、五箇年ト此法案ヲ限ッテハ、ドウ云フ譯カト云フ御尋デアリマスルガ、御説ノ中ニアリマシタヤウニ、滿洲ニ於キマシテノ産業五箇年計畫ニ順應致シマシテ、飼料ノ大部分ヲ滿洲カラ供給ヲ受ケヨウト云フノガ、大體此法案ノ骨子デアリマスガ、勿論滿洲ヨリ供給シ得ラナイモノハ、第三國カラモ輸入スルノデアリマシテ、決シテ滿洲ノミニ限ッテ、此統制ヲ行ハウトスルモノデハナイノデアリマス

次テ本案ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長寺田市正君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレマシタ飼料配給統制法ノ委員會ニ於キマスル經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、飼料配給統制法案ノ委員會ハ、三月十一日、十四日、十五日、十六日ノ四日間ニ互リマシテ、慎重審議ヲ致シタノデゴザイマスガ、本案ハ御承知ノ通り畜産資源ガ、國民生活上及ビ軍需上位ヲ占ムルニ至リマシタノデ、最近ノ飼料供給關係竝ニ日滿兩國ノ特殊關係等ニ稽ヘマシテ、從來主トシテ第三國カラ輸入シテ居リマシタ飼料ヲ、出來ル限リ友邦滿洲國ヨリ輸入スルコトヲ主眼ト致シマシテ、是ガ需給ノ圓滑ト價格ノ公正ヲ圖ル爲メ、適當ナル統制機關ヲ設ケルト云フ點ガ本案ノ眼目デアアルノデゴザイマス、其方法トシマシテハ、民間ノ適當ナ機關ヲ政府ガ指定致シマシテ、之ニ差當リ玉蜀黍、高粱、及ビ是等ヲ原料トスル配合飼料ノ配給統制ヲ行ハセマシテ、政府ガ此機關ヲ適當ニ監督シテ參ルノデアリマス、更ニ飼料配給統制ノ完璧ヲ期シマスル爲メ、飼料需要ノ變化ニ即應致シマシテ、政府ガ飼料及ビ其原料品ノ輸出入、又ハ飼料ノ販賣若クハ使用ニ關シマシテ、必要ナル命令ヲ爲シ得ルコトト、配給統制ニ關シマシテ、必要ナル場合ニ於テ政府ハ報告ヲ徵シ、検査ヲ爲シ得ル權限ヲ有シ得ルコトトシテ居ルノデアリマス、尙ホ本案ハ施行後五箇年間ヲ限ッテ有效トナッテ居ルノデアリマスガ、是ハ滿洲國ノ産業間發計畫ガ現ニ進捗中デアリマシテ、之ニ今次事變關係カラ生ジタ特殊ノ事情モアリマスノデ、一應現下ノ飼料事情ヲ基礎トシテ對策ヲ立テタト云フノガ、當局ノ說明デアッタノデアリマス、本委員會ヨリ熱心ナル質疑ガアリマシタガ、先ヅ松田、小笠原、庄司、平野、森、杉山、岡田、中原、遠山、西川、長野、土田氏等ノ各委員諸君ヨリ、熱誠且ツ適切ナ質疑ヲ致サレマシテ、之ニ對シマシテ政府當局ヨリ、詳細且ツ懇切ナ答辯ガアツタノデアリマス、今其質問應答ノ概要ヲ、極メテ簡潔ニ御報告申上ゲテ置キマスガ、先ヅ第一ニ、本案ノ目的トスル所ハ飼料供給ノ圓滑ニアルカ、ソレトモ價格ノ公正ニアルカ、又目的ニ於テ國家總動員法トハ關係ハナイカトノ質問ニ對シマシテ、政府ノ答辯ハ、本法ハ先ヅ飼料ノ供給ノ確保ヲ圖ル爲メ輸入ノ統制ヲ行ヒ、其他必要ニ應ジ命令ヲ發シ得ルコトトシテ、以テ飼料ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正トニ

查セントスルノデアルト云フコトデアリマシタ、又本法ハ國家總動員法トハ何等關係ハナイ、戰時事變ニ際シテ必要ナルバカリデナク、平生常ニ必要ナル産業安定ノ目的ヲ以テ作ラレタモノデアルト云フコトデアリマシタ、次ニ本法ノ目的トスル統制ノ範圍ニ付キマシテ、飼料業ヲ免許制ニスル積リデアルカ、統制スルノハ滿洲産飼料ノ輸入ノミデアルカ、輸入飼料ノ配給ハドウ云フ風ニスルカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、政府ノ答辯ハ、目下ノ飼料業ヲ免許制ニスル意思ハナイ、統制ヲ行フノハ單ニ滿洲國飼料ノミデアルカ、輸入飼料全部ニ付テデアアル、今後ハ其大部分ガ滿洲國ヨリ輸入サレルコトニナルダラウト云フコトデアリマシタ、輸入サレマシタ飼料ノ國內配給ハ、差當リ從來通りノ組織デ以テヤツテ行キタイト云フコトデアッタノデアリマス、其次ニ統制機關ニ關シマシテハ、統制機關ハ如何ナル性質ノモノデアルカ、又其組織機構ハ如何ナルモノカ、是カラ新ラシク統制機關ガ出來ルノデアルトスルナラバ、若シ是ガ出來ナカッタ場合ハドウカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、政府ノ答辯ハ、政府ガ適當ト認メテ配給統制ヲ行フコトヲ命ズルモノハ株式會社デアアル、其株主ノ主ナルモノハ從來ノ輸入業者、製造業者、配給業者ノ大手筋ト、全購聯デアアルト云フコトデアリマシタ、又此株式會社ハ、業者ガ現在及ビ將來ノ飼料需要ニ鑑ミマシテ、自發的ニ作ラウトシテ居ルノデアリマスカラ、政府トシテハ圓滿ニ是ガ設立サレルト云フコトヲ豫想シテ居ルト云フコトデアリマスカラ、政府ノ統制機關ニハ何か特典ヲ與ヘル方針デアアルカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ統制會社ガ獨占的且ツ公益的事業ヲ行フニ鑑ミマシテ、會社ノ自主的ニ選ビマシタ者ヲシテ、政府ノ認可ヲ受ケシムルコトト致シ、配當モ適當ニ制限シテ、其監督ハ嚴重ニ之ヲ行ヒ、違算ナキヲ期スルト云フコトデアリマシタ、サウシテ此會社ニ對シテノ特典ニ付キマシテハ、目下ノ所之ヲ考ヘテ居ラヌト云フコトデアリマスカラ、其次ニ飼料ノ價格ニ關シマシテハ、本法ニ依ル統制ノ結果、飼料ノ價格ハ高クナルノデハナイカ、其將來ノ見透シハドウカ、又統制會社ガ飼料ヲ獨占スルコトニ依ッテ暴利ヲ貪ル虞ハナイカ、統制機關ノ飼料販賣價格ハ公定スルカ、更ニ小賣價格

ヲモ公定スルカトノ質問ニ對シマシテ、政府ヨリハ、飼料ノ價格モ一般物價ノ趨勢ニ伴ヒマシテ影響ヲ受ケルカラ、一概ニ言フコトハ出來マセヌガ、供給不足ノ折柄、本法ニ依ル統制ハ賣惜、買占、又ハ買煽リ等ヲ抑制致シマスノデ、飼料價格ノ安定ハ期待シ得ルノデアッテ、會社ノ仕入價格及ビ販賣價格ノ利益金ノ處分、其他嚴重ナル監督ト相俟ッテ、將來統制ヲ行ハザル場合ヨリモ遙ニ價格ノ低廉ヲ期シ得ルモノト確信スルト云フ答辯デアリマシタ、又價格ノ公定ニ付キマシテハ、統制會社ノ販賣價格ハ一定ノ時期ニ於キマシテ一定セシムルモノ、小賣價格ハ差當リ統制セズ、將來統制ヲ必要トスル事態ニ至ッタ場合ハ、本法ノ第二條ノ運用ニ依ッテ、之ニ對シテ適當ノ處置ヲ執ルト云フコトデアリマシタ、其次ニ數量ニ關シマシテ、滿洲國カラ豫想數量ガ輸入シ得ルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、從來ハ滿洲國ヨリノ輸入ガ少カッタケレドモ、今後ハ滿洲國側ノ各種ノ施設ト相俟チマシテ、本法ニ依ッテ大體豫定數量ヲ輸入シ得ル見込デアアル、尤モ本年度等ニ付キマシテハ十分輸入ガ出來マセヌカラ、其不足ノ分ハ南洋、南米等ヨリ輸入スル方針デアアルト云フ答辯デアリマシタ、其次ニ滿洲國側ノ機關ハドウナシカト云フコトニ付キマシテハ、滿洲國ニ於キマシテモ、大體内地ト同様ノ統制會社ガ出來マシテ、農事合作社等ニ依ル蒐集ニ依ッテ、是等ノ飼料ヲ集メルモノデアリマスカラ、彼我ノ統制會社ガ一手ニ取引スルト云フコトニナル見込デアアルト云フコトデアリマシタ、最後ニ本法ノ有效期間ノ問題デアリマスカラ、政府ノ答辯ニ依リマスカラ、五箇年間トシタノハ、滿洲國ノ産業開發計畫トノ關係モアリマスカラ、又現下ノ飼料事情ガ事變關係ニ因ル特殊ノ影響モアル爲メ、一應現下ノ事態ヲ基礎トシテ立法ヲ爲シタノデアッテ、五年後ニ於テハ更ニ適當ナル方法ヲ考ヘルト云フコトデアリマシタ、向ホ以上ニ關聯シマシテ畜産政策ノ根本方針、或ハ代用飼料ノ試験研究、殊ニ此林産種實ノ飼料化ノ研究、或ハ飼料ノ國內増産、配合飼料ノ對策等ニ付キマシテ種々御質問ガアリ、御答辯ガアリマシタガ、其他重大ナル質問應答ニ付キマシテハ、詳細ノ點ハ速記録ニ於テ御承知置キテ置キマス、質疑ガ終局致シマシテ、本日討論ニ入ッタノデアリマスカラ、先ヅ民政黨ノ岡田喜久治君、政友會ノ西川貞一君、第一議員俱樂部

ノ陣軍吉君、社會大衆黨ノ杉山元治郎君等ヨリ、何レモ原案賛成ノ御主張ガゴザイマシテ、採  
決ノ結果ハ、全員一致デ以テ原案ヲ可決致シマシタ次第デゴザイマス、此段御報告ヲ申上ゲマ  
ス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告  
ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十三日可決奏上シ同月三十日法律第三十九號ヲ以テ  
公布セラル

七〇 工作機械製造事業法案

工作機械製造事業法

第一條 本法ハ國防ノ整備及産業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル工作機械製造事業ノ確立ヲ圖  
ルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ工作機械製造事業ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル工作機械ノ製造ヲ爲ス事業  
ヲ謂フ

第三條 工作機械製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ設備ガ命令ノ定

ムル規模ニ達セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式会社ニシテ其ノ  
株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國  
法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議  
決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ  
第五條 第三條ノ許可ヲ受ケタル會社(工作機械製造會社)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業  
ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

工作機械製造會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第三條ノ許可ハ其ノ效力ヲ  
失フ

第六條 工作機械製造會社其ノ設備ヲ増設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ  
政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條 工作機械製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム工作機械製造事業ニ付所得税及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ工作機械製造會社其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ工作機械製造事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得税及營業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益稅ヲ免除セラレタル工作機械製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依ル所得税及營業收益稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十條 工作機械製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シ其ノ設備ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ償却

ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ償却濟額ガ其ノ設備完成ノ日ノ屬スル營業年度ノ翌營業年度ヨリ起算シ一年ヲ營業年度トスルモノニ在リテハ第五營業年度末、六月ヲ營業年度トスルモノニ、在リテハ第十營業年度末ニ於テ當該設備ノ價額ノ六割ニ達セザルトキハ政府ハ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ

前項ニ規定スル最終營業年度ノ翌營業年度以降每營業年度ニ於テ當該設備ヲ以テ營ム工作機械製造事業ヨリ生ズル利益金額ガ勅令ヲ以テ定ムル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第十一條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ規定ニ依ル補給金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十二條 工作機械製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十三條 工作機械製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十四條 工作機械製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 工作機械製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ  
工作機械製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條 第十條第一項ノ規定ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケタル工作機械製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ  
政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 第十條第一項ノ規定ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケタル工作機械製造會社ハ同項ニ規定スル最終營業年度迄每營業年度ニ於ケル利益金ノ處分ニ付政府ノ認可ヲ受クベシ

第十條第一項ノ規定ニ依リ補給金ノ交付ヲ受ケタル工作機械製造會社ハ同條第二項ノ規定ニ依リ補給金ノ償還ヲ終了スル營業年度迄每營業年度ニ於ケル利益金ノ處分ニ付亦前項ニ同ジ

第十八條 政府ハ工作機械製造會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得  
政府ハ工作機械製造會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工作機械製造會社ノ事務所、營業場、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十九條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ工作機械ノ販賣價格若ハ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ工作機械ノ需要供給ヲ調節スル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得  
政府公益上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ特殊工作機械ノ製造、

工作機械ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 第十九條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ニ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル工作機械ノ試作ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第二十三條 工作機械ノ輸入ガ工作機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ工作機械ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條 工作機械ノ輸入ニ因リ其ノ市價ノ低落ヲ來シ工作機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間ヲ定メ工作機械ニ對シ關稅定率別表輸入稅表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入稅ヲ課スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ工作機械製造會社ヲ除クノ外工作機械又ハ工作機械部分品ノ製造ヲ爲ス者

ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ業務又ハ設備ノ狀況ニ關シ必要ナル事項ヲ届出デシムルコトヲ得

第二十六條 政府第三條ノ許可、第六條ノ許可(命令ノ定ムル規模以上ノ設備ニ關スルモノニ限ル)、第十九條ノ命令、第二十一條ノ補償金額ノ決定又ハ第二十三條ノ制限ヲ爲サントスルトキハ工作機械製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ

工作機械製造事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 工作機械製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ、取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲シ又ハ之ニ對シ第十條ノ規定ニ依ル補給金ノ全部若ハ一部ヲ交付セズ若ハ交付シタル補給金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ工作機械製造事業ヲ營ミタル者

二 第二十三條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ工作機械ノ輸入ヲ爲シタル者

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス



- 一 第六條ノ規定ニ違反シテ設備ヲ増設シ又ハ變更シタル者
- 二 第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者
- 三 第十六條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

- 四 第十六條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者
- 五 第十七條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ利益金ノ處分ヲ爲シタル者
- 六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 七 第二十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十條 第十八條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者
- 二 第十八條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第三十二條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザ

ルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 第二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ工作機械製造事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ増設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ工作機械製造事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條、第八條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

右ハ昭和十三年三月九日本院ニ提出ス同月十日日本案ノ第一讀會ヲ開キ木暮商工政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題ト相成リマシタ工作機械製造事業法案ニ付テ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、申ス迄モナク工作機械製造事業ハ、國防上緊要缺クベカラザル事業デアリマスト共ニ、一般機械工業ノ基礎タル工業トシテ、産業上極メテ重要ナル地位ヲ占メ、是ガ發達ノ如何ハ、我國國防上並ニ産業上重大ナル意義ヲ有スル次第デアリマス、本邦ニ於ケル工作機械製造事業ハ、近時漸ク發展過程ニ入ッタヤウナ實情ニアルノデアリマシテ、其製造能力ニ於テ、將又其製造技術ニ於テ、遺憾ト認メラル、點ガ尠クナイノデアリマス、即チ未ダ國內ニ於テ製造困難ナル工作機械ガ相當アリマスノミナラズ、一般ニ國產工作機械ノ性能ハ、外國品ニ比シ可ナリノ遜色ガアリマスコトハ、否定出來ナイ事實デアリマシテ、我國ハ毎年多額ノ工作機械ヲ海外ヨリノ輸入ニ仰イデ居ルノデアリマス、斯ルガ故ニ斯業振興ノ必要ハ從來ヨリ痛感セラレテ居ッタノデアリマスガ、特ニ現下ノ時局ニ際シマシテハ、斯業ノ確立ハ蓋シ刻下最大ノ急務ト存ズル次第デアリマス、而シテ工作機械製造事業確立ノ方策ト致シマシテハ、斯業ノ特質ニ即應シテ適切ナル各種ノ獎勵方策ヲ講ジ、以テ生産力ノ擴充ヲ圖ルト共ニ、他面適當ナル指導監督ニ依リ、斯業

ノ經營ヲ合理的基礎ノ上ニ置キ、其製造技術ノ向上ニ資スルコトガ、斯業ノ堅實ナル發達ヲ期スル上ニ、最モ適當デアラウト考ヘル次第デアリマス、本法案提出ノ理由ハ大體以上申述べマシタ通りデゴザイマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出重要礦物増産法案外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長森田福市君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ工作機械製造事業法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、本案ハ現下ノ時局ニ對應シ、且ツ將來ニ處スル目的ヲ以テ、工作機械製造業ニ對シ保護助成及ビ指導監督ヲ爲シテ、是ガ増産ヲ爲スト共ニ、其質的改善ヲモ併セ圖ラントスルモノデアリマス、以下質疑ノ内容ニ付キ主ナルモノヲ申上ゲタイト思ヒマス、委員會ノ大體ノ意向ト致シマシテ、本案ノ内容ハ極メテ不徹底ナルニ依リ、更ニ一層ノ擴大充實ノ要ヲ當局ニ求メタノデアリマスガ、先ヅ第一ニ中小工作機械製造業者ニ對スル問題デアリマス、此問題ニ關シマシテハ、委員會ニ於キマシテモ、最モ論議ガ集中セラレマシテ、各委員ヨリ中小工作機械製造業者ニ對シ本法中除外規定ヲ設ケタ理由、殊ニ第三條、第七條、第十條及ビ第十二條ノ特典事項ノ適用ヲ、一部ノ大會社ノミニ限ツタ點ニ付キ、極メテ重要ナル質問ヲ爲シ、更ニ當局ニ對シ、前申述べマシタ點ノ中小製造者ヘノ適用ニ付キ、熱心ニ質ス所ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、本法ノ第一ニ企圖スル所ハ、生産能力ノ擴充ニアリ、先ヅ其第一段階トシテ、大規模工場ニ助成ヲ爲シテ増産ヲ圖リ、中小業者ニ對シマシテハ大企業者ヲ通ジ、或ハ間接的ニ、或ハ果次のニ效果ヲ及ボシタキ旨、又中小業者ニハ別途ニ助成ノ用意アル旨ノ答辯ガアッ

タノデアリマス、其第二ノ問題ハ、工作機械ノ規格統一ニ關スルモノデアリマス、工作機械ノ製造ニ當リ、部分品規格ノ不統一ハ非常ナ支障トナリマスノデ、是ガ規格ノ統一ヲ圖ルコトハ洵ニ重要ナル旨ノ質問ガアリ、之ニ對シ政府當局ハ、近々機械試験所ヲ設置シテ規格ノ統一ヲ圖ル旨ノ答辯ガアリマシタ、第三ハ工場労働者及ビ熟練工ニ關スル問題デアリマス、現在ノ工場ニ於テ労働者、殊ニ熟練工ガ不足ヲ來シテ居ルコトハ、是等ニ對スル保護政策ノ不備ニ基クモノデアアル、仍テ政府ハ失業保險制度及ビ熟練工登錄制度ヲ確立サレテハ如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府當局ハ厚生省ト協議ノ上、熟練工養成其他ニ付キ善處スル旨ノ答辯ガアリマシタ、第四ハ不況時ニ於ケル工作機械製造問題デアリマス、不況時ニ於テ一番影響ヲ蒙ル者ハ、工作機械製造業者デアルカラ、是ガ對策如何ト云フ質問ニ對シマシテ、當局ハ不況時ニ於テモ或ル程度ノ生産力ヲ維持サセル爲メ、適當ニ補助スル旨ノ答辯ガアリマシタ、尙ホ詳細ハ速記録ニ依ッテ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス、最後ニ委員長カラ政府當局ニ對シテ質問ヲ致シマシタ、本法施行ニ際シテ政府ハ工作機械製作ノ製造工場中二百臺ニ滿タザルモノト雖モ、優良品ヲ製作ナシ得ル工場ニ對シテハ、本法ヲ適用ナスヤウ、命令制定ノ際考慮スル考アリヤ否ヤ、政府ハ之ニ答ヘテ十分考慮致シマストノ明答ガアッタデアリマス、次ニ尙ホ中小工場ノ保護助成ニ付キ政府ハ別途考慮ヲ爲ス意思アリヤ、之ニ對シテモ政府ハ考慮スル旨ノ明答ガアッタデアリマス、質問ガ終リマシテ直チニ討論ニ入りマシテ、各派代表ヨリソレレノ希望ヲ述べラレテ、原案ニ賛成サレタノデアリマス、採決ノ結果ハ、滿場一致デ原案ヲ可決ニ相成リマシタ、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十二日可決奏上シ同月三十日法律第四十號ヲ以テ公布セラル

七一 航空機製造事業法案

航空機製造事業法

第一條 本法ニ於テ航空機製造事業ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス航空機ノ部分品若ハ附屬品ノ製造、其ノ事業者ノ用フル航空機用材料ノ製造又ハ航空機ノ修理ハ之ヲ當該事業ノ一部ト看做ス

第二條 航空機製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ  
 政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得  
 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 航空機製造事業ヲ營ム會社(以下航空機製造會社ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ  
 政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第六條 政府ハ航空機技術委員會ノ議ヲ經テ航空機ノ機體、發動機、プロペラ、部分品、材料又ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得  
 航空機製造會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造又ハ使用スルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

航空機技術委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第七條 航空機製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

航空機製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條 航空機製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第九條 航空機製造會社ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第十條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル航空機製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 航空機製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十二條 航空機製造會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ之ニ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得航空機ノ部分品、材料又ハ附屬品ニシテ本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキモノヲ製造スル場合亦同ジ

第十三條 航空機製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十四條 航空機製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 政府ハ航空機製造會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得 政府ハ航空機製造會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ航空機製造會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコ

トヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十六條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ航空機製造會社ニ對シ航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ販賣價格若ハ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ此等製品ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ軍事上必要アリト認ムルトキハ航空機製造會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得政府公益上必要アリト認ムルトキ第一號乃至第五號ニ掲グル事項ニ付亦同

- 一 設備ノ擴張又ハ改良
- 二 政府ノ指定スル航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造
- 三 航空機ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設
- 四 航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造技能者ノ養成
- 五 航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造ニ關シ設備ノ共用其ノ他他ノ航空機製造會社ニ對スル協力
- 六 航空機用材料ノ保有
- 七 從業者又ハ工場其ノ他ノ設備ノ政府ニ對スル供用

八 特殊ナル事業計畫ノ設定又ハ其ノ計畫ニ付必要ナル演練

九 工場ノ警備又ハ防護上必要ナル施設

十 航空機ニ關スル資料ノ提出

十一 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外特ニ必要ナル事項

前項第一號乃至第四號又ハ第六號乃至第十一號ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項第五號ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付當事者間ニ協議調ハザルトキハ政府之ヲ裁定ス裁定ニ對シ不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得第十八條 政府第十六條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外航空機製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ航空機製造事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 航空機製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其

ノ職務ヲ行フ監督役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十條 航空機ノ部分品、材料又ハ附屬品ノ製造事業ニシテ第一條ノ航空機製造事業ニ屬セザルモノニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第二十一條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ航空機製造事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第五條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

二 第五條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者

三 第七條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

四 第十六條又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十五條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十四條 航空機製造會社ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

#### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ航空機製造事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

第九條ノ規定ハ第二項ニ掲グル者ガ第二條ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ事業開始ノ年ヲ以テ

第二條ノ許可ヲ受ケタル年ト看做シ許可ノ日以後ノ分ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十一條ノ規定ハ第二項ニ掲グル者ガ第二條ノ許可ヲ受ケタル前ニ於テ爲ス輸入ニ付テハ之ヲ適用セズ

右ハ昭和十三年三月九日本院ニ提出ス同月十日日本案ノ第一讀會ヲ開キ田島遞信政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

航空機製造事業法案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、我國航空機製造事業ハ、陸海軍ノ積極的ナル指導培養等ニ依リ、最近著シキ發達ヲ遂ゲテ居リマス、殊ニ軍用機ニ付キマシテハ、其性能ノ優秀ナル點ニ於テ、世界諸列強ノソレニ比シテ、決シテ遜色ナキモノヲ生ムニ至ツタノデアリマスガ、是ガ製造事業ノ全般ニ付テ見マスレバ、作業ノ機械化ガ遅レテ居リマシテ、隨テ製造能力ノ不十分デアリ、且ツ彈力性ニ乏シキコト、其他航空機ノ價格ノ不廉ナルコト等、種々ノ缺陷アルヲ否定シ得ナイノデアリマシテ、此際航空機ノ國防上竝ニ産業上ニ於ケル重要性ニ鑑ミマシテ、速ニ本事業ノ確立振興ヲ圖リ、優秀且ツ低廉ナル航空機ヲ豊富ニ供給スルノ途ヲ確保スルコトハ、洵ニ刻下ノ急務デアルト存ジマス、而シテ此點ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテ優秀ナル航空機ノ出現ヲ促進スル爲ニ、別ニ中央航空研究機關設立ノ計畫ヲ樹テ、其準備費ヲ來年度豫算ニ計上致シ、尙ホ他方ニ於テハ國際航空ノ發展、海外市場ノ獲得、或ハ定期航空ノ新線開拓、及ビ運航回數ノ増加等ニ依リ、航空機ノ需要増進策ヲ著々進メツ、アル次第デアリマスガ、直接航空機製造事業ニ對シマシテハ、一面適切ナル保護助長政策ヲ探ルト共ニ、他面適當ナル監督統制ヲ加ヘ、以テ本事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ、是ガ準據法規トシテ本法案ヲ立案シタ次第デアリマス、何卒速ニ御審議ノ上御協賛ヲ賜ランコトヲ切望スル次第デアリマス、

中村梅吉君質疑ヲ爲シ末次内務大臣、田島遞信政務次官及加藤陸軍政務次官應答ス

中村梅吉君ノ質疑

國防上極メテ重要ナル關係ヲ持ッテ居ル本案ノ審議ニ當リマシテ、陸海軍當局方御見エニナッテ居リマセヌコトハ、洵ニ遺憾ニ存ジマス、政務次官ノ加藤サンガオ居デ、アリマスカラ、政務次官ヨリ私ノ質疑ニ對シテ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス、只今本案ニ付キマシテ田島政府委員ヨリ御説明ガゴザイマシタガ、我國ノ航空機ノ製造能力ハ未ダ尙ホ不十分デアアル、又航空機ノ製造ハ國防産業ニ重要ナル關係ヲ持ッテ居ルト云フ御説明ガアリマシタ、固ヨリ然ルベキコトト存ジマス、而シテ私ハ本案ヲ見マシテ洵ニ不可解ニ堪ヘナイト思ヒマス、本法ノ第三條ニ規定スル所デアリマスガ、之ニ依リマスト、此航空機製造事業ニ當ルベキ株式會社ノ取締役並ニ株主ハ、過半数未滿マデハ我が帝國ニ國籍ヲ有セザル者、即チ外國人若クハ外國會社デアッテモ、差支ナイト云フコトニナッテ居リマスガ、帝國議會ノ審議ニ當リマシテ、陸海軍大臣ハ委員會等ニ於テ屢、航空機ノ製造能力、或ハソレ等ノ實情ニ付テ説明ヲ求メラレマス、恐ラク秘密會ニ於テスラ其實情ヲ發表ニナラナイノデアリマス、斯ル重要ナル事柄ニ携ハル製造會社ノ株主並ニ重役ヲシテ、半数ニ滿タザル範圍マデハ、海外ノ者デアッテモ宜シイト云フヤウナコトハ、此航空機製造ト云フコトノ重要性ニ鑑ミテ私ハ不適當デアアル、理想トシテハ假令ソレガ一人デアッテモ、斯様ナ事業ニ携ハリ、或ハ參加スルコトヲ好マシクナイト私共ハ思フノデアリマス、或ハ見方ニ依リマシテハ、是等ノ産業上ニ外資ヲ輸入スルコトガ必要デアルト云フコトモ考ヘラレマスガ、併ナガラ外資ヲ産業上ニ輸入スル必要ガアルトスルナラバ、斯ル國防産業ニ於テ、ソレヲ獎勵スベキモノデアルト私共ハ思フノデアリマス、此點ハ私共ノ洵ニ不可解ニ堪ヘナイ所デアリマシテ、當局ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス、其次ニ私ノ伺ヒタイト思ヒマス、近來政府ハ各種ノ方面ニ互ッテ半官半民ノ特殊會社ヲ設立スル、ソレ等ノ特殊會

社設立ニ關スル法案ノ理由ハ、國家的ニ重要ナル使命ヲ持ッテ居ル、隨テ政府ノ監督指導ヲ徹底セシムル必要上、左様ナ組織ニスルト云フコトニアルヤウデアリマスガ、ソレ等ノ點カラ見マシタナラバ、本法ニ規定ヲ致サレマシタ航空機製造事業ト云フガ如キモノハ、先ヅ第一ニ其國家的重要性ニ鑑ミテ、特殊會社ノ組織ニスベキモノデアナイカト私共ハ思フノデアリマス、現在ノヤウニ各航空機製造會社ガ分立シテ居ル狀態デハ、到底航空機製造ニ關スル國家的ノ必要ニ應ズルコトガ、極メテ困難デハナイカト思ヒマス、現在我國ノ自動車製造事業ノ實情ナドヲ見マシテモ、諸外國ノ自動車製造事業ノヤウニ成績ガ擧ラナイ、是等ニ鑑ミマシテモ、航空機製造ト云フヤウナコトハ努メテ統一ヲシテ、サウシテ徹底シタ研究ト共ニ、航空機ノ研究ニ揮セシメナケレバナイト思フノデアリマス、殊ニ現在ノ實情ヲ見マスト、航空機ノ研究ニ付テハ、陸軍省或ハ海軍省、或ハ帝國大學ノ工學部ト云フヤウナ各種ノ機關ニ於テ思ヒ、研究ヲ致シテ居リマス、斯ウ云フヤウナ航空機製造ノ事業ニ携ハルモノヲ、單一ノ特殊會社ノ制度ニ致シマスナラバ、其特殊會社ノ内部ニ、統一シタ航空機ニ關スル研究機關ヲ設ケテ行クコトガ出來ルノデアナイカ、斯様ニ考ヘマス、何故ニ航空機製造事業ニ關スル事業會社ヲ、特殊會社ノ制度ニ政府ハ持ッテ行カナカッタデアラウカ、此點私共ノ不可解ニ存ズル所デアリマス、之ニ付テ當局ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス、次ニ私ノ伺ヒタイト思ヒマス、本法ニ牽聯シテ大都市、殊ニ帝都ノ防空ニ關スル事柄デアリマス、帝都ノ防空ハ最も重要デアリマシテ、最近モ都市計畫東京地方委員會ニ於テ防空ニ關スル施設——尤モ國民保健ト云フコトニモ關聯ガアリマスガ、各方面ニ數十箇所公園ノ施設ヲスルト云フノデ、數萬圓ノ經費ヲ要スル事柄ヲ決定致サレマシタ、私ハ帝都ノ防空或ハ大都市ノ防空ト云フコトヲ考ヘマス時ニ、國防思想ノ普及ト云フコトハ最も必要デアルト思ヒマス、屢、行ヒマス防空演習等ニ付テ、全國ノ防護團ノ諸君ハ非常に熱心ニ活動セラレテ、感謝ヲスル所デアリマスガ、動モスレバ防空思想ガ備ハラズシテ、其仕事ニ携ッテ居ルト云フヤウナ憾ミガアルヤウニ思フノデアリマス、ソコデ政府ハ此防空思想ノ普及徹底ニ付テ然ルベキ方法ヲ講ズル必要ガアル、此點ニ鑑ミマシテ、私ハ全國ノ中等學校ニ防空



若クハ國防ニ關スル一ツノ科目ヲ設ケテ、十分ニサウ云フヤウナ時代カラ、徹底シタ國防並ニ防空ニ關スル思想ヲ普及スル必要ガアリハシナイカト思フノデアリマスガ、此點ニ付テ陸軍當局、竝ニ内務大臣ガ御見エニナリマシタカラ、内務大臣カラモ其事ニ付テ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、ソレカラモウ一ツ最後ニ伺ヒタイト思ヒマスノハ、大都市ノ防空ト云フ點カラ鑑ミマス、最モ必要ナコトハ防空通信網ノ完備デアリマス、諸外國ノ實情ト、我國ノ現狀トヲ考ヘテ見マス、我國ハ全ク防空ニ關スル通信網ノ施設ガ不十分デアルト私ハ思ヒマス、此通信網ノ完備ト云フコトニ付テ、遞信當局ハドウ云フヤウニ御考ニナッテ居リマスカ、私共ハ之ニ十分力ヲ注イデ貫ヒタイト思フノデアリマスガ、遺憾ナガラ吾々ノ理想ノヤウニ達シテ居リマセヌ、將來ノ考ヘ方ニ付テ御所見ヲ承リタイト思ヒマス、此程度デ打切ッテ置キマス

田島遞信政務次官ノ應答

中村君ノ質疑ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、第一點ノ外國ノ株主タル關係、重役タル關係ニ付テフコトハ、出來得レバ之ヲ利用シタ方宜シト考ヘルノデゴザイマスガ、本法案ノ狙ヒ所ト致シテ居リマスル航空機製造事業ハ、軍用機ダケヲ製造スルノデアリマセヌ、所謂平和時ニ於ケル平和交通ノ目的ニ使ヒマス所ノ飛行機製造ガ、大體其主眼デアアルノデアリマス、ソレデ本法ハ、其性質上純然タル平時立法デアリマシテ、平時ニ對スル用意ヲ致ス爲メノ法律デゴザイマスカラ、他ノ斯ウ云フ性質ノ關係ノ事業ニ能ク現レテ居リマスヤウニ、外國資本ガ支配權ヲ持タナケレバ、敢テ其弊害ヲ認メナイト考ヘマシテ、御覽ノ通りノ立法ヲ致シタ次第デアリマス、尙ホ其製造事業中ノ軍事上ノ機密ニ屬スルモノハ、自ラ軍機保護法其他ノ法律ニ依ッテ、適當ニ保護ヲ致サレルト思フノデアリマスノデ、其點ニ付テノ御心配ハナカラウト考ヘルノデアリマス、次ニ第二點ハ、罰則ノ程度ガ低クハナイカト云フ風ナ御意見ノヤウデゴザイマシタガ、是ハ前申上ゲマシタ通りニ、純然タル平時立法デアリマシテ、其性質カラ推シマシテ、他ノ同

種ノ法律、例ヘテ申シマスレバ、自動車製造事業法、人造石油製造事業法、サウ云フヤウナ法律ト權衡ヲ取ルベキ性質ノモノデアリマスルノデ、斯ル種類ノ法律ト同様ノ程度ニ於キマシテ罰則ヲ置イタ次第デアリマス、最後ニ防空通信ノコトニ付キマシテノ御意見ガゴザイマシタガ、洵ニ御尤ナコトデゴザイマシテ、本件ニ付キマシテハ、遞信當局ト致シマシテハ、著々其完備ニ向ッテ努力ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス

末次内務大臣ノ應答

只今御尋ノ防空思想ノ普及ハ、御意見ノ通り是非大イニヤラナケレバナラヌト思ヒマス、之ニ付キマシテハ、文部當局ト能ク協議ノ上善處致シマス、内務省トシテハ十三年度ニ掲ゲテ居リマス防空關係ノ豫算ハ二百五十一萬圓デアリマシテ、是等ノ費用ヲ以テ監視、通信機關ノ整備、消防ノ充實、防毒「マスク」ノ購入、避難室ノ整備ト云フヤウナモノヲ、漸ヲ追ウテ充實ヲ期シテ居リマス、都市ノ防空ニ付キマシテハ、都市計畫法、市街地建築物法ノ運用等ニ依リマシテ、防空施設ノ完備ヲ漸次圖ッテ居ル現狀デアリマス

加藤陸軍政務次官ノ應答

御答致シマス、半數以下ノ株式ヲ外國人ニ持タセルコトガ、軍ノ秘密上憂慮スベキ點ガナイカト云フ御問デアッタト思ヒマス、遞信省ノ當局者カラ御答致シマシタ通り、現在ノ此程度ニ於キマシテハ、軍機ノ秘密ヲ保護スルコトガ出來ルト信ジマシテ、軍ハソレニ安心ヲシテ居ル次第デアリマス、其次ニ御問ニナリマシタ、特殊會社ヲ作ッテ其中ニ於テ航空機ノ製作統一研究ヲシタラドウカト云フ御問デアッタト存ジマス、成程特殊會社ヲ作ッテ、サウシテ統制シマスルコトモ、一ツノ方法デアリマス、併ナガラ現ニ提案ニ相成ッテ居リマスル航空機製造事業ノ此法案ニ依リマシテ、適當ナル統制ハ出來ルト存ジマス、ソレデアリマスカラ、御問ニナリマシタ趣旨ヲ實行スルコトガ、本法制定ノ有力ナル理由デアルト存ジマス、斯様ナ譯デアリマスカラ、

本案ニ陸軍ト致シマシテハ賛成ヲ致シテ居ル次第アリマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長岡崎久次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

航空機製造事業法案ノ委員會ニ於ケル經過ノ大要竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、御承知ノ通り本案ハ、現下ノ時局ニ處シマシテ頗ル重要ナル法案デアリコトハ申ス迄モナイデアリマス、其趣旨トスル所ハ、航空機ノ充實ヲ圖ル爲メ、指導獎勵及ビ特典ヲ與ヘントスル法案デアリマス、政府ノ企圖スル航空機ト云フ、所謂本案記載ノ航空機ノ獎勵ニ當ルモノハ、舊ニ航空機ノ機體ダケデハゴザイマセヌ、航空機ノ機體ハ勿論「エンジン」即チ發動機、「プロペラー」、ソレ以外ニ御承知ノ通り航空機ニハ貴重ナル輕合金ガ必要デアリマス、所謂「ジュラルミン」或ハ「ジュラルミン」、「ニッケル」ト云フヤウナ材料ノ必要上、此材料製造モ特典ニ與ルノデアリマス、更ニ又非常ナ精密工業デアリマスルカラ、其部分品ノ製造モ此獎勵範圍ニ入ルノデアリマシテ、政府ノ言フ所ニ依ルト、凡ソ三百万圓以上ノ會社ヲ以テ、許可會社トスルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此許可會社ニ對シテハ、工作機械ヲ輸入スル爲メノ輸入税ノ免除、竝ニ新規ニ航空事業ヲ爲サントスルモノノ爲メ、所得税、營業收益税等ヲ五箇年間免除スルト云フ、大要其特典ヲ與ヘル、其他ニ指導、監督、獎勵ヲ致ス法案デアリマス、斯ル貴重ナル以上ノ内容ヲ有スル法案デアリマスルカラ、委員會ハ三月十一日開催以來一日モ休ミマセヌデ、連續今日マデ委員會ヲ繼續致シマシタ、當局大臣ハ勿論、陸海軍大臣モ出席セラレマシテ、委員ハ熱心ナル質疑ヲ行ハレ、當局カラ又熱誠ナル答辯ガアッタノデアリマス、其委員

會ニ於ケル質疑應答ノ重要ナリト思ハレル點ヲ二三申上ゲテ、詳細ハ委員會ノ速記録ニ譲リタイト思ヒマス、委員ノ質問ニ於テ、海軍、陸軍兩大臣ニ對シマシテ、海軍ハ航空本廠ヲ持ッテ居ル、陸軍モ航空本廠ヲ持ッテ居ル、海陸各性能ヲ違ヘテ居ルノダカラ、各ノ航空本廠ヲ持ッコトハ當然デアリガ、モウ一ツ其上ニ航空省トカ、中央航空省トカ云ツタ、大キイ組織ノ航空省ヲ有スルコトガ、一朝有事ノ時ニ必要デハナイカト云フ質問ガアッタノデアリマスガ、之ニ對シテ海軍大臣及ビ陸軍大臣カラ、斯ウ云ツヤウナ御答辯ガアッタノデス、ソレハ必要デアル、必要デアルガ、現在ハ海軍航空廠ニ於テモ、陸軍航空廠ニ於テモ、其生産充實擴張ニ於テ、日モ亦足りヌ状態デアリノデアツテ、今直チニ中央航空省ト云ツヤウナコトニ手ヲ出スコトハ、到底出來ナイコトデアリ、長イ先ノ將來ヲ考ヘレバ、サウ云フ必要モアルカモ知レヌケレドモ、現在ニ於テハソコ迄ハ至リ兼ネルト云フヤウナ御答辯ガアリマシタ、更ニ航空路ノ擴張ニ付テ熱誠ナ質問ガアッタノデアリマス、即チ從來航空路ハ洵ニ短カッタケレドモ、今日ハ北支、滿洲、更ニ中支、其他東亞、歐洲連絡ニ對スル航空路ノ開發ニ努メルコトガ急務デハナイカ、此質問ニ對シテハ遞信大臣カラ詳細ナル御答辯ガアッタノデアリマス、即チ今日ハ滿洲ノ航空ハモット擴張シナケレバナラヌ、又内地カラ上海、南京ニ航空スル航空路モ開キタイト思フ、又内地カラ青島ヲ經テ天津、北京ニ到ル航空路モ開キタイト思フ、ソシテ更ニ北京、南京、滿洲ト云フ連絡ヲ取ル考デアルト云フヤウナ御答辯ガアリマシタ、近キ將來ニ實行スルヤウナ御考デアラシイノデアリマス、歐亞連絡ニ付テハ、事外交ニ互ル問題デアリマシテ、折角努力ヲシテ居ルガ、此際ハハッキリト申上ゲ兼ネルト云フヤウナ御答辯デアリマシタ、更ニ一議員カラ規格ヲ統一シタラドウカト云フヤウナ重大ナ質問ガアリマシタノニ對シテ、海軍大臣カラ、ソレハモウ絶對ニ希望スル所デアリマスルガ、規格ノ統一ノ出來ナイモノガアル、例ヘバ水上飛行機ノ如キハ、母艦ニ載セルカラ、翼ヲ折ッテ積マナケレバナラヌト云フヤウナ所ハ、統一出來ナイケレドモ、大體ニ於テハ統一シタイト云フ考デアルト云フヤウナ御答辯デアリマシタ、更ニ又今ノ遞信省ノ航空局ハ餘リ小サイデハナイカ、航空事業モセズ、飛行機一臺モ持タ

ズ、サウシテ唯權指導ダケデハ、餘リニ小サイデハナイカ、モット遞信大臣ハ度胸ヲ宜クシテ、豫算ヲ取ツテ、サウシテ航空局ノ擴張ヲ爲サタラドウダト云フヤウナ、鞭撻的質問ガアツタヤウデアリマス、之ニ對シテ遞信大臣ハ、其趣旨ヲ非常ニ感謝サレテ居ッテ、來年度ハ大イニ努力スルト云フヤウナ御答辯デアツタヤウニ承ツテ居リマス、斯様ナ風ニ有ユル方面ニ對シ、航空ノ現下ノ必要ニ對シテノ質問ハ十二分ニ行ハレタノデアリマス、質疑ガ全部了リマシテ、討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表シテ田村委員カラ本案賛成ノ御意見ガ出マシタ、サリナガラ本案ノ運用ガ大事デアル、法案ノ通過ハ宜イガ、運用ガ大切デアルト云フ御意見ト、又航空路ヨリ航空機ノ製造ガ第一義デハナカッタカ、遅キニ失スルケレドモ、是カラ大イニヤツテ呉レナケレバ、イカヌト云フヤウナ意見ヲ副ヘテ、田村委員ハ賛成ノ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、之ニ對シテ政友會カラハ、中田委員カラ賛成ノ御意見ガ出マシタ、即チ航空部隊ノ充實ト、産業並ニ文化ニ資スル爲ノ航空路充實ト云フモノハ、絶對ニ爲サナケレバ、イカヌ、今後外國依存ト云フコトハ、成タケ考ヘナイヤウニシテ戴キタイト云フヤウナ希望ヲ以テ、本案ニ賛成ノ御意見ヲ述ベラレタノデアリマス、更ニ第一議員俱樂部カラハ、安藤委員カラ賛成ノ御意見ガアリ、社會大衆黨ヲ代表シテ、岡崎委員カラ賛成ノ御意見ガアリ、第二控室ニ於テハ、椎尾委員カラ賛成ノ御意見ガアツタノデアリマス、斯クシテ採決ノ結果、全會一致ヲ以テ本案ヲ可決セラレタノデアリマス、右ノヤウナ審議ヲ盡サレタル本案デアリマスルカラ、願クハ委員會決定通り可決確定セラレンコトヲ切望シテ報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十四日可決奏上シ同月三十日法律第四十一號ヲ以テ公布セララル

七二 市街地建築物法中改正法律案(貴族院送付)

市街地建築物法中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣必要ト認ムルトキハ住居地域内ニ住居専用地区ヲ指定シ其ノ地区内ニ於ケル住宅以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣必要ト認ムルトキハ工業地域内ニ工業専用地区ヲ指定シ其ノ地区内ニ於ケル工場、倉庫其ノ他之ニ準ズベキモノ以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條中「前三條」ヲ「第二條第一項、第三條及前條第一項」ニ改ム

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣必要ト認ムルトキハ高度地区ヲ指定シ其ノ地区内ニ於ケル建築物ニ付高ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定メ又ハ空地地区ヲ指定シ其ノ地区内ニ於ケル建築物ニ付床面積ノ敷地面積

ニ對スル割合及敷地ノ疆界線ヨリノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得

第十二條中「衛生上又ハ保安上」ヲ「衛生上、保安上又ハ防空上」ニ改ム

第二十六條中「幅員九尺」ヲ「幅員四メートル」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

幅員四メートル未満二・七メートル以上ノ道路及道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於ケル其ノ計畫ノ道路ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ道路ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依リ指定シタル區域及其ノ區域内ニ於ケル建築物ニ付定メタル高ノ最低限度ハ各之ヲ本法第十一條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル高度地區及其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付定メタル高ノ最低限度ト看做ス

右ハ昭和十三年三月二日貴族院ニ提出ス同院ハ同月九日日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月十日日本案ノ第一讀會ヲ開キ末次内務大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題ト相成リマシタ市街地建築物法中改正法律案ニ付キマシテ、其提案理由ノ概略ヲ説明致シマス、市街地建築物法ハ施行以來相當實績ヲ收メテ來タノデアリマスガ、時世ノ推移ニ伴ヒ、現行法ニ於キマシテハ土地ノ利用ヲ整正シ、建築物ノ用途ヲ統制スルニハ、尙ホ不十分ナル嫌ガアリマスノミナラズ、防空、防火及ビ保健衛生ノ見地ヨリ致シマシテモ、改正ノ要アリ

ト認メラレマスノデ、茲ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、改正ノ主ナル點ヲ申上ゲマスレバ、現在ノ居住地域及ビ工業地域内ニ、ソレ々々居住專用地區及ビ工業專用地區ヲ設ケ得ルコトトシ、以テ一層住居ノ安寧ノ保持及ビ産業能率ノ増進ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、又新ニ高度地區及ビ空地地區ノ制度ヲ設ケマシテ、土地ノ經濟的利用及ビ密住ノ禍害防止等ニ努メントスルモノデアリマス、尙ホ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シマシテハ、現行法上ハ衛生上又ハ保安上必要ナル措置ヲ命ジ得ルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、更ニ防空上モ之ヲ爲シ得ルコトニ改メ、又交通上、防空上、防火上竝ニ保健衛生上ヨリ、市街地建築物法ノ道路ハ其幅員ヲ擴張スル必要ガアリマスノデ、之ヲ改正シ遺憾ナキヲ期スルコトト致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ望ミマス

深澤豊太郎君質疑ヲ爲シ末次内務大臣應答ス

深澤豊太郎君ノ質疑

大正十二年關東震災ニ因ツテ東京及ビ横濱ノ甲種防火地區内ノ假設建築物、即チ木造建築物ノ除却期限ハ數箇月後、來ル八月末日ト規定セラレテ居リマス、然ルニ時局ニ鑑ミマシテ、防火地區ノ完成ハ益、急務デアリマスルガ、一面物資ノ關係上、防火建築物ノ建築ハ不可能ノ實情ニアリマス、仍テ政府ハ今後相當長期ニ互ツテ、假設建築物ノ除却期限ヲ延期スルノ已ムナキニ至ツテ居ルカト思フノデアリマス、政府ハ此場合ニ於テ東京、横濱ニ於ケル防火地區内ノ木造建築物ノ除却期限延期ニ付テ、其方針ヲ明示セラレンコトヲ希望致シマス

末次内務大臣ノ應答

深澤君ノ御質問ノ要旨ハ、東京、横濱兩市ニ於キマシテ、大正十二年ノ震災ニ因ツテ火災ニ罹リマシタル地區ノ中、甲種防火地區内ノ假設建築物ノ除却期限ハ、本年八月末日ト規定セラレ

テ居ルガ、尙ホ相當數ノ假設建築物ガ殘存致シテ居ル實情ニモアルノデ、此除却ノ期限ハ相當長イ間延期致スベキデアラウ、之ニ付テノ御質問ダト承リマシタ、此防火建築物ニ付キマシテハ、國庫カラ補助スルコトトナツテ居リマスガ、此補助モ曩ニ三十三年度豫算案ト共ニ決議致サレマシタ通り、昭和二十二年マデ延期セラル、コトトナツテ居リマスノデ、是ト同ジク昭和二十二年マデ延期セラレルコトト御承知ヲ願ヒマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十二日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長深澤豊太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本改正案ハ市街地建築物ニ對シ新ニ住居專用地區及ビ工場專用地區ヲ指定シ、建築物ノ高さニモ最高最低ノ制限ヲ加フル地區ヲ定メ、且ツ從來保安、衛生、保健ノ立場ヨリ立法セラレタルモノデアリマスルガ、時局ニ鑑ミ防空ノ精神ヲ織込シテ、空地ノ割合ヲ強制シ得ルヤウ、又道路ハ九尺ヲ四米ト改正セラレタルモノデアリマス、委員會ハ三回ニ互リ質疑ヲ繼續致シマシタ、主ナルモノハ、都市計畫ノ指定ハ財政ニ伴フベシ、都市計畫ノ指定ハ餘リニ先走ル勿レ、指定ノ變更又ハ指定セラレタル儘ニ放任セラレ居ルコトノ市民ニ對スル損害、迷惑ヲ惹起スルコト甚シキモノガアルトノ、市民生活ニ即シタル割切ナル質問ガ飯田、田中、江羅、長野、福田、松永其他ノ諸君ヨリ熱心ニ質問ナサレタデアリマス、討論ノ結果ハ適切ナル改正デアルトシテ滿場一致可決致シマシタ、何卒委員會ノ決定ノ通り御賛成アラントラ希望致シマス、以上ヲ

以テ報告ト致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス三月二十八日法律第二十九號ヲ以テ公布セラル

七三 有價證券業取締法案(貴族院送付)

有價證券業取締法

第一條 本法ニ於テ有價證券業トハ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲ス營業ヲ謂フ但シ銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ノ營ムモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 有價證券業ヲ營メントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第三條 前條ノ免許ノ年限ハ五年トス

第四條 第二條ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ納ムベシ

前項ノ免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第二條ノ免許ヲ受クルコトヲ得ズ

一 破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過スルニ至ル迄ノ者

三 取引所ノ會員又ハ取引員ニシテ除名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルモノ

四 第六條第二項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者

五 營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治産者ニシテ其ノ法定代理人ガ前各號ノ一ニ該當スルモノ

六 法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第四號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第六條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者(有價證券業者)前條第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

主務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ第二條ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第七條 有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業保證金ヲ供託スベシ

前項ノ營業保證金ハ主務大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八條 有價證券業者ト其ノ業務ニ關シ取引ヲ爲シタル者ハ有價證券業者ガ其ノ取引ニ關スル契約ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關シ前條ノ營業保證金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 有價證券業者ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 商號ヲ變更セントスルトキ

二 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

三 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第十條 有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業ニ關スル帳簿ヲ備ヘ必要ナル事項ヲ之ニ記載スベシ

第十一條 有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十二條 行政官應必要アリト認ムルトキハ有價證券業者ニ對シ其ノ業務若ハ財産ニ關スル報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ有價證券業者ノ營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證券

ヲ携帯セシムベシ

一五五四

第十三條 行政官廳ハ有價證券業者ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ之ト取引ヲ爲ス者ノ利益ヲ保護スル爲必要アリト認ムルトキハ業務ヲ停止シ又ハ制限シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 有價證券業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ第二條ノ免許ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

- 一 業務ニ關シ詐僞ノ行爲ヲ以テ他人ヨリ金錢若ハ有價證券ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ業務ニ關シ他人ニ交付スベキ金錢若ハ有價證券ヲ不正ニ領得シタルトキ
- 二 業務ニ關シ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタルトキ
- 三 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第十五條 第二條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ有價證券業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 有價證券業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項ヲ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 第十條ノ規定ニ依ル帳簿ヲ備ヘズ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第十一條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出ヲ爲サズ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ又ハ同條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

五 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第十七條 法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附則

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

一五五五

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ有價證券業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得  
前項ノ者前項ノ期間内ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

有價證券業取締法案中貴族院修正ノ箇所左ノ如シ

(小字及——ハ貴族院修正)

第八條 有價證券業者ト其ノ業務ニ關シ取引ヲ爲シタル者ハ有價證券業者ガ其ノ取引ニ關スル契約ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關シ前條ノ營業保證金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

右ハ昭和十三年三月二日貴族院ニ提出ス同院ハ同月九日本案ヲ修正議決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月十日日本案ノ第一讀會ヲ開キ木暮商工政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題ト相成リマシタ有價證券業取締法案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、我國産業ノ健全ナル發達ニハ、有價證券ノ流通ノ圓滑ト其取引ノ安全トヲ圖ルコトガ、極メテ肝要ト認メルノデアリマシテ、政府ハ從來取引所政策ニ於キマシテ、常ニ意ヲ茲ニ用ヒテ參リマシタ次第デ

アリマス、然ルニ取引所外ニ於ケル有價證券ノ賣買等ニ付キマシテハ、何人モ其營業ヲ自由ニ爲シ得ルコトトナツテ居リマス爲メ、最近通信機關ノ發達等ニ伴ヒマシテ、營業ヲ爲ス者ノ數ハ著シク増加スルニ至ツタデアリマスガ、是等ノ者ノ中ニハ資力信用乏シクシテ、動モスレバ不正行爲或ハ犯罪行爲ヲ爲ス者モ少カラザル状態トナツテ居ルデアリマス、仍テ其弊害ヲ除去シ、取引ノ安全ヲ確保スル爲メ、此際有價證券業ヲ免許制度ト致シマシテ、同時ニ監督規定ヲ置イテ、斯業ノ改善刷新ヲ圖リタイト存ジマス、右ノ理由ニ依リマシテ有價證券業取締法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アラシムコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十二日本案、四七及六〇ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(本項第四七參看)院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ハ委員會報告ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス三月二十九日法律第三十二號ヲ以テ公布セラル

七四

兵役ノ義務ナカリシ者等ニシテ支那事變ニ於テ陸軍部隊ニ編入セラレタルモノノ身分取扱ニ關スル法律案

支那事變ニ於テ陸軍部隊ニ編入セラレ召集軍人トシテノ取扱ヲ受ケタル者ニシテ其ノ部隊編入

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案



ノ際兵役ノ義務ナカリシモノ又ハ國民兵役ニ在リタルモノハ其ノ編入セラレタル間勅令ノ定ムル所ニ依リ陸軍ノ後備役、後備兵役又ハ補充兵役ニ服セシメラレタルモノトス

右ハ昭和十三年三月十日本院ニ提出ス同月十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤陸軍政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

本法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ説明申上ゲマス、在郷軍人ノ中ニハ各種ノ理由ニ依リマシテ、徵集ヲ延期セラレタ者ガ相當多數アリマス、是等ノ者ノ中ニハ、徵集時ノ年齢ノ關係上カラ致シマシテ、服役年限ニ拘ラズ滿四十歳ノ年齢ニ達シマスルト、兵役ノ義務ナキニ至ル者ガ尠クナイノデアリマス、今次事變ニ於テ是等ノ兵役義務ヲ滿了シタル者ノ中、誤ッテ召集セラレタル者ガアリマス、是等ノ者ハ其數ハ極メテ少數デアリマスルガ、既ニ兵役ノ義務ナキニ至ッテ居リマスルノデ、其數ノ如何ニ拘ラズ、其兵役ニ服シタルコトヲ明確ニ致シマシテ、以テ召集セラレタル軍人ノ名譽ヲ保持セシメ、其功績ニ對スル恩賞ナドノ基礎ヲ確立スルノ必要ガアルト存ジマスノデ、茲ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、斯ノ如キ誤ヲ生ジマシタルコトハ、洵ニ遺憾ニ存ズル所デアリマスガ、此事實ニ對シ是ガ處理對策ヲ講ジマスルコトモ、亦極メテ緊要ナコトト存ジマスノデ、此邊ノ事情篤ト御諒察ノ上、慎重御審議ヲ願ヒタイノデアリマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同月十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長百瀬渡君ハ委員會ノ經過及結果ニ付

左ノ報告ヲ爲ス

只今日程ニ上リマシタル兵役ノ義務ナカリシ者等ガ、今回ノ支那事變ニ於テ陸軍部隊ニ編入セラレタルモノノ身分取扱ニ關スル法律案ハ、有リ得ベカラザルコトガ有リ得タルデアリマス、故ニ委員會ト致シマシテハ、最モ慎重ニ審議ヲ遂ゲマシタル結果、原案ヲ適正ナルモノト認メマシテ、委員會ハ可決ヲ致シタノデアリマス、今極メテ簡單ニ其内容ト經過竝ニ結果ノ御報告ヲ申上ゲマス、本案ハ今回ノ支那事變ニ際シマシテ、兵役ヲ全ク終了シタル者ヲ、或ハ兵役ガ延長サレタル結果ト致シマシテ、遂ニ其兵籍ニアリマシタル儘、何等ノ改訂ヲ加ヘズシテ召集シタ、即チ召集事務ノ錯誤カラ、斯様ナ有リ得ベカラザルコトガ有リ得タルデアリマスルカラ、其取扱ニ關シマシテ更正ノ必要ガ生ジタノデアリマス、此召集セラレマシタル所ノ人員ハ極メテ少數デアリマスルガ、併ナガラ戦地ニ在ルコトデアリマス、或ハ戦死シ、或ハ戦傷シ、或ハ病氣ノ爲ニ後送セラレ、ヤウナコトガアルノデアリマス、其場合ニ於キマシテ、事實ハ軍人デナカッタノデアリマスカラ、此戦死者、戦傷者或ハ病氣還送者ニ對シテ、軍人トシテノ取扱ガ出來ナイノデアリマス、斯ノ如クニシテ聽テ論功行賞等ニ相成リマスレバ、其ノ結果洵ニ氣ノ毒ナル事態ガ發生スルノデアリマスルカラ、今ノ中ニ何トカ是ガ善後處置ヲ講ジテ置カナケレバナラナイト云フ必要上、立案セラレタモノデアリマス、斯様ナ法案デアリマスガ故ニ、要スルニ有リ得ベカラザルコトガ有リ得タルコトハ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、是ハ軍事行政ノ一大失態ナリト言ヒ得ルノデアリマス、召集事務ノ錯誤デアリマスケレドモ、是ハ作戰上動員計畫ノ上ニ、大ナル齟齬ヲ來ス結果トモ相成ルノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、是等ノ點ニ付キマシテ、陸軍大臣竝ニ關係當局ノ出席ヲ求メマシテ、サウシテ慎重ニ質疑ヲ致シタイノデアリマス、其結果陸軍當局ト致シマシテハ、斯様ナ結果ヲ見タコトハ洵ニ遺憾至極デアアル、而シテ之ヲ發見シタ場合ニハ、直チニ歸還セシムルヤウナ方法ヲ執リ、即チ召集解除ヲシタト云フコトデアリマス、併ナガラ尙ホ戦地ニ是等兵籍ノナイ者ガ從軍シテ居ルノデアリマスルカラ、

前段申上ゲタヤウナ處置ガ必要ナルノデアリマス、委員會ハ多數ノ兵籍ノコトデアリマスルカラ、斯様ナ有リ得ベカラザルコトガ有リ得タヤウナ事態モ已ムモ得ヌガ、サリナガラ是ハ召集事務上ノ大失態デアルカラ、今後斯様ノコトハ格段ノ注意ヲ以テ、再ビ斯様ナ失態ヲ演ジナイヤウニト云フヤウナ意味ノ希望ヲ囑シマシテ、サウシテ討論ニ入りマシタ、民政黨ヨリ大島君、政友會ヨリ野方君、第一議員俱樂部ヨリ永山君、社大ヨリ前川君、第二控室ヨリ今井君ノ諸君カラ、原案賛成ノ御意見ガアリ、討論終結致シマシテ、全會一致ヲ以テ原案ヲ認メタ次第デアリマス、詳細ハ何卒速記録ニ依ッテ御承知ヲ願フコトト致シマス、甚ダ簡單デアリマスガ、以上ヲ申上ゲマシテ、何卒委員會決定ノ通り可決確定アラシムコトヲ要望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十二日可決奏上シ同月二十八日法律第三十號ヲ以テ公布セラル

### 七五 擔保附社債信託法中改正法律案(貴族院送付)

擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第四條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 株式質

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

#### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十三年三月七日貴族院ニ提出ス同院ハ同月十一日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ久山司法政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ擔保附社債信託法中改正法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、我國現下經濟界ノ情勢ニ顧ミマスレバ、事業資金ノ調達ヲ容易ナラシメ、時局ニ緊要ナル事業ノ遂行ニ遺憾ナカラシムルガ爲ニハ、社債金融ノ圓滑ヲ圖リマスコトハ、最モ必要トセラレル所デアリマスルガ、現行擔保附社債信託法ニ於テハ、株式ヲ社債ノ擔保ト爲スコトヲ認メテ居リマセヌガ爲ニ、社債金融上不便ガ尠クナイノデアリマス、仍テ今回本法ニ改正ヲ加ヘ、社債ニ附スルコトヲ得ベキ物上擔保ノ種類ニ株式質ヲ追加シ、株式ヲ擔保トスル社債ノ發行ヲ認メントスルモノデアリマス、宜シク御審議ノ上御協賛アラシムコトヲ望ミマス

次テ本案ハ政府提出臨時通貨法案外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案、八〇及八一ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長駒井重次

只今議題トナリマシタ案件ニ付キマシテ、委員會ノ審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、先ツ擔保附社債信託法中改正法律案ニ付キ御報告申上ゲマス、本案ノ要旨ハ、株式ヲ擔保トスル社債ノ發行ヲ認メマシテ、且ツ其發行ニ當テ主務官廳ノ認可ヲ認メシメントスルモノデアリマス、政府ガ提案ノ理由ノ説明ニ引續キマシテ、特ニ大藏省ノ政府委員ヨリ、生産力擴充ヲ急務トスル經濟界ノ現狀ニ鑑ミマシテ、此改正ガ必要ナル所以ヲ詳細御説明ガアリマシタ、質疑應答ニ入りマシテ、幾多ノ質疑ガアッタノデアリマスガ、其主ナルモノヲ此處デ御紹介申上ゲマス、其一ツハ、擔保附社債信託會社ハ、政府ノ認可ニ依ッテ、其監督ノ下ニ業務ヲ營ンデ居ルノデアリマスルカラ、財界ノ實情ニモ通ジテ居ルノデアリマス、特ニ其株式質ニ付キマシテ、他ノ擔保ト同様ニ受託會社ノ自治ニ委ネルノガ適當デアラウト考ヘルガ、之ヲ一々政府ノ認可ヲ受ケルコトトスルナラバ、社債ノ發行ノ時機ヲ失スルコトモアリ、不便少カラズト考ヘラレルト云フ質問ガアッタノデアリマス、政府委員ヨリ之ニ對シマシテ、株式ハ他ノ財產等ト異リマシテ、種類ニ依ッテハ價格ノ變動等モ比較的多少、隨テ株式ヲ社債ノ如ク長期債務ノ擔保ト爲スニ當テハ、其種類、社債條件、信託契約ノ内容等ヲ檢討スル必要ガアルカラ、之ヲ信託會社ノミニ任シナイデ、主務官廳ノ認可ヲ必要トスル制度トシタノデアルト云フ答ガアリマシタ、且ツ主務官廳ガ此認否ヲ決定スルニ當リマシテハ、財界ノ實情ニ通ジタ人々ヲ委員ニ加ヘマシタ委員會ヲ組織シテ之ニ諮リ、其適切ヲ期シマシテ、且ツ認可事務ノ處理ニ當リマシテハ敏速ヲ期シテ、取引ノ圓滑ヲ害サヌヤウ注意シタイト云フ答辯ガアリマシタ、又他ノ一ツノ質疑ハ、株式ハ價格ノ變動ガ甚シイモノデアアルカラ、社債ノヤウナ長期債務ノ擔保トシテハ不適當デハナイカ、又若シ價格ノ變動ノ虞ナイモノノミヲ選ブトスルナラバ、社債ノ擔保ト爲シ得ル株式ノ範圍ト云フモノハ、極メテ局限セラレテ、折角斯ウ云フ制度ガ出來マシテモ、其效用ヲ期シ得ナイノデハナイカト云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテハ、社債ノ擔保ト爲スベキ株

式ハ、一定額以上ノ資本金ヲ有シ、業績良好ナルモノニシテ、價格ノ變動ノ虞レ少キモノニ限定シ、且ツ其擔保價格ヲ決定スルニ當テハ相當ノ掛目ヲ見テ、更ニ株式ヲ擔保トスル社債ノ期限ハ、長期ニ失セザルヤウ監督ヲ加ヘ、若シ萬一株式ガ低落シマスルヤウナ場合ニハ、増擔保ヲ徵シ得ルヤウ信託契約ニ明記致シマシテ、之ヲ厲行セシムル心算デアアル、是等ノ注意ノ下ニ株式ヲ社債ノ擔保トシテ認メルノデアアルカラ、何等差支ナイト思フト云フ答辯ガアリマシタ、尚ホ堅實デアッテ價格ノ變動ノ虞レ少イ株式ト云フモノハ、今日ノ經濟界ニ於テハ相當存スルモノダト考ヘルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、是等ノ質疑ノ後ニ討論ニ入りマシテ、民政黨ノ小山倉之助君カラ、此認可ニ付テハ出來ルダケ受託會社ノ自治ヲ重ンジテ、之ニ委ネラレタイト云フ希望意見ヲ述べラレテ、原案ニ賛成ノ旨ノ意見ノ開陳ガゴザイマシタ、之ニ對シテ政友會ノ東條貞君ガ賛成ナル旨ヲ述べラレテ、採決ニ入りマシタ所、全會一致ヲ以テ可決致シタ次第ゴザイマス、次ニ印刷局据置運轉資本補足ニ關スル法律案並ニ昭和九年法律第七號中改正法律案ノ二案ニ付キマシテ、經過並ニ結果ノ大要ヲ御報告申上ゲマス、是等ノ法律案ノ内容ニ付キマシテハ、既ニ本議場ニ於テ政府ヨリ説明ガアリマシタノデアリマスガ、極ク大體ノコトヲ此處デ申上ゲマスレバ、印刷局据置運轉資本補足ニ關スル法律案ハ、内閣印刷局ニ於ケル各種製造品ノ著シイ増加ニ伴ヒマシテ、現行作業會計法ニ規定スル据置運轉資本百方圓ヲ以テシマシテハ、事業ノ遂行上特ニ困難ヲ伴ヒマスルノデ、斯ル場合ニ於キマシテハ借入金ヲ爲シ、一時之ヲ補足シ得ル途ヲ開イテ置クト共ニ、其際ニ國庫餘裕金ガアリマシタナラバ、之ヲ繰替使用シ得ルヤウニ致シマシテ、事業ノ遂行ノ圓滑ヲ期セントスル法律案デアリマス、次ノ法律案ハ滿洲事件ニ關シ陸海軍人其他ニ對シ一時賜金トシテ交付スル爲メ公債ノ發行限度法定額ハ、現行法ニ於キマシテハ五千八百四十萬圓ト相成ッテ居リマスルガ、今回賜與人員ノ増加ニ伴ヒマシテ、右ノ公債發行限度法定額ヲ四百二十萬圓ダケ増加シテ、總額ヲ六千二百六十萬圓ニ改メヨウトスル法律案デアリマス、此二ツノ法律案ニ關シマシテハ、委員會ニ於テ慎重ニ審議ヲセラレマシタ結果、何レモ適當ナルモノト認メマシテ、全會一致可決致シマシタ次第ゴザイマ

ス、此段御報告申上ゲマス、

一五六四

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ハ委員會報告ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス五月十日法律第八十三號ヲ以テ公布セラル

### 七六 有價證券引受業法案(貴族院送付)

#### 有價證券引受業法

- 第一條 本法ニ於テ有價證券引受業トハ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス營業ヲ謂フ前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 有價證券引受業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ
- 第三條 有價證券引受業ハ資本金二百萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ
- 第四條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者(以下證券引受會社ト稱ス)ハ有價證券引受業ニ附隨スル業務又ハ有價證券ノ賣買若ハ其ノ媒介ノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ

受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得

第六條 證券引受會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

- 一 商號ヲ變更セントスルトキ
- 二 資本金ヲ變更セントスルトキ
- 三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ
- 四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第七條 證券引受會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條 證券引受會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條 證券引受會社ノ營業年度ハ六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ五月迄トス

第十條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十二條 主務大臣ハ何時ニテモ證券引受會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ證券引受會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ證券引受會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 證券引受會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル證券引受會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十七條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ有價證券引受業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ違反シ業務報告書ヲ提出セズ又ハ虛偽ノ業務報告書ヲ提出シタルトキ

二 第十一條ノ規定ニ違反シ公告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ公告ヲ爲シタルトキ

三 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ

四 第十三條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 第四條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出又ハ第十一條ノ規定ニ依ル公告ヲ怠リタルトキ

三 本法ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定ムル過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 銀行、信託會社又ハ特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ有價證券引受業ヲ營ム者ニハ本法ヲ適用セズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ有價證券引受業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三

月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

本法施行ノ際迄一年以上引續キ有價證券引受業ヲ營ム者第二項ノ期間内ニ免許ヲ申請スルトキハ本法施行後二年ヲ限リ第三條及第四條ノ規定ヲ適用セズ

右ハ昭和十三年三月五日貴族院ニ提出ス同院ハ同月十二日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月十五日日本案ノ第一讀會ヲ開キ太田大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ有價證券引受業法案ニ付テ御說明致シマス、御承知ノ如ク今日公社債ノ發行ハ、銀行債等一部特殊ノモノヲ除キ、其大部分ガ銀行、信託會社、又ハ證券引受業者ノ手ヲ經テ行ハレテ居ルノデアリマス、隨テ一般金融政策ノ上カラ見マシテモ、亦生産力擴充ニ要スル資金調達ノ點カラ考ヘマシテモ、證券引受業者ノ地位ハ重要ナルモノガアルノデアリマス、ソレニモ拘ラズ今日マデ之ニ對シ政府ニ於テ監督ヲ爲シ得ル途ガナカッタ爲ニ、尠カラズ不便ノ點ガアリマシタノデ、今回は等業者ノ業務ニ付キ監督ヲ加フルト共ニ、一面其業務ノ堅實ナル發展ヲ期スル爲メ、玆ニ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラシムコトヲ希望致シマス、

次テ本案ハ政府提出昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十五日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ續會ヲ開キ委員長寺島權藏君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ有價證券引受業法案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告申上ゲマス、御承知ノ如ク我國ノ起債市場ニ於テ活動致シテ居リマス所ノ公債社債引受機關ノ中デ、銀行又ハ信託會社ニ對シマシテハ、監督制度ハアルノデアリマスガ、獨リ有價證券引受業者ニ對シテハ、未ダ其制度ハナイノデアリマス、此度此引受業ヲ免許營業トシ、サウシテ銀行及ビ信託會社ト同様ノ監督ヲシテ行キタイト云フノガ、本案ノ趣旨ニナッテ居ルノデアリマス、委員會ハ二回開會致シマシテ、慎重審議ヲ致シマシタ、質疑ノ中デ御報告申上ゲタイト思ヒマスルノハ、有價證券ノ種類ニ付テ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府カラ、有價證券ノ種類ハ公債、社債、外國債、產業證券、恩給債券、庶民金庫債券ノ程度ニ止メタイト云フ答辯ガアリマシタ、ソレカラ將來本法ニ依リマシテ、此業務ヲ營マント致シマスル者ハ、資本金二百萬圓以上ノモノニ限定サレルノデアリマス、此資本金二百萬圓トシタノハ、ドウ云フ理由カト云フ質問ニ對シマシテ、政府カラ東京及ビ大阪ニ於テ本店ヲ持ッテ居リマスル所ノ銀行ノ資本ガ二百萬圓トナッテ居ルカラ、大概此程度デ宜カラウト思フト云フ答辯ガアッタノデアリマス、討論ニ入りマシテ、全會一致本案ハ有效適切ナル法案デアルト云フノデ可決致シマシタ、此段御報告申上ゲマス、

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス三月三十一日法律第五十四號ヲ以テ公布セラ

七七 硫酸アンモニア増産及配給統制法案

硫酸アンモニア増産及配給統制法

第一條 政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル硫酸アンモニア製造設備ノ新設又ハ増設ヲ爲シタル硫酸アンモニア製造業者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ設備ヲ以テ營ム硫酸アンモニア製造業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス

前項ノ硫酸アンモニア製造業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ硫酸アンモニア製造業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得税及營業收益税ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラレタル硫酸アンモニア製造業者ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 硫酸アンモニア製造業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル

者ハ前事業者ガ本法ニ依ル所得税及營業收益税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第四條 第一條第一項ニ規定スル硫酸アンモニア製造業ノ爲必要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第五條 第一條第一項ニ規定スル硫酸アンモニア製造業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第六條 硫酸アンモニア製造業者タル株式会社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第七條 硫酸アンモニア製造業者タル株式会社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ其ノ限ニ在ラズ

第八條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ硫酸アンモニア製造業者ニ對シ硫酸アンモニア製造設備ノ増設又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ硫酸アンモニア製造業者ノ行フ硫酸アンモニア製造事業ニ依リ硫酸アンモニアノ供給ヲ確保スルコト困難ナリト認ムルトキハ日本硫酸株式會社ニ對シ硫酸アンモニア製造設備ノ新設、増設又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前二項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ日本硫酸株式會社ニ對シ硫酸アンモニアノ配給統制上又ハ供給確保上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 硫酸アンモニア製造業者及命令ヲ以テ定ムル硫酸アンモニアノ取扱ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ取扱ニ係ル硫酸アンモニアヲ日本硫酸株式會社ニ賣渡スベシ

第十一條 政府ハ硫酸アンモニア製造業者又ハ前條ニ規定スル硫酸アンモニアノ取扱ヲ爲ス者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 日本硫酸株式會社ハ硫酸アンモニアノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第十三條 日本硫酸株式會社ノ資本ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第十四條 日本硫酸株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十五條 日本硫酸株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第十六條 日本硫酸株式會社ニ非ザルモノハ日本硫酸株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十七條 日本硫酸株式會社ニ取締役五人以上及監査役二人以上ヲ置ク

取締役ハ株主總會ニ於テ選舉シタル候補者中ヨリ政府之ヲ命ズ

第十八條 日本硫酸株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 硫酸アンモニアノ買入及販賣



二 硫酸アンモニアノ輸出、輸入、移出及移入

三 硫酸アンモニアノ製造其ノ他硫酸アンモニアノ供給確保上必要ナル事業但シ硫酸アンモニ

ニアノ製造ハ硫酸アンモニア製造業者ノ行フ硫酸アンモニア製造事業ニ依リ硫酸アンモニ

アノ供給ヲ確保スルコト困難ナリト認めラルル場合ニ限ル

四 其ノ他硫酸アンモニアノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業

前項第三號又ハ第四號ニ掲グル事業ヲ營マントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十九條 日本硫酸株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ硫酸債券ヲ發行スルコトヲ得

硫酸債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第二十條 硫酸債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十一條 政府ハ硫酸債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第二十二條 硫酸債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ

得

第二十三條 硫酸債券ノ所有者ハ日本硫酸株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權

ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第二十四條 日本硫酸株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ硫酸債券ヲ發行ス

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊硫酸債券ヲ償還ス  
ベシ

第二十五條 日本硫酸株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百  
分ノ八以上ヲ積立ツベシ

第二十六條 日本硫酸株式會社ハ拂込ミタル株金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割合ヲ超エテ利益  
ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 政府ハ日本硫酸株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十八條 日本硫酸株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 日本硫酸株式會社ノ定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可  
ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十條 日本硫酸株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セ

ントスルトキ亦同ジ

第三十一條 日本硫酸株式會社ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外政府ノ認可ヲ受ケタル價格

ニ依ルニ非ザレバ硫酸アンモニアノ買入、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ヲ爲スコトヲ得

ズ

第三十二條 政府ハ日本硫安株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 政府ハ日本硫安株式會社監理官ヲ置キ日本硫安株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第三十四條 日本硫安株式會社監理官ハ何時ニテモ日本硫安株式會社ノ帳簿書類、金庫其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

日本硫安株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本硫安株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本硫安株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十五條 政府日本硫安株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第三十六條 重要肥料業統制法第十條第一項ノ規定ハ日本硫安株式會社ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十七條 第九條ノ規定ニ依ル命令又ハ第十條若ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ

若ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 人又ハ法人ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業員ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條 左ノ場合ニ於テハ日本硫安株式會社ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
- 二 第十八條第一項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ
- 三 第十九條ノ規定ニ違反シ硫安債券ヲ發行シタルトキ
- 四 第二十四條ノ規定ニ違反シ硫安債券ノ償還ヲ爲サザルトキ
- 五 第三十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第四十三條 第十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

臨時肥料配給統制法第一條第一項ノ規定ニ依リ硫酸アンモニアノ配給統制上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ゼラレタル株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ商法第二百九條ニ定ムル株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ日本硫酸株式會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ名稱ノ變更其ノ他定款ノ變更ノ決議ヲ爲シ且第十七條第二項ノ取締役候補者ノ選舉ヲ行フコトヲ要ス

前二項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二項ノ決議ナキ場合ニ於テハ政府ハ設立委員ヲ命ジ日本硫酸株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

前二項ニ定ムルモノノ外日本硫酸株式會社ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
登錄税法第六條第一項第十一號中「東北興業債券」ノ下ニ「硫酸債券」ヲ加フ

右ハ昭和十三年三月十二日本院ニ提出ス同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ有馬農林大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程ニ相成リマシタ硫酸アンモニア増産及配給統制法案ハ、商工、農林兩省共同提案ニ係ルモノデアリマスガ、便宜私カラ大體ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、硫酸「アンモニア」消費額ハ、我國肥料消費額ノ首位ヲ占メ、其消費増加ノ趨勢ハ、極メテ著シイモノガアリマス、之ニ對シ硫酸「アンモニア」ノ供給ヲ潤澤ナラシムルト共ニ、其配給ノ圓滑及ビ價格ノ公正ヲ圖リマスコトハ、農業經營ノ改善、特ニ銃後農村經濟ノ安定ト農業生産ノ確保上、極メテ緊要デアリマスノミナラズ、他面硫酸「アンモニア」製造事業ノ軍需工業トシテノ重要ナル意義ニ照シマシテモ、頗ル緊要トスル次第デアリマス、然ルニ硫酸「アンモニア」ノ國內生産ハ、遺憾ナガラ需要ノ増加ニ應ズルコトヲ得マセヌノデ、毎年海外ヨリ相當多額ノ輸入ヲ餘儀ナクセラレ、肥料政策上種々支障ヲ生ジマスルト共ニ、多額ノ對外支拂ヲ致シテ居ル次第デアリマス、隨ヒマシテ硫酸「アンモニア」製造事業ヲ確立シ、年々増大スル需要ニ應ジ得ベキ、十分ナル數量ノ供給ヲ確保致シマシテ、海外依存ノ状態ヲ脱却シ、有事ノ際ニ於ケル軍需資材生産ヘノ轉換ヲモ考慮シテ、相當ノ輸出餘力ヲ保有スル程度ニ達セシメマスルト共ニ、一方需要著増ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、是ガ配給機構ノ確立ヲ圖リ、硫酸「アンモニア」ノ需給ノ圓滑ト、價格ノ公正ヲ期スル方策ヲ講ジマスルコトハ、我國産業ノ發展ト國防ノ安固ヲ期シ、國際貸借ノ改善ニ資スル上ニ於テ、現下ノ急務トスル所デアリマス、本法案ハ右ノ趣旨ニ基キマシテ立案セラレタモノデアリマスガ、其骨子ト致シマスル所ハ、大要以下ノ通りデアリマス、第一點ハ、民間ニ於ケル硫酸「アンモニア」製造事業ノ擴充ヲ促進致シマスル爲ニ、今後五箇年間ニ硫酸「アンモニア」製造設備ヲ新設又ハ増設ヲ致シマスル者ニ對シ、其設備ヲ以テ營ム硫酸「アンモニア」製造業ニ付、一定年間諸稅及ビ器具機械ノ輸入稅ノ免除、其他事業資金ノ調達上ノ便宜ヲ得シムル爲ニ、株金全額拂込前ノ増資ヲ認メ、又社債發行限度ヲ擴張スル等、諸種ノ保護特典ヲ與フルコトヲ致シマ

スルト共ニ、必要ニ應ジテ硫酸「アンモニア」ノ製造業者及ビ日本硫酸株式會社ニ對シ、増産ノ命令ヲ爲スコトトシ、速ニ硫酸「アンモニア」ノ自給ヲ圖ラントスルノデアリマス、第二點ハ、資本金一千万圓ノ特殊會社ヲ設立セシメ、之ニ對シ社債發行限度ノ擴張ヲ認ムルト共ニ、政府ハ社債ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトトシ、硫酸「アンモニア」ノ配給統制事業ヲ行ハシメ、且ツ必要アル場合ニ於テハ、本會社ヲシテ硫酸「アンモニア」ノ製造、其他供給確保上必要ナル事業ヲモ行ハシメントスルノデアリマス、詳細ハ委員會ニ於テ御説明申上グルコトト致シマスガ、何卒十分御審議ノ上速ニ御協賛アラント希望致シマス

松田喜三郎君、吉植庄亮君及須永好君質疑ヲ爲シ有馬農林大臣應答ス

松田喜三郎君ノ質疑

本案ノ提出ハ既ニ早クヨリ豫想サレテ居ッタニ拘リマセズ、漸ク只今吾々ハ此議席ニ於テ本案ヲ受取ッタヤウナ次第デアリマス、如何ナル理由ニ依ッテ斯クモ遅延シタノデアルカ、吾々ハ本案ノ内容ニ付テ未ダ研究スル餘地モナイノデアリマスガ、本案ガ國防上、國民生活上、銃後農村經營上、殊ニ農村ニ重大ナル關係ヲ持ッテ居リマス本會社ナルガ故ニ、一刻モ速ニ議シテ委員會ニ送リタイ爲ニ、緊急上程ニ同意ヲシタモノデアリマスガ、議會ニソレ程ノ熱意ガアルニモ拘リマセズ、此法案ガ會期切迫ノ今日顔ヲ出スト云フニ至ッテハ、政府ノ怠慢デハナイカト思フノデアリマス、斯クモ遅延シタル理由、之ヲ農相ヘ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス、現在我國十二肥料年度ノ硫酸ノ需給關係ヲ見マスト、消費量ハ約百八十万噸ニ對シマシテ、國內生産ハ約百五十萬噸デアリマス、更ニ其上他面不足スル額ハ二十餘萬噸ニ達シテ居リマスガ、是ハ外國ヨリ輸入ヲ仰イデ居ルヤウナ状態デアリマス、何時マデモ二十萬噸宛ノ消費ガ累進的ニ増加ヲ致シテ居ルト私ハ思ウテ居リマス、故ニ吾々ト致シマシテハ、ドウカ早ク増産計畫ヲ政府ハ御立テニナッテ、サウシテ此外國カラ輸入スル所ノ硫酸ヲ防ギタイ、即チ此外

國カラ輸入スル所ノ二十萬噸ニ對スル所ノ補償金額ト致シマシテモ、年々二百二十萬圓ヲ要シテ居ルヤウナ状態デゴザイマス、故ニ一日モ早ク本案ノ如キモノヲ提出セラレントラ望ムデ居ッタノデアリマス、此法案ヲ見マスト云フト、非常ナ特典ヲ民間ノ既設會社ニ與ヘラレテ居ルモノデアリマスガ、斯クモ澤山ナル所ノ特典ヲ與ヘテアレバ、必ズヤ増産ガ出來ルト云フ御見込ガアルカナイカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、即チ本法案ノ第一條乃至二、三、四、五條ニ依ッテ見マスト云フト、此増産ノ爲ニ既設會社ニ對シテ、五箇年間ハ所得税モ營業收益税モ、道府縣市町村ニハ地方税ヲモ附加サセナイノデアリマス、其上ニ機械ノ輸入ニ付キマシテモ、五箇年間ト云フモノハ輸入税ヲ免除シテ居リマス、又其上ニ土地收用法マデ與ヘテ、以テ此増産ヲサセヨウト云フノデアリマス、斯ノ如ク獎勵シテ居リマスガ、此増産法ニ依ッテ硫酸ノ増産量ハ如何ニ殖エマスカ、又此價格ハ現在ニ比シマシテ幾許ノ低下ヲ見ルコトガ出來ルノデアルカ、此點ニ付テ農相ヨリ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス、次ニ此法案ヲ見マスト、民間ニ於ケル硫酸製造會社ガ増産ヲシナカッタ場合ニハ、大臣ノ御説明ニ依ッテ見マスト、日本硫酸株式會社ニ製造サセルノデアアル、斯ウ仰シヤッタノデゴザイマス、尤モ此會社ハ一千万圓デアッテ、現在ハ半額ノ拂込デアリマスガ、四分ノ一拂込ダラウト思ッテ居リマスガ、全額ヲ拂込ミマスト一千万圓デアラウカト私ハ思ッテ居リマス、其拂込額ノ五倍ニ達スル迄社債ヲ許ス御見込ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、マダ是レ以上議案ヲ讀ム時間ガアリマセヌノデ、私達ハ十分其内容ヲ知ルコトガ出來マセスカラ、此機會ニ日本硫酸製造株式會社ノ内容ト云フモノヲ、具體的ニ御説明ヲ煩ハシタイノデゴザイマス、簡單デアリマスガ以上ノ質問ヲ致シマス、要スルニ今迄政府ハ一日モ早ク此増産計畫ヲ立テテ、自給自足ヲセシムルト云フ言葉ダケデアリマシタガ、今度ハ立派ニ此法案ガ出タノデアリマス、ソレニ依ッテ完全ニ、確實ニ、今迄政府ガ稱ヘテ居ッタ所ノ増産計畫ヲ確實ニ立テ得ルヤ否ヤ、又年々二十萬噸宛増加スル所ノ消費量ニ對シテ、此法ヲ以テ完全ニ増産シ、需給ヲ完全ニスルト云フコトトガ出來ルヤ否ヤ、此點ヲ御伺シタイノデアリマス